

(様式第 10)

京大病サ企第 38 号  
平成 26 年 10 月 2 日

厚生労働大臣 殿

京都大学医学部附属病院  
病院長 三嶋 理晃 (印)

京都大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒606-8501 京都市左京区吉田本町
氏 名	国立大学法人 京都大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

京都大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54	電話(075)751-3111
--------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1神経内科 2 3 4 5 6 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無					
外科と組み合わせた診療科名						
1形成外科	2心臓血管外科	3呼吸器外科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科		15麻酔科	16救急科			

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名						
1矯正歯科	2歯科口腔外科	3	4	5	6	7
歯科の診療体制						
当院では関連各科と連携して集学的治療を行い、特定機能病院の歯科口腔外科として、重度の障害を呈する疾患、すなわち口腔腫瘍、顎変形症、顎関節症、歯槽堤萎縮症、睡眠時無呼吸症候群、舌痛症などに対して高次で高度な医療を提供している。						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1循環器科	2リハビリテーション科	3病理診断科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
60床	0床	15床	0床	1,046床	1,121床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	585人	143.0人	728.0人	看 護 補 助 者	73人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	26人	0.4人	26.4人	理 学 療 法 士	22人	臨 床 検 査 技 師	88人
薬 剤 師	92人	4.0人	96.0人	作 業 療 法 士	10人	衛 生 検 査 技 師	1人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	11人	そ の 他	0人
助 産 師	32人	0人	32人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	964人	35.6人	999.6人	臨 床 工 学 技 士	26人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	8人
准 看 護 師	0人	0.9人	0.9人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	137人
歯 科 衛 生 士	5人	3.0人	8.0人	歯 科 技 工 士	3人	事 務 職 員	312人
管 理 栄 養 士	15人	0.7人	15.7人	診 療 放 射 線 技 師	64人	そ の 他 の 職 員	165人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	37人	眼 科 専 門 医	16人
外 科 専 門 医	71人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	17人
精 神 科 専 門 医	12人	放 射 線 科 専 門 医	31人
小 児 科 専 門 医	20人	脳 神 経 外 科 専 門 医	8人
皮 膚 科 専 門 医	10人	整 形 外 科 専 門 医	21人
泌 尿 器 科 専 門 医	11人	麻 酔 科 専 門 医	14人
産 婦 人 科 専 門 医	21人	救 急 科 専 門 医	9人
		合 計	298人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	892.3人	16.9人	909.2人
1日当たり平均外来患者数	1,810.2人	77.9人	1888.2人
1日当たり平均調剤数			1,106.1剤
必要医師数			203人
必要歯科医師数			7人
必要薬剤師数			31人
必要(准)看護師数			518人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

## 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	485.22m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	29床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 770.90m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	49床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 73.12m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	591m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動生化学分析装置、全自動血球計数装置			
細菌検査室	196m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動血液培養検査装置、全自動細菌検査装置			
病理検査室	369m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動包埋装置、自動染色装置			
病理解剖室	57m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、写真撮影装置			
研究室	22553.86m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 電子顕微鏡、遠心分離機			
講義室	496m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	389人
図書室	572m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	6室	蔵書数	260,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

## 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	67.7%	逆紹介率	60.9%
算出根拠	A：紹介患者の数	15,218人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	14,447人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	844人	
	D：初診の患者の数	23,703人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	17人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術	4人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
短腸症候群又は不可逆的な機能性小腸不全に対する脳死ドナーからの小腸移植	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
重症低血糖発作に伴うインスリン依存性糖尿病に対する脳死ドナー又は心停止ドナーからの膵島移植 重症低血糖発作に伴うインスリン依存性糖尿病	1人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法	49人
神経症状を呈する脳放射線に対する核医学診断及びベバシズマブ静脈内投与療法	0人
ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺がん(扁平上皮肺がん及び小細胞肺がんを除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	8人
術前のホルモン療法及びゾレドロン酸投与の併用療法 閉経後のホルモン感受性の乳がん(長径が五センチメートル以下であって、リンパ節転移及び遠隔転移しておらず、かつ、エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	7人
食道がんの根治的治療がなされた後の難治性の良性食道狭窄に対する生分解性ステント留置術 食道がんの根治的治療がなされた後の難治性の良性食道狭窄(内視鏡による検査の所見で悪性ではないと判断され、かつ、病理学的見地から悪性ではないことが確認されたものであって、従来の治療法ではその治療に係る効果が認められないものに限る。)	1人
ラジオ波焼灼システムを用いた腹腔鏡補助下肝切除術 原発性若しくは転移性肝がん又は肝良性腫瘍	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	経皮的動脈弁置換術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 経皮的に動脈弁を置換する治療、2013年12月から開始。			
医療技術名	経皮的な心房中隔欠損症閉鎖術	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 閉鎖栓を経皮的にカテーテルを用いて心房中隔欠損を閉鎖するための治療方法。 開胸手術に比較して患者さんの普段が少ないため短期間の入院で施術が可能である。			
医療技術名	HBV陽性肝移植レシピエントならびにHBc抗体陽性ドナーからの肝移植後患者に対するHBVワクチン治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 HBV陽性患者に移植をする、あるいはHBc抗体陽性ドナーから移植を受けると、高率に術後HBV肝炎が生じるために、これを予防する目的で移植後患者にHBVワクチンを投与する。			
医療技術名	難治性消化管狭窄に対する切開法(Radial incision and cutting)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 早期食道癌患者に対するESD、あるいは進行食道癌に対する放射線治療後に食道狭窄をしばしば来すが、これに対して、狭窄部を内視鏡的に切除する治療法。			
医療技術名	頭頸部表在癌に対する経口的内視鏡切除術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 頭頸部癌は早期ガンであっても今まで手術が行われていたが、これを全身麻酔下に内視鏡的に切除する治療法。			
医療技術名	慢性B型肝炎に対するHBVワクチン療法	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 慢性B型肝炎については、高ウイルス療法はあるものの、ウイルス除去は不可能である。 また抗ウイルス療法は一生継続する必要がある。このため、ワクチンを使用することによって、抗ウイルス療法の終焉を期待する治療法。			
医療技術名	食道癌CRT後局所遺残再発に対する光線力学療法(PDT)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 食道癌化学放射線治療後の局所遺残再発に対して今まで外科手術が行われていたが、侵襲の少ないタラポルフィリンナトリウム(レザフィリン)及び半導体レーザー(PDレーザー)を用いた光線力学療法で局所の根治を期待する治療法。			
医療技術名	食道癌根治的治療後の難治性狭窄に対する生分解性ステント留置術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 食道癌に対して治療後根治状態であるが、難治性狭窄をきたした症例に対して生分解性ステントを用いて狭窄を解除する治療法。			
医療技術名	局所進行膵癌に対する超音波内視鏡下金マーカー留置術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 局所進行膵癌と診断され放射性治療を予定されている症例に対して、超音波内視鏡下に体内植込金属マーカーを留置することにより、放射線治療時に正確な腫瘍位置の確認を可能とする治療法。			
医療技術名	RNA免疫沈降法による自己抗体の解析	取扱患者数	1000人
当該医療技術の概要 RNA免疫沈降法によってRNA結合蛋白に対する自己抗体が同定される。本技術により、炎症性筋疾患の予後予測や病型分類に役立つ。全国で数か所しかルーチンで行っていない技術である。			
医療技術名	蛋白免疫沈降法による自己抗体の解析	取扱患者数	200人
当該医療技術の概要 蛋白免疫沈降法によって細胞内蛋白に対する自己抗体が同定される。本技術により、炎症性筋疾患の予後予測や病型分類に役立つ。全国で数か所しかルーチンで行っていない技術である。			



医療技術名	家族性パーキンソン病の遺伝子診断	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 パーキンソン病では遺伝子異常に基づく診断が必要となる場合があり、患者および家族に説明・同意の上で検査、診断を行っている。			
医療技術名	家族性てんかんの遺伝子診断	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 てんかんでは遺伝子異常に基づく診断が必要となる場合があり、患者および家族に説明・同意の上で検査、診断を行っている。			
医療技術名	家族性脊髄小脳変性症の遺伝子診断	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 脊髄小脳変性症では遺伝子異常に基づく診断が必要となる場合があり、患者および家族に説明・同意の上で検査、診断を行っている。			
医療技術名	家族性運動ニューロン疾患の遺伝子診断	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 運動ニューロン疾患では遺伝子異常に基づく診断が必要となる場合があり、患者および家族に説明・同意の上で検査、診断を行っている。			
医療技術名	脳波・機能的MRI同時計測によるてんかん病態の診断	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 薬剤抵抗性てんかんにおいて、てんかん外科の術前評価として、長時間ビデオ脳波モニタリング、各種非侵襲的脳機能マッピング(脳磁図、機能的MRI)による診断を行っている。			
医療技術名	食道がん化学放射線療法後遺残再発に対する救済光線力学療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 食道がん化学放射線療法後の食道内遺残再発病変に対する新規光線力学療法を用いた根治的救済治療			
医療技術名	難治性消化管狭窄に対するRadial Incision and Cutting (RIC)法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 バルーン拡張術に抵抗な難治性消化管狭窄に対し、切開法を用いて狭窄を解除する方法			
医療技術名	咽喉頭表在がんに対する全身麻酔下経口的内視鏡切除術	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 これまで発見が困難だった咽喉頭がんを早期発見し、臓器・機能温存で根治的切除をする方法			
医療技術名	肺胞出血を呈する全身性エリテマトーデスおよび顕微鏡的多発血管炎に対する新鮮凍結血漿を用いた血漿交換	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 肺胞出血を呈する全身性エリテマトーデスおよび顕微鏡的多発血管炎に対して新鮮凍結血漿を用いた血漿交換を行った			
医療技術名	強皮症クリーゼによる血栓性微小血管症に対する新鮮凍結血漿を用いた血漿交換	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 強皮症クリーゼによる血栓性微小血管症に対して新鮮凍結血漿を用いた血漿交換を行った			
医療技術名	血球貪食症候群に対する新鮮凍結血漿を用いた血漿交換	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 血球貪食症候群に対して新鮮凍結血漿を用いた血漿交換を行った			
医療技術名	肝移植後の血栓性微小血管症に対する新鮮凍結血漿を用いた血漿交換	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 肝移植後の血栓性微小血管症に対して新鮮凍結血漿を用いた血漿交換を行った			

医療技術名	皮膚筋炎に合併する肺線維症の急性増悪に対する新鮮凍結血症を用いた血漿交換	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 皮膚筋炎に合併する肺線維症の急性増悪に対して新鮮凍結血症を用いた血漿交換を行った			
医療技術名	ロボット支援下直腸癌手術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 da Vinciを用いた直腸癌手術(低位前方切除、直腸切断術など)			
医療技術名	ロボット支援下胃癌手術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 da Vinciを用いた胃全摘、幽門側胃切除、噴門側胃切除			
医療技術名	ロボット支援食道癌手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 胸腔内操作をda Vinciを用いて行う食道癌手術			
医療技術名	原発性乳癌の腋窩リンパ節転移を予測するwebツール	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 原発性乳がん患者を対象に治療を開始する前の臨床病理学的情報を用いて腋窩リンパ節転移の有無を予測するwebツール。			
医療技術名	原発性乳癌の術前化学療法後の病理学的治療効果を予測するwebツール	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 原発性乳癌患者を対象に治療を開始する前の臨床病理学的情報を用いて術前化学療法の病理学的治療効果(病理学的完全奏効)を予測するwebツール。			
医療技術名	閉経後・ホルモン感受性乳癌における術前Exemestane(EXE)療法、EXE+TC療法併用療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 閉経後・ホルモン感受性乳癌を対象に術前Exemestane(EXE)療法を施行。良好な効果が得られれば治療を続行、得られなければEXE+TC療法併用療法に変更する治療法			
医療技術名	ホルモン受容体陰性・HER2陰性乳癌、Basal-like乳癌の術前シスプラチン療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 ホルモン受容体陰性・HER2陰性乳癌、Basal-like乳癌の患者を対象に術前治療としてシスプラチンを含む化学療法を施行。高い抗腫瘍効果があり、手術療法への貢献、予後の改善が期待される。			
医療技術名	HER2陽性患者を対象にした抗HER2併用療法による術前治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 HER2/ErbB2 陽性の原発性乳癌患者を対象とした術後補助療法におけるラパチニブ単独療法、トラスツズマブ単独療法、両剤の逐次療法、および両剤併用療法の検討			
医療技術名	HER2陽性原発性乳癌の術後化学療法+トラスツズマブ+ペルツズマブ療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 手術可能なHER2陽性原発性乳癌の術後療法としての化学療法+トラスツズマブ+ペルツズマブ療法			
医療技術名	HR陽性、HER2陰性の閉経後転移性乳癌に対するBKM120療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 HR陽性、HER2陰性の閉経後局所進行性又は転移性乳癌患者でアロマターゼ阻害剤に耐性を示す症例を対象にしたBKM120療法			
医療技術名	造血細胞移植後のMAIT細胞数、iNKT細胞数の推移についての検討	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要: 造血幹細胞移植を受けた患者に対して末梢血中のMAIT細胞、iNKT細胞数を継時的に測定し、(1)各腸管合併症別の鑑別や病勢変化の予測にMAIT細胞、iNKT細胞数の変化が有用なのか、(2)治療前のMAIT細胞、iNKT細胞数が各腸管合併症の発症予測に有用なのかを検証することを目的とする。			
医療技術名	ダウン症の骨髄性白血病患者における微小残存病変の検出	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 ダウン症患児に発症した骨髄性白血病の治療経過中の骨髄微小残存病変をフローサイトメトリーを用いて検出し、予後との相関を前方視的に調査する			

医療技術名	ロボット支援下腎部分切除術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 手術ロボットダビンチを使用した高度な腎部分切除術			
医療技術名	ロボット支援下膀胱全摘術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 手術ロボットダビンチを使用した高度な膀胱全摘術			
医療技術名	Endoscopic laryngo-pharyngeal surgery	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 咽喉頭表在癌を経口的に切除する超低侵襲手術である。			
医療技術名	経側頭骨頭蓋底外科手術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 側頭骨頭蓋底に生じた病変を、広範に側頭骨を削開することにより脳実質の圧排を行わずに手術する。神経モニタ、ナビゲーションを組み合わせて患者の負担を最小限にする。			
医療技術名	内視鏡下経鼻頭蓋底腫瘍摘出術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 前頭蓋底に生じた腫瘍性病変を内視鏡下経鼻アプローチにて摘出する低侵襲手術である。			
医療技術名	経口的ロボット支援手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 手術支援ロボットを用いて早期咽喉頭癌を経口的に切除する次世代の頭頸部癌治療である。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 重症あるいは薬物治療抵抗性の気分障害、緊張病状態に有効性の高い身体治療で、麻酔科医協力の下、日帰り手術室で全身麻酔下に行われる。			
医療技術名	薬物治療抵抗性統合失調症患者に対するクロザピン治療	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 複数の抗精神病薬に反応が乏しい重症の統合失調症患者を対象に、副作用モニタリングを行いながら非定型抗精神病薬のクロザピンによる薬物療を行う。			
医療技術名	早期肺癌および肝癌に対する動体追尾定位放射線治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 肺癌や肝癌の呼吸性移動に合わせて放射線治療ビームの方向を変えることで、常に照射野を癌に局限した状態で行う放射線治療。従来の治療法と比較して、癌病巣への線量を損なうことなく、正常肺または肝臓の線量を約20%低減することが可能となった。			
医療技術名	局所進行膵癌に対する動体追尾強度変調放射線治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 動体追尾機能と強度変調放射線治療(IMRT)とを組み合わせた革新的な治療法であり、治療の難しかった局所進行膵癌に対して実施している。従来法と比較して治療強度を大きく高めつつ、周囲臓器への線量は低く抑えることが可能となった。			
医療技術名	乳癌に対する加速乳房部分照射	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 早期乳癌の乳房温存手術後の放射線治療において、部分乳房に対し、1回線量を上げて、照射回数を減らして照射することによって、周囲の正常臓器を守りつつ、従来5週間必要であった放射線治療が2週間で完了することができる治療法である。			
医療技術名	覚醒下手術	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 てんかん、脳腫瘍の手術で術中に覚醒し、神経機能、脳波検査を実施する			

医療技術名	functiona MRI	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 MRIを用いて脳機能マッピングを行い、摘出可能領域を決定する			
医療技術名	和田テスト	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 頸動脈よりプロポフォールを投与し、脳機能を解析する			
医療技術名	慢性硬膜下電極留置	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 硬膜下電極を留置し、脳機能、てんかん焦点を解析する			
医療技術名	内視鏡下腫瘍摘出術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 内視鏡単独での腫瘍摘出術			
医療技術名	巨大動脈瘤に対する血流改変治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 クリッピングが不可能な巨大脳動脈瘤に対する血流改変により、血栓化、縮小を得る治療			
医療技術名	特定疾患ウイリス動脈輪閉塞症に対する外科的治療	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 特定疾患ウイリス動脈輪閉塞症に対する直接バイパスを用いた治療			
医療技術名	脳磁図を用いた脳機能局在の解析	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 脳磁図を用いた脳機能局在、てんかん焦点の術前評価			
医療技術名	新しい診断法に基づいたケロイドに対する集学的治療	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 難治性疾患であるケロイドに対し新しい客観的診断法を開発し、集学手金治療法の評価を行っている			
医療技術名	露出部の手術痕を最小限とする整容面を重視した手足先天異常手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 合趾症手術において、術後の痕形成を最初威厳とする新術式を開発した			
医療技術名	最小限の皮膚切開で軟骨再生を促す肋軟骨採取法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 小耳症手術における肋軟骨採取時に小皮膚切開で軟骨再生が可能な術式を使用している			
医療技術名	鼻咽腔閉鎖機能不全に対して正常機能を温存した機能的咽頭弁形成術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 従来の咽頭弁法と異なり、本来の鼻咽腔機能を温存できる術式			
医療技術名	心臓移植適応患者に対する植込み型補助人工心臓装着手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 心臓移植の適応と判断された末期重症心不全患者に対し、心臓移植までの橋渡し治療として体内植込み型補助人工心臓が2011年より保険償還されたが、当院においても施設認定や院内体制整備の後、2014年1月に京滋地区初となる本手術を施行した。これまで2例の患者に施行し、良好な経過をたどっている。			

医療技術名	経カテーテル的大動脈弁置換術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 大動脈弁狭窄症患者は高齢化とともに増加の一途をたどっている。しかしながら高齢であること、呼吸機能や腎障害など併存疾患のために通常的人工心肺を使用して行う開心術が高リスクで施行できない患者も多く存在する。本治療はカテーテルを用いて血管内から人工弁を挿入・留置する低侵襲の手術であり、2013年11月に当院で導入したハイブリッド手術室でのみ施行が認められた新しい治療法である。循環器内科と合同で2013年12月に第1例目を施行後、年度内に4名に行い経過は良好である。			
医療技術名	食道がん化学放射線療法後遺残再発に対する救済光線力学療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 食道がん化学放射線療法後の食道内遺残再発病変に対する新規光線力学療法を用いた根治的救済治療			
医療技術名	疾患の原因特定につながる遺伝子検査および遺伝カウンセリング	取扱患者数	63人
当該医療技術の概要 現在、様々な疾患について、原因遺伝子が特定されつつあるが、生殖細胞系列の異常である場合は、その遺伝形式や家族への影響につき、有資格者(臨床遺伝専門医および認定遺伝カウンセラー)による十分なカウンセリングが必要であり、これを提供している。			
医療技術名	関節超音波を用いた関節リウマチ診療	取扱患者数	200人
当該医療技術の概要 理学所見および検査所見に加えて関節超音波により、診断および活動性を評価する。			
医療技術名	頭皮上脳波の直流電位変動の神経フィードバック法	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 難治性てんかん患者を対象に、頭皮上脳波をリアルタイムで視覚的に観察できるシステムを用いて、患者自身の脳波緩電位成分を陰性あるいは陽性方向に変位させる訓練を行う。脳の興奮性を自律的に抑制することにより、脳の発作焦点における神経細胞の過剰興奮を抑え、発作頻度の減少を目的とする。			
医療技術名	薬物動態に関わる遺伝子の多型解析	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 タクロリムスなどの体内動態を予測するため、患者の血液からDNAを精製し、遺伝子型を判定する。			
医療技術名	保険算定外の薬物血中濃度測定	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 シロリムス、イトラコナゾールなど、治療上必要であるが保険算定外の薬物について、血中濃度測定および解析を行う。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	127人	・膿疱性乾癬	11人
・多発性硬化症	90人	・広範脊柱管狭窄症	11人
・重症筋無力症	101人	・原発性胆汁性肝硬変	89人
・全身性エリテマトーデス	550人	・重症急性膵炎	10人
・スモン	4人	・特発性大腿骨頭壊死症	73人
・再生不良性貧血	59人	・混合性結合組織病	67人
・サルコイドーシス	169人	・原発性免疫不全症候群	20人
・筋萎縮性側索硬化症	44人	・特発性間質性肺炎	132人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	408人	・網膜色素変性症	190人
・特発性血小板減少性紫斑病	52人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	73人	・肺動脈性肺高血圧症	30人
・潰瘍性大腸炎	267人	・神経線維腫症	33人
・大動脈炎症候群	101人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	25人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	15人
・天疱瘡	32人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	12人
・脊髄小脳変性症	57人	・ライソゾーム病	2人
・クローン病	169人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	20人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	60人	・脊髄性筋委縮症	4人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	162人	・球脊髄性筋委縮症	2人
・アミロイドーシス	8人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	13人
・後縦靭帯骨化症	54人	・肥大型心筋症	9人
・ハンチントン病	4人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	222人	・ミトコンドリア病	10人
・ウェゲナー肉芽腫症	16人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	26人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	94人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	32人	・黄色靭帯骨化症	5人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	7人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	136人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・精神科救急搬送患者地域連携紹介加算
・歯科外来診療環境体制加算	・総合評価加算
・特定機能病院入院基本料	・病棟薬剤業務実施加算
・臨床研修病院入院診療加算	・データ提出加算
・救急医療管理加算	・特定集中治療室管理料
・超急性期脳卒中加算	・ハイケアユニット入院医療管理料
・妊産婦緊急搬送入院加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・診療録管理体制加算	・新生児特定集中治療室管理料
・急性期看護補助体制加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・看護補助加算	・小児入院医療管理料2
・療養環境加算	・精神科急性期治療病棟入院料1
・重症者等療養環境特別加算	・短期滞在手術基本料1
・無菌治療室管理加算	・摂食障害入院医療管理加算
・緩和ケア診療加算	
・精神科応急入院施設管理加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・がん診療連携拠点病院加算	
・医療安全対策加算	
・感染防止対策加算	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊婦管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・退院調整加算	
・救急搬送患者地域連携紹介加算	
・救急搬送患者地域連携受入加算	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・時間内歩行試験
・高度難聴指導管理料	・胎児心エコー法
・糖尿病合併症管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・がん患者カウンセリング料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・外来緩和ケア管理料	・脳磁図
・移植後患者指導管理料	・神経学的検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・ロービジョン検査判断料
・夜間休日救急搬送医学管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・外来放射線照射診療料	・小児食物アレルギー負荷検査
・ニコチン依存症管理料	・内服・点滴誘発試験
・地域連携診療計画管理料	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
・がん治療連携計画策定料	・画像診断管理加算1
・がん治療連携管理料	・画像診断管理加算2
・肝炎インターフェロン治療計画料	・遠隔画像診断
・薬剤管理指導料	・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・医療機器安全管理料1	・CT撮影及びMRI撮影
・医療機器安全管理料2	・冠動脈CT撮影加算
・歯科治療総合医療管理料	・心臓MRI撮影加算
・造血器腫瘍遺伝子検査	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・HPV核酸検出	・外来化学療法加算1
・検体検査管理加算(I)	・無菌製剤処理料
・検体検査管理加算(IV)	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・遺伝カウンセリング加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・運動器リハビリテーション料(I)
・植込型心電図検査	・呼吸器リハビリテーション料(I)



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・集団コミュニケーション療法料	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・認知療法・認知行動療法	・経皮的動脈遮断術
・精神科作業療法	・ダメージコントロール手術
・精神科ショート・ケア「大規模なもの」	・腹腔鏡下肝切除術
・精神科デイ・ケア「大規模なもの」	・生体部分肝移植術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・同種死体肝移植術
・医療保護入院等診療料	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・透析液水質確保加算	・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
・一酸化窒素吸入療法	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・歯科技工加算	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・同種死体腎移植術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。 )及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・生体腎移植術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・膀胱水圧拡張術
・人工内耳植込術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・植込型骨導補聴器	・人工尿道括約筋植込・置換術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・同種死体肺移植術	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・生体部分肺移植術	・輸血管理料 I
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・内視鏡手術用支援機器加算
・植込型心電図記録計移植術及び植型心電図記録計摘出術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・麻酔管理料( I )
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)	・麻酔管理料( II )
・両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術	・放射線治療専任加算
・大動脈バルーンポンピング法( IABP法)	・外来放射線治療加算
・補助人工心臓	・高エネルギー放射線治療



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・インプラント義歯	・
・顎顔面補綴	・
・先天性難聴の遺伝子診断(他の保険医療機関に対して検体の採取以外の業務を委託して実施する保険医療機関)	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	・
・腹腔鏡下子宮体がん根治手術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床検査部門: 毎日、病理診断部門: 毎日
剖 検 の 状 況	剖検症例数 19例 / 剖部検率 5.6%

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ヒトDCによる寛容誘導機構の解明、粘膜扁桃および寛容誘導特性を備えたヒトDC培養技術の確立	門脇 則光	血液・腫瘍内科	2,470,000	補委	(独) 科学技術振興機構
iPS細胞技術を基盤とする血小板製剤の開発と臨床試験	高折 晃史	血液・腫瘍内科	5,000,000	補委	文部科学省
HIV-1 Vif を標的とした新規抗ウイルス薬の開発	新堂 啓祐	血液・腫瘍内科	1,050,000	補委	(独) 科学技術振興機構
樹状細胞によるインターフェロン-α産生を抑制するキナーゼ阻害薬の標的同定	門脇 則光	血液・腫瘍内科	1,154,000	補委	(独) 科学技術振興機構
ヒストン脱メチル化酵素(KDM)による造血分化制御機構の解明	河原 真大	血液・腫瘍内科	5,590,000	補委	文部科学省
ヌクレオフォスミン関連融合遺伝子からアプローチする新規白血病化機構の解明	河原 真大	血液・腫瘍内科	1,560,000	補委	文部科学省
マントル細胞リンパ腫モデルマウスを用いた腫瘍クローンの階層性と微小免疫環境の解明	錦織 桃子	血液・腫瘍内科	1,690,000	補委	文部科学省
APOBEC3の生体内における機能とHIV-1感染病態に及ぼす影響の解明	高折 晃史	血液・腫瘍内科	4,290,000	補委	文部科学省
好中球細胞外トラップの分子機構並びにその感染・炎症病態における役割の解明	山下 浩平	血液・腫瘍内科	1,690,000	補委	文部科学省
RNAヘリカースMOV10によるNFκBの負の制御の解析	小林 正行	血液・腫瘍内科	1,690,000	補委	文部科学省
スフィンゴ脂質代謝異常による流産のメカニズムの解明と治療薬の開発	水岸 貴代美	血液・腫瘍内科	1,820,000	補委	文部科学省
網羅的遺伝子解析を用いたヒトiPS細胞の血液細胞分化誘導における重要な因子の同定	西澤 正俊	血液・腫瘍内科	1,000,000	補委	文部科学省
次世代シーケンサーを用いた成人T細胞白血病の網羅的な遺伝子解析	菱澤 方勝	血液・腫瘍内科	1,300,000	補委	文部科学省
樹状細胞の小胞輸送を標的とした抗炎症薬の開発	門脇 則光	血液・腫瘍内科	1,690,000	補委	文部科学省
脂肪萎縮症に関する調査研究	海老原 健	内分泌・代謝内科	5,265,000	補委	厚生労働省
新規創薬を目指した生活習慣病・難治性疾患モデル遺伝子変異ラットの開発と解析	中尾 一和	内分泌・代謝内科	11,700,000	補委	厚生労働省
CTGFを標的とした新規腎疾患治療の探索	横井 秀基	内分泌・代謝内科	1,170,000	補委	文部科学省
全身性脂肪萎縮症原因遺伝子産物セイピンの多彩な生理作用の解明	海老原 健	内分泌・代謝内科	5,980,000	補委	文部科学省
脂肪細胞特異的KOマウスを用いたアドレノメデュリンの病態生理的意義の解明	錦見 俊雄	内分泌・代謝内科	3,640,000	補委	文部科学省
循環調節ペプチド-脳性利尿ペプチド、アドレノメデュリン-の展開研究	錦見 俊雄	内分泌・代謝内科	1,430,000	補委	文部科学省
心筋形質維持におけるNRSF転写抑制複合体によるエピゲノム制御の意義の研究	桑原 佳宏	内分泌・代謝内科	2,080,000	補委	文部科学省
自然炎症とレニン-アンジオテンシン系の相互作用が糖尿病腎症悪化に果たす意義の解明	桑原 孝成	内分泌・代謝内科	2,470,000	補委	文部科学省
心不全発症における転写・エピゲノム調節経路の解明とそれに基づく新規治療法の探索	桑原 宏一郎	内分泌・代謝内科	6,110,000	補委	文部科学省
myocardinとMRTF-AのmiR1を介した相対的発現変化の血管病での意義	桑原 宏一郎	内分泌・代謝内科	1,820,000	補委	文部科学省
メタボリック症候群関連腎症の発症・進展における内分泌因子の意義	向山 政志	内分泌・代謝内科	1,040,000	補委	文部科学省
ヒトiPS細胞を用いた軟骨細胞誘導法の開発及び骨系統疾患の新規治療薬評価系の確立	三浦 晶子	内分泌・代謝内科	1,950,000	補委	文部科学省
顎顔面領域における疾患特異的iPS細胞を用いた新たな治療法の開発	小山 典昭	内分泌・代謝内科	2,340,000	補委	文部科学省
BNPプロセッシング機序における糖鎖修飾の病態生理学的意義の解明	中川 靖章	内分泌・代謝内科	1,950,000	補委	文部科学省

小計 28

間葉系細胞由来ホルモンの生理作用とその破綻	中尾 一和	内分泌・代謝内科	36,400,000	補委	文部科学省
低身長症を呈するSEDCに対するC型ナトリウム利尿ペプチドの効果の検討	藤井 寿人	内分泌・代謝内科	2,080,000	補委	文部科学省
ノックイン細胞を用いたヒト脂肪細胞分化系の構築	藤倉 純二	内分泌・代謝内科	3,640,000	補委	文部科学省
患者由来iPS細胞を用いた糖尿病の遺伝・病態解明と再生治療	藤倉 純二	内分泌・代謝内科	1,040,000	補委	文部科学省
心筋リモデリングでのリンパ管新生・炎症制御を介したアドレノメデュリンの意義の解明	南 丈也	内分泌・代謝内科	2,080,000	補委	文部科学省
心不全発症・進展における新規治療標的としてのTRPC6/3の意義の解明	木下 秀之	内分泌・代謝内科	1,820,000	補委	文部科学省
「がん微小環境を標的とした革新的治療法の実現」(活性型ナルディライジンを標的とする新規抗体製剤の開発)	西 英一郎	循環器内科	10,290,000	補委	文部科学省
マイクロRNA-126の徐放化を応用した新規冠動脈ステントの開発	尾野 亘	循環器内科	780,000	補委	(独) 科学技術振興機構
大規模コホートを用いた急性心筋梗塞における早期再灌流療法に向けた医療連携システム構築と効果的な患者のためのエビデンス構築に関する研究	木村 剛	循環器内科	10,000,000	補委	厚生労働省
血中自己抗体検出と新規炎症マーカーを用いた急性冠症候群予知因子および治療標的の探索	西 英一郎	循環器内科	60,000,000	補委	厚生労働省
新規の線維化・強皮症モデルマウスを用いた炎症-自己免疫-線維化相互関連の解明	芦田 昇	循環器内科	1,950,000	補委	文部科学省
心臓エネルギー代謝の頑健性とその破綻のメカニズムの統合的解明	塩井 哲雄	循環器内科	5,200,000	補委	文部科学省
インスリン・シグナルを標的とした心不全エネルギー代謝異常治療法の開発	塩井 哲雄	循環器内科	1,560,000	補委	文部科学省
FCレセプター修飾による心不全と動脈硬化の治療	岸本 千晴	循環器内科	650,000	補委	文部科学省
心臓リモデリングに関わるlincRNAの機能の解明	桑原 康秀	循環器内科	1,430,000	補委	文部科学省
HDL機能が冠動脈病変に及ぼす影響の解析	今井 逸雄	循環器内科	1,430,000	補委	文部科学省
iPS細胞由来の心筋細胞による心筋再生治療における細胞の至適生着条件の検討	舟越 俊介	循環器内科	900,000	補委	文部科学省
軸索髄鞘形成因子ナルディライジンの病態生理学的意義の解明	西 英一郎	循環器内科	6,630,000	補委	文部科学省
シェディング調節因子による血管収縮と透過性制御機構の解明	大野 美紀子	循環器内科	5,200,000	補委	文部科学省
循環動態調節における交感神経分布様式の意義	大野 美紀子	循環器内科	5,850,000	補委	文部科学省
新規シェディング調節因子によるアミロイドβ産生調節機構の解明	大野 美紀子	循環器内科	2,210,000	補委	文部科学省
マイクロRNA-33a/bによるHDLコレステロール制御機構の解明と治療への応用	尾野 亘	循環器内科	4,420,000	補委	文部科学省
ノンコーディングRNAによる脂質代謝調節を担う転写因子間のクロストーク	尾野 亘	循環器内科	4,940,000	補委	文部科学省
マイクロRNAの局所徐放システムの構築と生体応用	尾野 亘	循環器内科	1,820,000	補委	文部科学省
不整脈疾患における遺伝的背景の病態解明	牧山 武	循環器内科	1,950,000	補委	文部科学省
マイクロRNA制御による新規動脈硬化予防法・治療法の開発	堀江 貴裕	循環器内科	2,080,000	補委	文部科学省
Neoatherosclerosisの本態解明と新規治療法の開発	木村 剛	循環器内科	7,800,000	補委	文部科学省
「がん幹細胞を標的とした根治療法の実現」(Hes1, Dcmk11を標的としたがん幹細胞特異的治療法の開発)	千葉 勉	消化器内科	11,000,000	補委	文部科学省
IgG4関連疾患に関する調査研究	千葉 勉	消化器内科	77,540,000	補委	厚生労働省
肝幹細胞への遺伝子異常が肝発癌に果たす役割の解明	丸澤 宏之	消化器内科	3,250,000	補委	文部科学省
iPS細胞を用いた炎症性腸疾患の病態解明	吉野 琢哉	消化器内科	650,000	補委	文部科学省
消化器癌におけるインスリン様増殖因子活性化機構の解明と中和抗体による治療法の開発	宮本 心一	消化器内科	1,300,000	補委	文部科学省

新規幹細胞マーカーSox9を指標とした消化器系幹細胞からの発癌機構の解析	金 秀基	消化器内科	900,000	補委	文部科学省
B型肝炎の病態解明を目指した新規モデルマウスの作成と免疫/腫瘍学的解析	犬塚 義	消化器内科	1,000,000	補委	文部科学省
新規B型肝炎自然発症モデルマウスを用いた宿主免疫応答の網羅的解析	高橋 健	消化器内科	2,860,000	補委	文部科学省
消化管における癌幹細胞特異的マーカーの包括的検討	山賀 雄一	消化器内科	900,000	補委	文部科学省
成体膵の恒常性の維持および膵癌形成におけるNotch/Hes1シグナルの機能解析	児玉 裕三	消化器内科	1,950,000	補委	文部科学省
炎症性腸疾患における増悪因子としての鉄の役割ー腸内細菌および鉄関連分子からの解析	松浦 稔	消化器内科	1,170,000	補委	文部科学省
ヘリコバクター・ピロリ関連胃発癌過程におけるゲノム異常生成機構の解明	松本 裕子	消化器内科	1,560,000	補委	文部科学省
肝移植症例の臨床像からのB型肝炎ウイルスの感染様式の解明	上田 佳秀	消化器内科	1,560,000	補委	文部科学省
胃炎からの炎症性発癌過程における幹細胞の役割	上尾 太郎	消化器内科	1,690,000	補委	文部科学省
NRDcを標的とした新規大腸癌治療の開発	神田 啓太郎	消化器内科	1,820,000	補委	文部科学省
炎症からの消化器発癌におけるゲノム・エピゲノム異常の統合的解析と生成機構の解明	千葉 勉	消化器内科	53,560,000	補委	文部科学省
「癌幹細胞」と「正常幹細胞」を区別する特異的マーカー同定とそれを育むニッチの解析	千葉 勉	消化器内科	7,800,000	補委	文部科学省
癌幹細胞特異的マーカーの同定と癌幹細胞特異的治療法の開発	千葉 勉	消化器内科	1,560,000	補委	文部科学省
炎症性腸疾患大腸発癌における低分子量GTP蛋白Ralの機能解析	仲瀬 裕志	消化器内科	2,080,000	補委	文部科学省
新規の致死性自己免疫性肝炎モデルを用いた肝炎劇症化に関わる腸内細菌免疫応答の解析	渡部 則彦	消化器内科	1,560,000	補委	文部科学省
膵臓癌におけるクロマチンリモデリングの役割	福田 晃久	消化器内科	1,690,000	補委	文部科学省
ADAMプロテアーゼ活性化分子ナルディライジンを標的とした消化管癌治療法の探索	米門 秀行	消化器内科	1,820,000	補委	文部科学省
ISS-ODNsを用いた腸管内免疫制御機構の解明及び炎症性腸疾患新規治療法の開発	本澤 有介	消化器内科	900,000	補委	文部科学省
がん微小環境における細胞外シェディングと核内転写の一元的制御	妹尾 浩	消化器内科	4,550,000	補委	文部科学省
Gas6による自然免疫制御が大腸癌に及ぼす影響	妹尾 浩	消化器内科	1,560,000	補委	文部科学省
呼吸不全に関する調査研究	三嶋 理晃	呼吸器内科	39,690,000	補委	厚生労働省
ヒトiPS細胞を用いた肺組織幹細胞の探索とII型肺胞上皮細胞誘導への挑戦	伊藤 功朗	呼吸器内科	1,040,000	補委	文部科学省
全ゲノムシーケンスによるMAC菌分子疫学の確立と環境感染に関する病原遺伝子の探索	伊藤 穰	呼吸器内科	1,820,000	補委	文部科学省
iPS細胞を用いた難治性呼吸器疾患の病態解明と新規治療法の開発	三嶋 理晃	呼吸器内科	9,100,000	補委	文部科学省
肺気腫進展様式から類推する肺胞破壊の原因	室 繁郎	呼吸器内科	2,470,000	補委	文部科学省
慢性炎症性気道疾患における過去喫煙の影響;エピゲノム変化を介した機序の解明	松本 久子	呼吸器内科	2,080,000	補委	文部科学省
SST-REX技術と細胞免疫療法による新たな免疫制御法の開発	臼井 崇	免疫・膠原病内科	5,070,000	補委	文部科学省
腎炎発症モデル抗DNA抗体遺伝子ノックイン・マウスへの特異的治療アプローチ	吉藤 元	免疫・膠原病内科	1,430,000	補委	文部科学省
急性型間質性肺炎合併筋炎における自己抗体の病因的意義解明と治療法確立に関する研究	三森 経世	免疫・膠原病内科	7,800,000	補委	文部科学省
蛋白アレインを用いた関節リウマチの新たな抗シトルリン化蛋白抗体の網羅的検索	大村 浩一郎	免疫・膠原病内科	1,950,000	補委	文部科学省
抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎の病因・病態解明	中嶋 蘭	免疫・膠原病内科	1,560,000	補委	文部科学省
解糖系代謝シフトによる寿命調節効果を指標とした加齢生活習慣病の新規診断・治療法の開発	近藤 祥司	老年内科	1,245,000	補委	(独)科学技術振興機構

老化細胞分泌因子の老年病との関係解明とその臨床応用への検討	近藤 祥司	老年内科	14,755,000	補委	(独)科学技術振興機構
ストレス老化シグナルによる解糖系酵素分子制御の誘導する癌化バリアー形成の解明	近藤 祥司	老年内科	4,810,000	補委	文部科学省
「寝たきり予防の新規長寿マーカー探索と筋肉増強低分子のメタボローム解析」	近藤 祥司	老年内科	1,950,000	補委	文部科学省
Exendin骨格を用いた非侵襲的膵島定量のためのPET診断用プローブの開発	稲垣 暢也	糖尿病・栄養内科	90,000,000	補委	(独)医薬基盤研究所
農林水産物・食品の機能性等を解析・評価するための基盤技術の開発(タンニン類に着目したリンゴ・茶の生体調節機能の医学的検証と高含有品種育成など活用に関する研究開発)	稲垣 暢也	糖尿病・栄養内科	2,700,000	補委	(独)農業・食品産業技術総合研究機構
機能性を持つ農林水産物・食品開発プロジェクト	稲垣 暢也	糖尿病・栄養内科	4,000,000	補委	(独)農業・食品産業技術総合研究機構
27:膵β細胞量を指標とする糖尿病の早期診断と先制治療を可能とするイメージングプローブの実用化、28:抗がん剤の薬効予測のためのイメージングプローブの実用化、29:治療効果判定および癌の性状鑑別用イメージングプローブの実用化	稲垣 暢也	糖尿病・栄養内科	3,500,000	補委	(独)科学技術振興機構
日本人糖尿病家族歴濃厚家系の全ゲノム連鎖解析および全エクソシーケンスを併用した糖尿病関連遺伝子の同定	稲垣 暢也	糖尿病・栄養内科	37,050,000	補委	厚生労働省
核磁気共鳴(NMR)技術を利用した非侵襲的膵β細胞定量法の開発	稲垣 暢也	糖尿病・栄養内科	1,170,000	補委	文部科学省
単離小腸K細胞を用いたGIP合成・分泌機構の解明	稲垣 暢也	糖尿病・栄養内科	7,800,000	補委	文部科学省
GIP分泌抑制による抗肥満効果の検討	原田 範雄	糖尿病・栄養内科	1,560,000	補委	文部科学省
グルコース応答性およびインクレチン促進性インスリン分泌機構における分子機序の解明	原島 伸一	糖尿病・栄養内科	1,950,000	補委	文部科学省
蛍光ATPプローブ遺伝子導入マウスを用いた糖代謝異常病態解析	長嶋 一昭	糖尿病・栄養内科	1,950,000	補委	文部科学省
三次元画像解析技術を用いた新生膵島の解析	藤本 裕之	糖尿病・栄養内科	2,470,000	補委	文部科学省
GLP-1受容体を標的とする抗体イメージングによる膵β細胞療法の開発	豊田 健太郎	糖尿病・栄養内科	1,560,000	補委	文部科学省
グルカゴン分泌修飾におけるインクレチンGIPの役割の直接的解明	濱崎 暁洋	糖尿病・栄養内科	1,820,000	補委	文部科学省
高性能微量薬液注入装置の開発	小池 薫	初期診療・救急科	364,000	補委	(独)科学技術振興機構
質量分析を用いた小児急性脳症の早期鑑別診断法の開発	小池 薫	救急部	3,770,000	補委	文部科学省
再生医療を用いた拡張型心筋症・虚血性心筋症に対する新たな治療戦略の開発	西尾 亮介	救急部	1,690,000	補委	文部科学省
核磁気共鳴データを用いたパターン認識による解析を応用した身体的加齢評価法の開発	大鶴 繁	救急部	3,900,000	補委	文部科学省
核磁気共鳴法を応用した敗血症重症化早期診断の確立と新規治療ターゲットの開拓	鈴木 崇生	救急部	1,040,000	補委	文部科学省
難治性ニューロパチーの診断技術と治療法の開発に関する研究	漆谷 真	神経内科	68,887	補委	(独)国立精神・神経医療研究センター
脳内環境:恒常性維持機構とその破綻	高橋 良輔	神経内科	7,800,000	補委	文部科学省
タンパク分解系障害による脳内環境変調と神経変性メカニズム	高橋 良輔	神経内科	39,130,000	補委	文部科学省
低分子化合物スクリーニングによるパーキンソン病治療薬開発	高橋 良輔	神経内科	5,590,000	補委	文部科学省
筋萎縮性側索硬化症の細胞群別の分子病態の網羅的解明	山下 博史	神経内科	1,690,000	補委	文部科学省
新しいミスクリン遺伝子導入マウスを用いたパーキンソン病発症メカニズムの解明	山門 穂高	神経内科	1,560,000	補委	文部科学省
意識変容にかかわるネットワークの機能動態の解明	松本 理器	神経内科	910,000	補委	文部科学省
ガンマセクレターゼのアロステリック構造変化を利用したアルツハイマー治療研究	植村 健吾	神経内科	1,040,000	補委	文部科学省
孤発性のパーキンソン病を反映する新たなモデルマウスの作製及び機能解析	浅野 剛史	神経内科	2,470,000	補委	文部科学省
グリアと神経細胞のクロストーク;てんかん焦点の広域周波数帯域脳波と画像解析	池田 昭夫	神経内科	1,040,000	補委	文部科学省
脳機能イメージングと皮質脳波による「無料」のヒト脳内表現の解明	美馬 達哉	神経内科	2,210,000	補委	文部科学省

磁気刺激と反復運動のハイブリッドによるリハビリの脳内機構の非侵襲的手法による解明	美馬 達哉	神経内科	2,600,000	補委	文部科学省
デフォルトモードネットワークの活動測定による神経変性疾患の発症前診断	福山 秀直	神経内科	3,900,000	補委	文部科学省
神経回路の機能的成熟に与るニューロン・グリア相関ダイナミズムの時空間解析	福山 秀直	神経内科	26,780,000	補委	文部科学省
大脳基底核及び小脳の障害によって生じる神経ネットワークの機能異常の解明	澤本 伸克	神経内科	1,170,000	補委	文部科学省
食道癌治療後難治性狭窄に対する新しい治療法の開発(B-26)	江副 康正	がん薬物治療科	400,000	補委	(独)国立がん研究センター
消化管がん内視鏡的治療法の標準化に関する研究(23-A-19)嶋田班	武藤 学	がん薬物治療科	3,000,000	補委	(独)国立がん研究センター
難治性がん高危険群スクリーニング用の微量生体ガス分析法の開発	武藤 学	がん薬物治療科	1,950,000	補委	(独)科学技術振興機構
食道がん化学放射線療法後局所遺残再発例に対するタラポリンナトリウム(レザフィリン)及び半導体レーザー(PDレーザー)を用いた光線力学療法の医師主導治験	武藤 学	がん薬物治療科	46,800,000	補委	厚生労働省
網羅的マイクロRNA発現解析を用いたクルクミンの新たな抗腫瘍機序の解明	金井 雅史	がん薬物治療科	390,000	補委	文部科学省
近赤外光を利用した非破壊的組織診断システムの開発	江副 康正	がん薬物治療科	1,430,000	補委	文部科学省
EGFRシグナル阻害による細胞分化誘導を用いた食道癌に対する新しい治療法の開発	大橋 真也	がん薬物治療科	1,560,000	補委	文部科学省
アセトアルデヒドによる扁平上皮発がん機序の解明と予防医学への応用	武藤 学	がん薬物治療科	1,560,000	補委	文部科学省
組織イメージングを利用した新しい内視鏡観察システムの開発	堀松 高博	がん薬物治療科	1,300,000	補委	文部科学省
マウスHDOCIによる骨・腎臓調節機構の解明と病態での機能の解明	向山 政志	腎臓内科	3,900,000	補委	(独)科学技術振興機構
35:腎臓透析サポートシステムの研究開発・実証	柳田 素子	腎臓内科	6,000,000	補委	(独)科学技術振興機構
36:災害及び在宅に対応した血液浄化装置の開発	柳田 素子	腎臓内科	6,000,000	補委	(独)科学技術振興機構
糸球体発生シグナルに着目した糖尿病性腎症進展機序の解明と新規治療薬の開発	松原 雄	腎臓内科	2,600,000	補委	文部科学省
さらなる低侵襲性や機能温存を目指した内視鏡下手術の開発(23-A-26)小管班	坂井 義治	消化管外科	400,000	補委	(独)国立がん研究センター
HER受容体と下流シグナル伝達系異常に基づく胃癌の治療効果予測マーカー探索	岡部 寛	消化管外科	1,690,000	補委	文部科学省
大腸癌転移制御におけるケモカイン・シグナル阻害の臨床応用へ向けた展開	河田 健二	消化管外科	1,820,000	補委	文部科学省
胃癌患者における末梢血中腫瘍細胞の治療効果予測因子としての意義	角田 茂	消化管外科	2,080,000	補委	文部科学省
胃癌腹膜播種性転移に対するドラッグデリバリーシステムの開発	小濱 和貴	消化管外科	1,560,000	補委	文部科学省
大腸癌におけるKRAS遺伝子変異を介した糖代謝およびFDG集積機構の解析	長谷川 傑	消化管外科	1,820,000	補委	文部科学省
cineMRIを用いた再建胃管の生理機能評価	田中 英治	消化管外科	1,690,000	補委	文部科学省
「早期診断マルチバイオマーカー開発」(血中循環乳がん細胞に対するエピジェネティクス-マルチマーカーの実用化開発)	戸井 雅和	乳腺外科	15,000,000	補委	文部科学省
新規basal-like乳癌サブタイプの分類と分子・細胞生物学的特性	伊東 潤二	乳腺外科	2,210,000	補委	文部科学省
乳癌の血管内皮増殖因子関連マイクロRNAの同定と抗VEGF療法感受性予測への応用	佐藤 史顕	乳腺外科	4,290,000	補委	文部科学省
有効性と安全性の最大化を目的とした抗悪性腫瘍薬の生物学的至適投与法に関する研究	石黒 洋	乳腺外科	1,820,000	補委	文部科学省
乳癌に対するトラスツズマブ効果予測因子としてのニューロピリン1陽性免疫細胞の意義	鈴木 栄治	乳腺外科	1,820,000	補委	文部科学省
肝移植後C型肝炎に対する治療法の標準化を目指した臨床的ならびに基礎的研究	上本 伸二	肝胆膵・移植外科	37,700,000	補委	厚生労働省
ヒト多能性幹細胞由来肝細胞の分化誘導法確立と細胞移植における有用性の検討	安近 健太郎	肝胆膵・移植外科	1,950,000	補委	文部科学省
肝細胞癌肝移植後のエベロリムス(Everolimus)の再発予防効果の研究	伊藤 孝司	肝胆膵・移植外科	1,300,000	補委	文部科学省



心停止ドナー肝グラフトを再生の足場として利用した肝再生に関する研究	遠藤 耕介	肝胆膵・移植外科	900,000	補委	文部科学省
胆管上皮マーカー陽性肝細胞癌細胞における癌幹細胞としての特性解析	児玉 創太	肝胆膵・移植外科	1,820,000	補委	文部科学省
小児肝移植術後急性期における抗ドナーHLA抗体検出の意義の検討	小川 絵里	肝胆膵・移植外科	2,470,000	補委	文部科学省
グルコース依存性インスリン刺激ポリペプチドの膵発生と膵癌進展における基盤的研究	小泉 将之	肝胆膵・移植外科	130,000	補委	文部科学省
移植／臓器移植における凝固・線溶系異常の病態解明と新規治療法の開発	上本 伸二	肝胆膵・移植外科	3,640,000	補委	文部科学省
異種移植における拒絶反応克服の治療戦略ー異種細胞の同種細胞への置換の試みー	上本 伸二	肝胆膵・移植外科	1,560,000	補委	文部科学省
常温灌流保存による脂肪肝グラフト再生への挑戦：肝摘出後の脂肪肝改善は可能か？	秦 浩一郎	肝胆膵・移植外科	1,430,000	補委	文部科学省
膵発生マスタージーンPdx1に着目した膵癌モデルマウスの解析とその治療的応用	増井 俊彦	肝胆膵・移植外科	6,500,000	補委	文部科学省
免疫応答修飾による肝移植後線維化の制御戦略	田浦 康二郎	肝胆膵・移植外科	4,290,000	補委	文部科学省
膵線維化における線維産生細胞の起源探求	田浦 康二郎	肝胆膵・移植外科	1,820,000	補委	文部科学省
肝硬変治療への挑戦：再生医療の導入による非移植治療の提案	藤本 康弘	肝胆膵・移植外科	1,300,000	補委	文部科学省
肝虚血再灌流障害における新しいメカニズムの解明ーT細胞の役割についてー	内田 洋一郎	肝胆膵・移植外科	1,170,000	補委	文部科学省
ARFIを用いた肝硬度測定による新たな肝切除安全性指標確立に関する研究	波多野 悦朗	肝胆膵・移植外科	780,000	補委	文部科学省
境界グラフトに対する一酸化窒素を用いた臓器保存戦略	八木 真太郎	肝胆膵・移植外科	2,340,000	補委	文部科学省
グラフト肝虚血再灌流障害の飛躍的改善：間葉系幹細胞導入による臓器保存液の開発	岡本 晋弥	小児外科	1,820,000	補委	文部科学省
成人人体肝移植の革新：幹細胞導入下の過少グラフトを用いた肝移植	小川 晃平	小児外科	1,820,000	補委	文部科学省
VCP阻害剤を用いた眼難治疾患に対する新規治療法開発	池田 華子	眼科	32,900,000	補委	厚生労働省
補償光学適応走査型レーザー検眼鏡を用いた糖尿病網膜症の病態解析と早期発見、早期治療に関する研究	宇治 彰人	眼科	1,652,000	補委	厚生労働省
患者由来iPS細胞を用いた加齢黄斑変性の病態解明・治療法の開発研究	辻川 明孝	眼科	11,110,000	補委	厚生労働省
視覚系の稀少難治性疾患群に関する症例データベース構築	吉村 長久	眼科	58,500,000	補委	厚生労働省
加齢黄斑変性に対する個別化医療実現のための前向き臨床研究にもとづくゲノムワイド関連解析	吉村 長久	眼科	16,000,000	補委	厚生労働省
補償光学適応走査型レーザー検眼鏡を用いた糖尿病網膜症における赤血球列の動態解析	宇治 彰人	眼科	2,080,000	補委	文部科学省
糖尿病網膜症における血管内皮増殖因子やその受容体の遺伝子多型と臨床所見との関連	鶴木 則之	眼科	2,080,000	補委	文部科学省
SS-OCTおよび黄斑局所網膜電図を用いた網膜静脈閉塞症の治療反応性、予後の予測	荻野 顕	眼科	1,950,000	補委	文部科学省
VCP阻害剤による眼疾患に対する新たな神経保護治療法の研究開発	吉村 長久	眼科	14,560,000	補委	文部科学省
高侵達干渉断層計を用いた眼底深部構造解析による難治性視神経疾患の病態解明	宮本 和明	眼科	1,950,000	補委	文部科学省
近視マウスの網膜細胞種別発現プロファイリングとヒト遺伝子多型データとの相関	後藤 謙元	眼科	1,430,000	補委	文部科学省
強度近視における脈絡膜新生血管の発生機序の解明	山城 健児	眼科	2,080,000	補委	文部科学省
緑内障の篩状板構造解析と遺伝子解析による治療評価法の開発	赤木 忠道	眼科	1,690,000	補委	文部科学省
自己組織化マップを用いた糖尿病黄斑浮腫の新規分類法の探索	村上 智昭	眼科	2,080,000	補委	文部科学省
セマフォリン3E／プレキシンド1経路の制御による脈絡膜新生血管の治療法開発	大石 明生	眼科	2,080,000	補委	文部科学省
VCP阻害剤による網膜色素変性症に対する治療法の開発	池田 華子	眼科	2,080,000	補委	文部科学省

網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫の細胞レベルでの病態・構造・機能解析システムの確立	辻川 明孝	眼科	1,690,000	補委	文部科学省
ゲノム情報や視細胞の形態・生理に基づく加齢黄斑変性の発症予測モデルの確立	田村 寛	眼科	1,560,000	補委	文部科学省
卵巣癌に対する新たな標準的治療法の確立を目指した研究(23-A-17)飛内班	小西 郁生	産科婦人科	1,000,000	補委	(独)国立がん研究センター
がん免疫逃避機構を標的とした次世代型免疫治療の臨床応用と新規バイオマーカーの探索	小西 郁生	産科婦人科	28,600,000	補委	厚生労働省
胎児予備能の許容限界の解明を目指した重症胎児発育不全における炎症関連分子の解析	近藤 英治	産科婦人科	1,170,000	補委	文部科学省
絨毛細胞による母体らせん動脈の浸潤機構の解明ー母体血小板に着目してー	佐藤 幸保	産科婦人科	1,560,000	補委	文部科学省
胎児ファイブロンクチンの早産発症における病態解析および早産の新規治療法開発	最上 晴太	産科婦人科	2,470,000	補委	文部科学省
卵巣明細胞腺癌におけるメタボローム解析とオートファジーの役割	山口 建	産科婦人科	1,690,000	補委	文部科学省
卵巣癌における“hot spot”変異解析に基づく新規薬剤の探索	松村 謙臣	産科婦人科	1,950,000	補委	文部科学省
妊娠高血圧症候群における胎盤の脂質代謝バランスとその意義の解明	巽 啓司	産科婦人科	1,300,000	補委	文部科学省
妊娠高血圧腎症に対する新規治療法の開発	藤田 浩平	産科婦人科	1,560,000	補委	文部科学省
MELF型子宮体癌に対するバイオインフォマティクスを用いた診断・治療法の確立	馬場 長	産科婦人科	2,470,000	補委	文部科学省
ヒト絨毛外栄養膜細胞に特異的に発現する新規蛋白laeverinの機能解析	堀江 昭史	産科婦人科	2,080,000	補委	文部科学省
卵巣癌治療における宿主免疫変化の包括的解析を用いた新規免疫化学療法を検討	濱西 潤三	産科婦人科	1,560,000	補委	文部科学省
iPS細胞技術を基盤とする血小板製剤の開発と臨床試験	平家 俊男	小児科	4,000,000	補委	文部科学省
筋ジストロフィーに対するトランスレーショナル・リサーチ	平家 俊男	小児科	2,000,000	補委	(独)国立精神・神経医療研究センター
患者検体および患者由来iPS細胞を用いた広汎性発達障害のエピゲノム解析	平家 俊男	小児科	6,080,000	補委	(独)科学技術振興機構
NOGマウスを用いたTAM/AMKLのエピゲノム解析	平家 俊男	小児科	3,900,000	補委	(独)科学技術振興機構
自己炎症疾患とその類縁疾患に対する新規診療基盤の確立	平家 俊男	小児科	65,000,000	補委	厚生労働省
患者由来iPS細胞を用いた遺伝性筋疾患の病態再現・治療開発の基盤技術の確立	栗屋 智就	小児科	2,600,000	補委	文部科学省
NLRP3モザイクによる疾患発症、炎症波及機序の解明	井澤 和司	小児科	1,430,000	補委	文部科学省
中枢神経白血球の病態解析と微小環境を標的とした特異的治療の基盤開発	加藤 格	小児科	2,080,000	補委	文部科学省
iPS細胞、及び疾患特異的iPS細胞からの骨格筋細胞分化誘導に関する基盤研究開発	加藤 竹雄	小児科	1,690,000	補委	文部科学省
免疫不全症に合併した炎症性腸疾患の網羅的解析	河合 朋樹	小児科	1,430,000	補委	文部科学省
早産児を対象とした運動発達障害/遅滞の予測:皮質脊髄路の成熟に着目して	金沢 星慶	小児科	1,200,000	補委	文部科学省
寒冷誘発炎症を主症状とするメンデル遺伝疾患を利用した寒冷誘発遺伝子発現の機序解明	西小森 隆太	小児科	1,170,000	補委	文部科学省
網羅的遺伝子解析及び細胞工学的手法を用いた不明発熱症候群の原因解明	西小森 隆太	小児科	5,980,000	補委	文部科学省
先天性好中球減少症の疾患特異的iPS細胞を用いた新規病態解析・治療開発基盤の確立	渡邊 健一郎	小児科	1,950,000	補委	文部科学省
病院倫理委員会の教育研修の現状に基づいた教育研修方法の確立	道和 百合	小児科	1,560,000	補委	文部科学省
学童の食習慣、生活習慣とアレルギー疾患の進展に関する前向き研究	楠 隆	小児科	650,000	補委	文部科学省
筋ジストロフィー患者の予後改善を目的とした新規治療方針の開発	馬場 志郎	小児科	2,080,000	補委	文部科学省
iPS細胞からの軟骨分化システムを用いた先天性骨・関節疾患の網羅的解析法の開発	梅田 雄嗣	小児科	1,560,000	補委	文部科学省

ゲノム・細胞工学的手法を用いた家族性血球貪食症候群の包括的診療基盤の確立	平家 俊男	小児科	14,820,000	補委	文部科学省
ゲノム・細胞工学的手法を用いた家族性血球貪食症候群の包括的診療基盤の確立	平家 俊男	小児科	1,300,000	補委	文部科学省
マイクロRNAセンサーベクターを用いた新規ヒト造血幹細胞分画の同定と機能解析	平松 英文	小児科	1,690,000	補委	文部科学省
皮膚の恒常性維持機構からアレルギークrostockへの展開	梶島 健治	皮膚科	5,200,000	補委	(独)科学技術振興機構
疫・アレルギー性皮膚疾患と脂質メディエーター	宮地 良樹	皮膚科	18,590,000	補委	文部科学省
新規モデルマウスを用いた肥満細胞や好塩基球のアトピー性皮膚炎における役割の解明	宮地 良樹	皮膚科	1,560,000	補委	文部科学省
免疫システムにおける肥満細胞の機能解明	大塚 篤司	皮膚科	800,000	補委	文部科学省
尋常性乾癬の病態維持機構における血清アミロイドAの関与についての検討	谷崎 英昭	皮膚科	2,080,000	補委	文部科学省
皮膚免疫と全身免疫のクrostockの可能性の検証とその役割	中溝 聡	皮膚科	900,000	補委	文部科学省
CIAS1遺伝子の機能解析とCAPSの病態解明	藤澤 章弘	皮膚科	1,690,000	補委	文部科学省
ライブイメージングを用いたアトピー性皮膚炎病態解析と新規病態制御因子の同定	本田 哲也	皮膚科	1,690,000	補委	文部科学省
制御性T細胞サブセットによる皮膚免疫制御	野村 尚史	皮膚科	1,560,000	補委	文部科学省
ゲノム網羅的解析情報を基盤とするオーダーメイドがん医療実現のための開発研究(遺伝子情報をを用いた前立腺癌罹患リスク予測モデルの臨床応用と個別化治療法の開発)	小川 修	泌尿器科	5,000,000	補委	文部科学省
膀胱発達に関与するシグナル分子についての研究	沖波 武	泌尿器科	600,000	補委	文部科学省
ギャップジャンクションに着目した新たな頻尿治療ターゲットの探求	吉村 耕治	泌尿器科	2,080,000	補委	文部科学省
Xenograftモデルを用いた前立腺癌予後予測血中マーカーの探求	寺田 直樹	泌尿器科	1,430,000	補委	文部科学省
次世代質量分析による癌個別的ゼノグラフトの双方向的解析からの革新的診断治療シーズ	小川 修	泌尿器科	9,230,000	補委	文部科学省
種間新世代OMICSに基づく浸潤性膀胱癌新規動物モデルの開発	小林 恭	泌尿器科	6,610,000	補委	文部科学省
Ral関連分子ネットワークに着目した膀胱癌進展機序の解明	松井 喜之	泌尿器科	2,080,000	補委	文部科学省
質量顕微鏡を用いた低分子メタボローム解析の、前立腺癌画像診断への応用	神波 大己	泌尿器科	1,950,000	補委	文部科学省
患者癌組織移植モデルの網羅的シーケンシング解析による泌尿器癌薬剤耐性機構の探求	神波 大己	泌尿器科	4,810,000	補委	文部科学省
マイクロRNAに着目した過活動膀胱新規治療ターゲットの探求	杉野 善雄	泌尿器科	2,080,000	補委	文部科学省
自己由来細胞による内耳再生医療の開発	北尻 真一郎	耳鼻咽喉科	1,700,000	補委	(独)科学技術振興機構
間葉系細胞を分化誘導した再生骨格筋の機能的有効性と安全性の研究	平野 滋	耳鼻咽喉科	6,000,000	補委	(独)医薬基盤研究所
咽喉頭癌に対する経口的ロボット支援手術の安全性・有効性に関する多施設臨床試験	伊藤 壽一	耳鼻咽喉科	52,000,000	補委	厚生労働省
声帯 患者に対するKP-100(ヒト組み換えHGF; 肝細胞増殖因子)の声帯内投与に関する第I/II相試験-医師主導試験-	平野 滋	耳鼻咽喉科	39,000,000	補委	厚生労働省
内耳発生メカニズムの解明と再生医療への応用	伊藤 壽一	耳鼻咽喉科	33,020,000	補委	文部科学省
圧電素子を用いた新規平衡感覚デバイスの開発	稲岡 孝敏	耳鼻咽喉科	1,170,000	補委	文部科学省
内耳感覚上皮発生におけるGSK3情報伝達系の役割と細胞配列パターン形成	岡野 高之	耳鼻咽喉科	1,820,000	補委	文部科学省
感覚毛成熟化におけるFGFシグナルの役割〜内耳再生に向けて	喜多 知子(鳴知子)	耳鼻咽喉科	1,950,000	補委	文部科学省
人工内耳成績改善と適応拡大のためのトランスレーショナルリサーチ	山本 典生	耳鼻咽喉科	1,690,000	補委	文部科学省
頭頸部表在癌の発現プロファイリングによる治療戦略の確立	楯谷 一郎	耳鼻咽喉科	1,690,000	補委	文部科学省

プロスタグランジンE受容体サブタイプEP2、EP3の聴覚機構における役割の解明	松永 麻美	耳鼻咽喉科	1,560,000	補委	文部科学省
New strategies for cochlear afferent dendrite and synaptic regeneration.	浅香 ナカリン	耳鼻咽喉科	2,340,000	補委	文部科学省
コンフォーカルマイクロエンドスコープを用いた新しい内耳遺伝子導入方法の開発	田浦 晶子	耳鼻咽喉科	650,000	補委	文部科学省
広汎性発達障害児の人工内耳両耳聴における中枢機構	平海 晴一	耳鼻咽喉科	2,210,000	補委	文部科学省
声帯瘻痕に対する細胞移植による再生医療に関する研究	平野 滋	耳鼻咽喉科	1,950,000	補委	文部科学省
アクチン構造様式に着目した難聴の分子メカニズム解明	北尻 真一郎	耳鼻咽喉科	8,190,000	補委	文部科学省
新規DDS技術を基盤とした内耳治療法の創製と臨床応用	堀江 理恵	耳鼻咽喉科	1,690,000	補委	文部科学省
高性能、長期耐用を兼ね備えた人工膝関節の開発	松田 秀一	整形外科	6,682,000	補委	(独)科学技術振興機構
iPS細胞由来軟骨細胞を用いた軟骨疾患再生治療法の開発拠点	松田 秀一	整形外科	7,000,000	補委	文部科学省
軟骨変性と軟骨再生課程における低分子量蛋白と細胞骨格の関与についての研究	松田 秀一	整形外科	1,560,000	補委	文部科学省
iPS細胞技術を応用した軟骨形成腫瘍における変異IDHの機能解明	岡本 健	整形外科	2,080,000	補委	文部科学省
イヌでの骨髄間葉系幹細胞移植した血管柄含有チューブ内での神経再生	柿木 良介	整形外科	1,040,000	補委	文部科学省
腕神経叢引き抜き損傷に対する前処理自家神経を用いた神経根再埋め込み法の研究	太田 壮一	整形外科	1,820,000	補委	文部科学省
DecNefを応用した精神疾患の診断・治療システムの開発と臨床応用拠点の構築(BMI技術を応用した精神疾患に対するバイオマーカーとニューロモジュレーション技術の開発)	高橋 英彦	精神科神経科	10,200,000	補委	文部科学省
患者検体および患者由来iPS細胞を用いた広汎性発達障害のエピゲノム解析	船曳 康子	精神科神経科	3,800,000	補委	(独)科学技術振興機構
コネクティブティ解析による統合失調症の意思決定プロセスと症状の神経基盤の解明	宮田 淳	精神科神経科	1,040,000	補委	文部科学省
精神・神経疾患における熟慮的および直感的意思決定障害の脳内基盤の解明	高橋 英彦	精神科神経科	17,550,000	補委	文部科学省
道徳的・司法的判断に関する認知神経科学的研究	高橋 英彦	精神科神経科	5,980,000	補委	文部科学省
認知行動療法によるうつ病の治療過程における脳構造・機能変化の解明	山崎 信幸	精神科神経科	1,430,000	補委	文部科学省
自己組織化マップを応用した新規脳画像解析により統合失調症異種性の神経基盤に挑む	杉原 玄一	精神科神経科	1,430,000	補委	文部科学省
発達障害の特性分布の掌握と多特性複合の客観的指標の開発	船曳 康子	精神科神経科	650,000	補委	文部科学省
発達障害者におけるコミュニケーション障害のメカニズム解明	船曳 康子	精神科神経科	6,500,000	補委	文部科学省
統合失調症の社会性障害に関するマルチモーダル神経画像研究	村井 俊哉	精神科神経科	4,420,000	補委	文部科学省
プロセス依存の神経基盤に関する研究	村井 俊哉	精神科神経科	2,210,000	補委	文部科学省
過食を伴う摂食障害における衝動性の神経基盤についての研究	野間 俊一	精神科神経科	1,950,000	補委	文部科学省
病的賭博の神経学および遺伝学的基盤の研究	挾間 雅章	精神科神経科	2,470,000	補委	文部科学省
BMP拮抗分子USAG-1とBMP-7の歯数制御による歯牙再生	高橋 克	歯科口腔外科	849,800	補委	(独)科学技術振興機構
医科歯科連携のチーム医療におけるオーラルケア法の開発	別所 和久	歯科口腔外科	9,200,000	補委	厚生労働省
ナノ磁性粒子遺伝子導入法による骨再生	園部 純也	歯科口腔外科	910,000	補委	文部科学省
咀嚼能力および唾液が食後高血糖・耐糖能異常に及ぼす影響	家森 正志	歯科口腔外科	1,690,000	補委	文部科学省
CNPを用いた顎顔面領域におけるトランスレーショナルリサーチ	中尾 一祐	歯科口腔外科	2,340,000	補委	文部科学省
塩基性線維芽細胞増殖因子・多血小板血漿徐化ゼラチンハイドロゲルによる歯槽骨再生	田村 佳代	歯科口腔外科	2,080,000	補委	文部科学省

口腔組織欠損に対する修復促進作用を有する創保護材の開発に関する基礎的研究	藤村 和磨	歯科口腔外科	1,170,000	補委	文部科学省
予防、治療を目指したヒト疾患特異的iPS細胞を用いた骨系統疾患解析に関する研究	別所 和久	歯科口腔外科	1,300,000	補委	文部科学省
強度変調放射線治療における投与線量の品質保証法(25-B-4)	中村 光宏	放射線治療科	200,000	補委	(独)国立がん研究センター
がんの超早期局在診断に対応した高精度X線治療システム研究開発	平岡 真寛	放射線治療科	20,068,000	補委	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構
IT融合による新社会の開発・実証プロジェクト	平岡 真寛	放射線治療科	16,530,000	補委	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構
25:生体機能情報イメージング機器のための技術開発、26:生体機能情報イメージングプローブのための技術開発	平岡 真寛	放射線治療科	1,000,000	補委	(独)科学技術振興機構
30:放射線治療レボリューションによるがん治療最大効率化(超時間短縮・超省力化)の実現	平岡 真寛	放射線治療科	11,800,000	補委	(独)科学技術振興機構
粒子線治療における腫瘍の線量応答性観測システムの開発	平岡 真寛	放射線治療科	650,000	補委	(独)国立がん研究センター
放射線治療を含む標準治療確立のための研究(23-A-21)伊藤班	平岡 真寛	放射線治療科	500,000	補委	(独)国立がん研究センター
工業標準化推進事業委託費(戦略的国際標準化推進事業(国際標準共同研究開発事業:4次元放射線治療に関する国際標準化))	平岡 真寛	放射線治療科	6,213,810	補委	経済産業省
光イメージング技術を用いた分子標的薬の放射線増感作用機構の解明	吉村 通央	放射線治療科	910,000	補委	文部科学省
4次元放射線治療計画の臨床応用に向けた基礎検討	宮部 結城	放射線治療科	1,300,000	補委	文部科学省
前立腺癌に対する革新的放射線外部照射技術の開発	溝脇 尚志	放射線治療科	2,730,000	補委	文部科学省
外部照射による加速部分乳房照射における呼吸性移動を考慮した線量計算方法の確立	佐藤 清香	放射線治療科	1,170,000	補委	文部科学省
低酸素・概日周期・代謝制御の相互作用による腫瘍の悪性化と放射線抵抗性機構の解明	小林 稔	放射線治療科	1,820,000	補委	文部科学省
肝臓癌に対する体幹部定位放射線治療の実施手法確立に向けた研究	松尾 幸憲	放射線治療科	1,170,000	補委	文部科学省
動態下における強度変調放射線治療の安全性に関する基礎的検討	中村 光宏	放射線治療科	1,040,000	補委	文部科学省
定位放射線治療の最適化における基礎研究	板坂 聡	放射線治療科	1,170,000	補委	文部科学省
生物画像情報と四次元放射線治療を統合した個別化放射線治療法の開発	平岡 真寛	放射線治療科	10,010,000	補委	文部科学省
金属粉含有機能紙による新しい放射線防護材の研究・開発	門前 一	放射線治療科	2,210,000	補委	文部科学省
がん超早期診断・治療機器の総合研究開発/超早期高精度診断システムの研究開発・画像診断システムの研究開発/がんの性状をとらえる分子プローブ等の研究開発(がんの特性識別型分子プローブ)	中本 裕士	放射線診断科	47,300,000	補委	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構
肝移植後合併症における非造影MR血流画像、肝線維化画像の確立と臨床的有用性の検討	磯田 裕義	放射線診断科	1,560,000	補委	文部科学省
深部灰白質穿通動脈とその障害に伴う脳萎縮・変性や血流・代謝障害の可視化技術開発	岡田 知久	放射線診断科	1,690,000	補委	文部科学省
小動物SPECT/CTを用いたヨウ素123標識ラクトゾーム腫瘍イメージングの開発	栗原 研輔	放射線診断科	2,080,000	補委	文部科学省
超高磁場MRIによる超高分解能拡散テンソル・磁化率強調画像を用いた脳アトラス作成	山本 憲	放射線診断科	1,170,000	補委	文部科学省
光イメージング・低酸素PET・灌流CTの融合画像による腫瘍内低酸素状態の動態解析	子安 翔	放射線診断科	1,200,000	補委	文部科学省
血中滞留性がABC現象に及ぼす効果およびABC現象回避型がん診断治療薬の開発	上田 一樹	放射線診断科	2,210,000	補委	文部科学省
腸間膜脂肪織CT濃度上昇の病的意義解釈の為にFDG-PET/CTの有用性の検討	中谷 航也	放射線診断科	650,000	補委	文部科学省
68Ga標識オクトレオチドを用いたPET/CT検査に関する研究	中本 裕士	放射線診断科	1,560,000	補委	文部科学省
多次元医用MRI画像解析のための実用的なツール群の開発	藤本 晃司	放射線診断科	2,860,000	補委	文部科学省
乳がんにおけるバイオマーカーとしてのIVI Mイメージング法の確立	飯間 麻美	放射線診断科	1,200,000	補委	文部科学省
躯幹部CT画像の非線形レジストレーションによる経時変化検出技術の開発	富樫 かおり	放射線診断科	1,560,000	補委	文部科学省

妊孕性の保持を含めた婦人科機能温存・低侵襲治療を支援する最新MR機能画像診断	富樫 かおり	放射線診断科	5,330,000	補委	文部科学省
スパースモデリングを用いた新しい医用MRI画像の創生	富樫 かおり	放射線診断科	17,030,000	補委	文部科学省
酸素吸入による脳血管・脳脊髄液の動的MRIイメージング	伏見 育崇	放射線診断科	3,120,000	補委	文部科学省
拡散強調画像の自動カラーコーディングによる乳腺病変の質的診断・リスク層別化	片岡 正子	放射線診断科	910,000	補委	文部科学省
静脈麻酔薬がプロオピオメランコルチン由来蛋白の産生に及ぼす影響とその意義の解明	溝田 敏幸	麻酔科	1,170,000	補委	文部科学省
T細胞に発現するオピオイド受容体の機能とその意義に関する研究	正田 丈裕	麻酔科	1,950,000	補委	文部科学省
敗血症時の脳内サイトカイン誘導に麻酔薬が及ぼす影響についての分子生物学的検討	田中 具治	麻酔科	1,560,000	補委	文部科学省
麻酔薬の鎮痛作用におけるダイノルフィンとノシセプチンの役割の解明	福田 和彦	麻酔科	1,690,000	補委	文部科学省
脳梗塞に対する骨髄細胞静脈内投与による再生医療と外骨格ロボットスーツHALの効果と脳機能画像・神経心理学的検査による検討	宮本 享	脳神経外科	1,700,000	補委	(独) 科学技術振興機構
脳血管内治療の実態把握のためのシステム開発に関する研究(国内の脳血管内治療の登録システムの構築に関する研究)	宮本 享	脳神経外科	700,000	補委	(独) 国立循環器病研究センター
MSイメージングを用いたグリオーマ悪性転化マーカー同定の挑戦	宮本 享	脳神経外科	2,210,000	補委	文部科学省
頭蓋内主幹動脈閉塞性疾患における分子メカニズムの解明	宮本 享	脳神経外科	5,460,000	補委	文部科学省
術中皮質皮質間誘発電位記録による脳ネットワーク可塑性の解明	菊池 隆幸	脳神経外科	1,690,000	補委	文部科学省
動脈硬化性巣における新規血管新生調節因子パソヒピンの発現様式と病的意義の解明	吉田 和道	脳神経外科	1,690,000	補委	文部科学省
ワクシニアウイルスを用いた腫瘍免疫誘導の開発と生体イメージング	荒川 芳輝	脳神経外科	2,210,000	補委	文部科学省
多能性幹細胞(iPS細胞)を利用した脳梗塞に対する再生医療の開発	高木 康志	脳神経外科	4,810,000	補委	文部科学省
近赤外線を用いた頰動脈不安定ブランクの画像化に関する研究	石井 暁	脳神経外科	1,820,000	補委	文部科学省
脳磁図と機能的MRIを用いた脳内ネットワーク変容の解析:難治性てんかんの病態解明	國枝 武治	脳神経外科	1,820,000	補委	文部科学省
機能性タンパク質シルクエラスチンを用いた新規医療材料の開発	河合 勝也	形成外科	2,210,000	補委	(独) 科学技術振興機構
巨大母斑(黒あざ)患者組織を脱細胞化し皮膚再生に使用する新規加圧処理治療法の開発	鈴木 茂彦	形成外科	390,000	補委	(独) 科学技術振興機構
生体吸収性ハイドロゲル粒子混合細胞集合体を用いた三次元培養による軟骨再生法	河合 勝也	形成外科	650,000	補委	文部科学省
機能性人工真皮の開発及び難治性皮膚疾患への応用	河合 勝也	形成外科	3,640,000	補委	文部科学省
平面培養の時間的三次元化と機能性高分子複合化技術による弾性線維再生医療の実用化	鈴木 茂彦	形成外科	5,720,000	補委	文部科学省
ヒト真皮由来多能性細胞の効率的採取法の検討と創傷治癒への応用	吉川 勝宇	形成外科	2,210,000	補委	文部科学省
マトリックスプロテアーゼHtrA1によるケロイド組織の浸潤メカニズム	内藤 素子	形成外科	1,170,000	補委	文部科学省
心筋症患者iPS細胞由来心臓組織シートを用いた重症心不全治療創薬研究	恒吉 裕史	心臓血管外科	6,630,000	補委	文部科学省
生体内吸収性高分子担体と細胞増殖因子を用いた難治性虚血性疾患に対する新しい再生医療の開発:オーダーメイド医療の実現に向けた検討	坂田 隆造	心臓血管外科	61,750,000	補委	厚生労働省
多能性幹細胞由来心筋シートによる心機能改善機序の解明および心不全治療創薬への応用	坂田 隆造	心臓血管外科	5,980,000	補委	文部科学省
マイクロRNA徐放を用いた細胞フェノタイプ制御による新規心不全治療の開発	山崎 和裕	心臓血管外科	1,820,000	補委	文部科学省
肺動脈弁閉鎖不全による右心室機能低下の可逆性に関する研究	中田 朋宏	心臓血管外科	1,950,000	補委	文部科学省
肺移植臨床応用をめざした心停止ドナー肺の体外循環装置による肺傷害修復	伊達 洋至	呼吸器外科	3,900,000	補委	文部科学省
肺扁平上皮癌に対するFGFR抑制ペクター遺伝子治療	伊達 洋至	呼吸器外科	1,040,000	補委	文部科学省

CDDP+VNRIによる肺癌術後補助化学療法の治療効果に関する分子マーカーの検討	園部 誠	呼吸器外科	2,080,000	補委	文部科学省
肺移植後肺内リンパ組織新生が抗ドナー抗体局所産生により慢性拒絶に果たす役割	佐藤 雅昭	呼吸器外科	1,690,000	補委	文部科学省
強制オシレーション法を用いた肺移植後急性肺拒絶評価法の基礎的研究	阪井 宏彰	呼吸器外科	650,000	補委	文部科学省
生体・脳死肺移植におけるメモリー細胞と制御性T細胞/ThTh17バランスの解析	青山 晃博	呼吸器外科	1,430,000	補委	文部科学省
体外肺灌流技術を用いた、傷害のあるドナー肺の評価とその治療への挑戦	陳 豊史	呼吸器外科	9,100,000	補委	文部科学省
抗体陽性・血液型不適合肺移植を目指すための、抗体関連拒絶に対する研究	陳 豊史	呼吸器外科	1,690,000	補委	文部科学省
改良型ET-K液による肺持続灌流保存の前臨床研究	板東 徹	呼吸器外科	650,000	補委	文部科学省
ヒト・マスト細胞に発現するNK細胞受容体KIR2DL4の解析	片岡 竜貴	病理診断科	1,560,000	補委	文部科学省
肝移植後の肝細胞キメラの成立とグラフトの老化	宮川 文	病理診断科	1,040,000	補委	文部科学省
特発性肺線維症急性増悪におけるマイクロRNA	谷澤 公伸	呼吸管理睡眠制御学	1,690,000	補委	文部科学省
間欠的および持続的酸素濃度操作による多能性幹細胞の特質改変法の開発	陳 和夫	呼吸管理睡眠制御学	780,000	補委	文部科学省
睡眠が病態脳の興奮・抑制状態に与える影響:てんかんとミオクローヌスの生理学的解析	人見 健文	検査部	2,600,000	補委	文部科学省
肺癌診療におけるX線CT検査利用の最適化	久保 武	放射線部	1,820,000	補委	文部科学省
Double IR法による中枢神経病変検出の最適化と臨床的有用性の検討	金柿 光憲	放射線部	1,300,000	補委	文部科学省
食道静脈瘤発現の予測に対する非造影MR perfusion画像の有用性の検討	古田 昭寛	放射線部	1,950,000	補委	文部科学省
慢性白血病治療薬の開発(23-A-23)小林班	前川 平	輸血細胞治療部	500,000	補委	(独)国立がん研究センター
微小環境に注目したがんの治療戦略開発	前川 平	輸血細胞治療部	2,200,000	補委	文部科学省
iPS細胞技術を基盤とする血小板製剤の開発と臨床試験	前川 平	輸血細胞治療部	5,000,000	補委	文部科学省
微小環境に注目したがんの治療戦略開発	平位 秀世	輸血細胞治療部	1,100,000	補委	文部科学省
STAT-C/EBPβ経路を介した慢性骨髄性白血病幹細胞枯渇療法の開発	横田 明日美	輸血細胞治療部	2,080,000	補委	文部科学省
骨髄低酸素環境における骨髄腫幹細胞維持分子を標的とした新規治療薬の開発	前川 平	輸血細胞治療部	3,770,000	補委	文部科学省
薬物刺激間葉系幹細胞を用いたDual Stem Cell Therapyの開発	前川 平	輸血細胞治療部	1,820,000	補委	文部科学省
CML幹細胞の特異的代謝経路と転写因子制御を標的とした新規治療薬の開発	前川 平	輸血細胞治療部	4,420,000	補委	文部科学省
C/EBPβの制御による慢性骨髄性白血病幹細胞の維持機構の解明と治療への応用	平位 秀世	輸血細胞治療部	1,950,000	補委	文部科学省
精神・神経疾患の画像リファレンスの構築に関する研究	川口 淳	臨床研究総合センター	2,800,000	補委	(独)国立精神・神経医療研究センター
疫学研究デザイン・統計学的手法に関する検討	田中 佐智子	臨床研究総合センター	300,000	補委	(独)国立がん研究センター
iPS細胞技術を基盤とする血小板製剤の開発と臨床試験	南 学	臨床研究総合センター	4,000,000	補委	文部科学省
パーキンソン病に対する幹細胞移植治療の実現化	清水 章	臨床研究総合センター	7,590,000	補委	文部科学省
ヒトiPS細胞由来間葉系細胞による心臓外科領域の全身炎症反応制御法の開発	丸井 晃	臨床研究総合センター	6,630,000	補委	文部科学省
B細胞分化活性化制御における分化抑制因子Idの役割	蔣 景眞	臨床研究総合センター	900,000	補委	文部科学省
新規CD8T細胞分化機構の腫瘍免疫・自己免疫疾患治療への応用	菅井 学	臨床研究総合センター	1,950,000	補委	文部科学省
新規誘導型制御性CD8T細胞の免疫反応・免疫寛容制御機構の解析	菅井 学	臨床研究総合センター	4,940,000	補委	文部科学省

クラススイッチ組換え制御によるアレルギー制御・治療法の探索	清水 章	臨床研究総合センター	1,820,000	補委	文部科学省
抗原特異的免疫反応制御機構の分子基盤	清水 章	臨床研究総合センター	5,850,000	補委	文部科学省
医学研究に関する各種倫理指針の統合を目指す包括的研究〈被験者保護と公益性〉	村山 敏典	臨床研究総合センター	1,690,000	補委	文部科学省
新規マクロファージ活性化制御分子EPRAPの機能解析	南 学	臨床研究総合センター	1,430,000	補委	文部科学省
繊維芽細胞から造血幹細胞へのリプログラミング技法	伊藤 克彦	遺伝子診療部	650,000	補委	文部科学省
NEDD8修飾された癌遺伝子ガンキリンのプロテアソーム活性化による卵巣癌発生機序	東辻 久子	遺伝子診療部	2,080,000	補委	文部科学省
RNA結合活性を有する癌遺伝子とmiRNAの相互作用による肝細胞癌発生機序の解析	東辻 宏明	遺伝子診療部	1,560,000	補委	文部科学省
低温ショック蛋白質の精子形成における役割に関する研究	藤田 潤	遺伝子診療部	1,560,000	補委	文部科学省
関節リウマチにおける傍関節性骨粗鬆寄与因子の探索－ケモカインの役割－	伊藤 宣	リウマチセンター	1,950,000	補委	文部科学省
中枢神経系に対する抗U1RNP抗体の病原性に関する研究	藤井 隆夫	リウマチセンター	1,690,000	補委	文部科学省
形質転換を図った肝前駆細胞移植による肝不全治療法の開発に関する研究	水本 雅己	臓器移植医療部	1,170,000	補委	文部科学省
次世代膝蓋移植を目指した幹細胞ニッチのカプセル化による膝蓋再生の研究	岩永 康裕	臓器移植医療部	1,690,000	補委	文部科学省
血液型不適合肝移植術後患者の免疫寛容状態の解析	吉澤 淳	臓器移植医療部	1,560,000	補委	文部科学省
医療サービスの継続性を担保する電子カルテ秘密分散バックアップ技術の研究開発	黒田 知宏	医療情報企画部	292,500	補委	総務省
実世界指向ユビキタス病院情報システムの開発	黒田 知宏	医療情報企画部	11,830,000	補委	文部科学省
Webサービス技術を応用した診療情報の活用に関する研究	岡本 和也	医療情報企画部	1,430,000	補委	文部科学省
パーキンソン病におけるL-ドパの個別化処方設計への研究	松原 和夫	薬剤部	1,430,000	補委	文部科学省
多階層解析による薬剤性心筋・骨格筋障害の支配因子特定と予防法の開発	松原 和夫	薬剤部	5,200,000	補委	文部科学省
腎MATEトランスポータによるドパミン輸送と体液量調節との関連解明	梶原 望渡	薬剤部	2,210,000	補委	文部科学省
ユビキチンリガーゼの発現量を指標とした脳機能評価法の確立と薬物治療への応用	大村 友博	薬剤部	1,560,000	補委	文部科学省
治療薬開発を目指したリボフラビントランスポータ機能欠損の病態生理に関する研究	米澤 淳	薬剤部	1,820,000	補委	文部科学省

小計 21  
合計 401

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 2 論文発表等の実績

#### (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Kawabata H	Department of Hematology and Oncology Graduate School of Medicine, Kyoto University	Clinical Features and Treatment of Multicentric Castleman's Disease : A Retrospective Study of 21 Japanese Patients at a Single Institute	J Clin Exp Hematop.53(1):69-77, 2013
2	Kawabata H	Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Japan.	Successful Treatment of a Patient with Multicentric Castleman's Disease who Presented with Thrombocytopenia, Ascites, Renal Failure and Myelofibrosis Using Tocilizumab, an Anti-Interleukin-6 Receptor Antibody	Intern Med.52(13):1503-7, 2013
3	Yamashita K	Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Enhanced generation of reactive oxygen species by interferon-gamma may have contributed to successful treatment of invasive pulmonary aspergillosis in a patient with chronic granulomatous disease.	Int J Hematol.97(4):505-10, 2013
4	Chonabayashi K	Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Direct binding of Grb2 has an important role in the development of myeloproliferative disease induced by ETV6/FLT3	Leukemia.27(6):1433-6, 2013
5	Sakamoto T	Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	CKIP-1 is an intrinsic negative regulator of T-cell activation through an interaction with CARMA1	PLOS ONE.9(1):e85762, 2014
6	Sato T	Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto 606-8507, Japan	Human CD1c+ Myeloid Dendritic Cells Acquire a High Level of Retinoic Acid-Producing Capacity in Response to Vitamin D3	J Immunol.191(6):3152-60, 2013
7	Shimazu Y	Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan.	Human herpesvirus-6 encephalitis during hematopoietic stem cell transplantation leads to poor prognosis.	Transpl Infect Dis.15(2):195-201, 2013
8	Arai Y	Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan.	Serum neutrophil extracellular trap levels predict thrombotic microangiopathy after allogeneic stem cell transplantation	Biol Blood Marrow Transplant.19(12):1683-9, 2013
9	Arai Y	Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Japan	Syndrome of inappropriate antidiuretic hormone secretion induced by tacrolimus following allogeneic cord blood transplantation	Intern Med.52(11):1223-6, 2013

10	Arai Y	Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Familial Mediterranean fever mutations in a patient with recurrent episodes of acute respiratory distress syndrome	Clin Immunol.147(1):58-60, 2013
11	Kadowaki N	Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Guest editorial: immunotherapy for hematological malignancies: the quest to overcome tolerogenic drive	International journal of hematology.99(2):105-6, 2014
12	Chonabayashi K	Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, 54 Shogoin-Kawahara-cho, Sakyo-ku, Kyoto, 606-8507, Japan	Successful allogeneic stem cell transplantation with long-term remission of ETV6/FLT3-positive myeloid/lymphoid neoplasm with eosinophilia	Ann Hematol.93(3):535-7, 2014
13	Yoshioka S	Department of Hematology/Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University; Department of Transfusion Medicine & Cell Therapy, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan.	CCAAT/Enhancer-Binding Protein beta Expressed by Bone Marrow Mesenchymal Stromal Cells Regulates Early B-Cell Lymphopoiesis	Stem Cells.32(3):730-40, 2014
14	Nagai Y	Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University,	A case of minor BCR-ABL1 positive acute lymphoblastic leukemia following essential thrombocythemia and originating from a clone distinct from that harboring the JAK2-V617F mutation	Exp Hematol Oncol.3(1):6, 2014
15	Matsui Y	Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto 606-8507, Japan	Defining HIV-1 Vif residues that interact with CBFbeta by site-directed mutagenesis	Virology.449:82-7, 2014
16	Arai Y	Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto 606-8507, Japan	Uric acid induces NADPH oxidase-independent neutrophil extracellular trap formation	Biochem Biophys Res Commun.443(2):556-61, 2014
17	S.-I. Harashima	Department of Diabetes and Clinical Nutrition, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Efficacy and safety of switching from basal insulin to sitagliptin in Japanese type 2 diabetes patients.	Horm. Metab. Res., 45:231-238, 2013.
18	Daisuke Tanaka	Department of Diabetes and Clinical Nutrition, Graduate School of Medicine, Kyoto University, 54 Shogoin-Kawahara-cho, Sakyo-ku, Kyoto, 606-8507, Japan.	Exome sequencing identifies a new candidate mutation for susceptibility to diabetes in a family with highly aggregated type 2 diabetes.	Mol. Genet. Metab.109: 112-117, 2013.
19	Yaeko Kondo	Department of Diabetes and Clinical Nutrition, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Japan.	A hospital-based cross-sectional study to develop an estimation formula for 2-h post-challenge plasma glucose for screening impaired glucose tolerance.	Diabetes Res. Clin. Pract. 101: 218-225, 2013.
20	Ablizi Abudukadier	Department of Diabetes and Clinical Nutrition, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan.	Tetrahydrobiopterin has a glucose-lowering effect by suppressing hepatic gluconeogenesis in an endothelial nitric oxide synthase-dependent manner in diabetic mice.	Diabetes 62: 3033-3043, 2013.

21	N. Inagaki	Department of Diabetes and Clinical Nutrition, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan.	Linagliptin provides effective, well-tolerated add-on therapy to pre-existing oral antidiabetic therapy over 1 year in Japanese patients with type 2 diabetes.	Diabetes Obes. Metab. 15: 833-843, 2013.
22	Kaori Ikeda	Department of Diabetes and Clinical Nutrition, Graduate School of Medicine, Kyoto University, 54 Shogoin Kawahara-cho, Sakyo-ku, Kyoto 606-8507, Japan.	A new equation to estimate basal energy expenditure of patients with diabetes.	Clin. Nutr. 32: 777-782, 2013.
23	Nobuya Inagaki	Department of Diabetes and Clinical Nutrition, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan.	Efficacy and safety of canagliflozin in Japanese patients with type 2 diabetes: A randomized, double-blind, placebo-controlled, 12-week study.	Diabetes Obes. Metab. 25: 1136-1145, 2013.
24	Nobuya Inagaki	Department of Diabetes and Clinical Nutrition, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan.	SYR-472, a novel once-weekly dipeptidyl peptidase-4 (DPP-4) inhibitor, in type 2 diabetes mellitus: a phase 2, randomised, double-blind, placebo-controlled trial.	Lancet Diabetes Endocrinology 2: 125-132, 2014
25	Yuichi Sato	Department of Diabetes and Clinical Nutrition Graduate School of Medicine Kyoto University Kyoto Japan.	Palmitate induces reactive oxygen species production and $\beta$ -cell dysfunction by activating nicotinamide adenine dinucleotide phosphatase oxydase through Src signaling.	J. Diabetes Invest. 5: 19-26, 2014.
26	Nobuya Inagaki	Department of Diabetes, Endocrinology and Nutrition, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Long-term Effects of Mitiglinide in Japanese Diabetics Inadequately Controlled with DPP-4 Inhibitor or Biguanide Monotherapy.	Diabetes Ther. 5: 97-111, 2014.
27	Daniela Nasteska	Department of Diabetes, Endocrinology and Nutrition, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan.	Chronic reduction of GIP secretion alleviates obesity and insulin resistance under high-fat diet conditions.	Diabetes 63: 2332-2343, 2014.
28	Nobuya Inagaki	Kyoto University Graduate School of Medicine, Department of Diabetes, Endocrinology and Nutrition, Kyoto, Japan.	Efficacy and safety of canagliflozin monotherapy in Japanese patients with type 2 diabetes inadequately controlled with diet and exercise: a 24-week, randomized, double-blind, placebo-controlled, Phase III study.	Expert Opin. Pharmacother. 15: 1501-1515, 2014.
29	Ueda Y	Department of Gastroenterology and Hepatology, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Pretransplant serum hepatitis C virus RNA levels predict response to antiviral treatment after living donor liver transplantation.	PLoS One. 2013;8(3):e58380.
30	Ueda Y	Department of Gastroenterology and Hepatology, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Efficacy and safety of prophylaxis with entecavir and hepatitis B immunoglobulin in preventing hepatitis B recurrence after living-donor liver transplantation.	Hepatol Res. 2013 ;43(1):67-71
31	Kurita A	Department of Gastroenterology and Hepatology, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Endoscopic stent placement above the intact sphincter of Oddi for biliary strictures after living donor liver transplantation.	J Gastroenterol. 2013 ;48(9)

32	Watanabe T	Department of Gastroenterology and Hepatology, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Relationship between pancreatic perfusion parameters and clinical complications of severe acute pancreatitis.	Pancreas. 2013 ;42(1):
33	Honzawa Y	Department of Gastroenterology and Hepatology, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Prior use of immunomodulatory drugs improves the clinical outcome of endoscopic balloon dilation for intestinal stricture in patients with Crohn's disease.	Dig Endosc. 2013 ;25(5):535-43
34	Ueda Y	Department of Gastroenterology and Hepatology, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Plasma cell hepatitis induced by the termination of antiviral therapy for recurrent hepatitis C after living donor liver transplantation.	Hepatol Res. 2013
35	Ueda Y	Department of Gastroenterology and Hepatology, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Chronic rejection associated with antiviral therapy for recurrent hepatitis C after living-donor liver transplantation.	Transplantation. 2014 ;97(3):344-50
36	Ohashi S	Department of Therapeutic Oncology, Kyoto University Graduate School of Medicine	Preclinical validation of talaporfin sodium-mediated photodynamic therapy for esophageal squamous cell carcinoma.	PLoS One. 2014 Aug 4;9(8):e103126.
37	Arai Y	Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan.	The implications of myelodysplastic syndrome - associated chromosomal abnormalities in the development of graft-versus-host disease	Eur J Haematol.90(6):525-30, 2013
38	Kikuchi M	Department of Clinical Pharmacology and Therapeutics, Faculty of Medicine, Kyoto University Hospital	Successful telaprevir treatment in combination of cyclosporine against recurrence of hepatitis C in the Japanese liver transplant patients.	Biol Pharm Bull. 2014;37(3):417-23
39	AIHARA, K	Department of Respiratory Medicine, Kyoto University, Japan	Impaired endothelium-dependent vasodilator response in patients with pulmonary fibrosis. Respiratory medicine	Respiratory medicine, 107(2), pp. 269-275, 2013
40	AIHARA, K	Department of Respiratory Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Clinical relevance of plasma prostaglandin F2alpha metabolite concentrations in patients with idiopathic pulmonary fibrosis	PloS one, 8(6), pp. e66017, 2013
41	AIHARA, K	Department of Respiratory Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Department of Respiratory Care and Sleep Control Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Louis Pasteur Center for Medical Research	Analysis of systemic and airway inflammation in obstructive sleep apnea	Sleep Breath. 2013 May;17(2):597-604.

42	AIHARA, K	Department of Respiratory Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Measurement of dyspnea in patients with obstructive sleep apnea.	Sleep Breath. 2013 May;17(2):753-761.
43	Chihara Y	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan. Department of Respiratory Care and Sleep Control Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan.	A urine biomarker for severe OSA patients: lipocaline-type prostaglandin D synthase.	Eur Respir J 2013; 42:1563-1574.
44	CHIHARA, Y	Department of Respiratory Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Flexible positive airway pressure improves treatment adherence compared with auto-adjusting PAP	Sleep, 36(2), pp. 229-236, 2013
45	Tanizawa K	Department of Respiratory Care and Sleep Control Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan.	Interferon regulatory factor 5 polymorphisms in sarcoidosis.	Mod Rheumatol 2013; 23:1158-1165.
46	KANEMITSU, Y	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Increased periostin associates with greater airflow limitation in patients receiving inhaled corticosteroids	The Journal of allergy and clinical immunology, 132(2), pp. 305-12.e3, 2013
47	KIM, Y.H	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Phase II study of pemetrexed as first-line treatment in elderly (>/=75) non-squamous non-small-cell lung cancer: Kyoto Thoracic Oncology Research Group Trial 0901	Cancer chemotherapy and pharmacology, 71(6), pp. 1445-1451, 2013
48	KIM, Y.H	Department of Respiratory Medicine, Kyoto University, Japan	"Combined" small cell and "pure" small cell lung cancer: is there a clinical difference?	Medical oncology (Northwood, London, England), 30(2), pp. 600-013-0600-1, 2013
49	KIM, Y.H	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Therapeutic strategy for non-small-cell lung cancer patients with brain metastases (Review).	Biomedical reports, 1(5), pp. 691-696, 2013
50	KIM, Y.H	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Continuous morphine infusion for end-stage lung cancer patients	Oncology letters, 5(3), pp. 972-974, 2013
51	KIM, Y.H	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	High-dose crizotinib for brain metastases refractory to standard-dose crizotinib	Journal of thoracic oncology : official publication of the International Association for the Study of Lung Cancer, 8(9), pp. e85-6, 2013

52	KURIYAMA, Y	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Disease flare after discontinuation of crizotinib in anaplastic lymphoma kinase-positive lung cancer.	Case reports in oncology, 6(2), pp. 430-433, 2013
53	MASAGO, K	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Effect of the BCL2 gene polymorphism on survival in advanced-stage non-small cell lung cancer patients who received chemotherapy	Oncology, 84(4), pp. 214-218, 2013
54	MURASE, K	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan, Department of Medicine and Clinical Science, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan, Department of Respiratory Care and Sleep Control Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan, Department of Respiratory Medicine, Red Cross Otsu Hospital, Shiga, Japan	Association between plasma neutrophil gelatinase associated lipocalin level and obstructive sleep apnea or nocturnal intermittent hypoxia	PloS one, 8(1), pp. e54184, 2013
55	NAGAI, H	Department of Therapeutic Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Use of glucose solution for the alleviation of gemcitabine-induced vascular pain: a double-blind randomized crossover study	Supportive care in cancer : official journal of the Multinational Association of Supportive Care in Cancer, 21(12), pp. 3271-3278, 2013
56	NAKAJI, H	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Effects of 24-week add-on treatment with ciclesonide and montelukast on small airways inflammation in asthma	Annals of Allergy, Asthma & Immunology : Official Publication of the American College of Allergy, Asthma, & Immunology, 110(3), pp. 198-203.e3, 2013
57	OGUMA, T	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Limitations of airway dimension measurement on images obtained using multi-detector row computed tomography	PloS one, 8(10), pp. e76381, 2013
58	TAJIRI, T	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Efficacy of omalizumab in eosinophilic chronic rhinosinusitis patients with asthma	Annals of Allergy, Asthma & Immunology : Official Publication of the American College of Allergy, Asthma, & Immunology, 110(5), pp. 387-388, 2013
59	TAJIRI, T	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Association of eosinophilic inflammation with FKBP51 expression in sputum cells in asthma	PloS one, 8(6), pp. e65284, 2013

60	TANABE, N	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Thioredoxin-1 protects against neutrophilic inflammation and emphysema progression in a mouse model of chronic obstructive pulmonary disease exacerbation	PLoS one, 8(11), pp. e79016, 2013
61	TANIZAWA, K	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	The prognostic value of HRCT in myositis-associated interstitial lung disease	Respiratory medicine, 107(5), pp. 745-752, 2013
62	TOGASHI, Y	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Pneumocystis jiroveci pneumonia and colonization in patients with advanced lung cancer.	Oncology letters, 5(2), pp. 601-604, 2013
63	TOYAMA, Y	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Association between sleep apnea, sleep duration, and serum lipid profile in an urban, male, working population in Japan.	Chest, 143(3), pp. 720-728, 2013
64	Mimori T	Department of Rheumatology and Clinical Immunology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Neutrophils are essential as a source of IL-17 in the effector phase of arthritis.	PLoS One. 2013 May 6;8(5):e62231.
65	Mimori T	Department of Rheumatology and Clinical Immunology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Three Groups in the 28 Joints for Rheumatoid Arthritis Synovitis – Analysis Using More than 17,000 Assessments in the KURAMA Database.	PLoS One 2013, 8: e59341
66	Mimori T	Department of Rheumatology and Clinical Immunology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	PLD4 as a novel susceptibility gene for systemic sclerosis in a Japanese population.	Arthritis Rheum. 2013, 65: 472-80
67	Mimori T	Department of Rheumatology and Clinical Immunology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Inverse association between air pressure and rheumatoid arthritis synovitis: an observational study.	PLoS One 2014, 9: e85376
68	Mimori T	Department of Rheumatology and Clinical Immunology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Sweet's syndrome associated with systemic lupus erythematosus: A case report and review of the literature.	J Dermatol. 2013, 40: 641-8
69	Mimori T	Department of Rheumatology and Clinical Immunology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Association of Takayasu arteritis with HLA-B*67:01 and two amino acids in HLA-B protein.	Rheumatology (Oxford), 2013, 52: 1769-74
70	Mimori T	Department of Rheumatology and Clinical Immunology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Two susceptibility loci to Takayasu arteritis reveal a synergistic role of the IL12B and HLA-B regions in a Japanese population.	Am J Hum Genet. 2013, 93: 289-97

71	Mimori T	Department of Rheumatology and Clinical Immunology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	A case of Behçet's disease developing after poststreptococcal acute glomerulonephritis.	Mod Rheumatol. 2013, 23: 1221-25
72	Mimori T	Department of Rheumatology and Clinical Immunology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Association between anti-U1 ribonucleoprotein antibodies and inflammatory mediators in cerebrospinal fluid of patients with neuropsychiatric systemic lupus erythematosus.	Lupus 2014, 23: 635-642
73	Mimori T	Department of Rheumatology and Clinical Immunology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	A clinical, pathological, and genetic characterization of methotrexate-associated lymphoproliferative disorders.	J Rheumatol. 2014, 41; 293-9
74	Ohtsuru S	Department of Gastroenterology and Hepatology.	Dynamics of defective hepatitis C virus clones in reinfected liver grafts in liver transplant recipients; ultra-deep sequencing analysis.	Journal of Clinical Microbiology 2013, 51(11):3645.
75	Takenobu Y	Division of Neurology, Department of Stroke and Cerebrovascular Diseases, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, Japan ; Human Brain Research Center, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan.	Motor recovery and microstructural change in rubrospinal tract in subcortical stroke.	Clin. 2013;4:201-208
76	Sasamoto A	Department of Psychiatry, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Global Association Between Cortical Thinning and White Matter Integrity Reduction in Schizophrenia	Schizophr Bull. 40(2): P420-427, 2014 Mar
77	Oono M	Molecular Neuroscience Research Center, Shiga University of Medical Science, Otsu, Shiga, Japan; Department of Neurology, Kyoto University Graduate school of Medicine, Kyoto, Japan.	Transglutaminase 2 accelerates neuroinflammation in amyotrophic lateral sclerosis through interaction with misfolded superoxide dismutase 1	J Neurochem. 128(3): P403-418, 2014 Feb
78	Itokazu T	Department of Molecular Neuroscience, Graduate School of Medicine, Osaka University, 2-2 Yamadaoka, Suita, Osaka 565-0871, Japan; Department of Neurology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Sakyo-ku, Kyoto 606-8501, Japan.	Involvement of Wnt/beta-catenin signaling in the development of neuropathic pain.	Neurosci Res. 79: 34-40. 2014 Feb
79	Hitomi T	Department of Neurology, Kyoto University Graduate School of medicine, Department of Respiratory Care and Sleep Control Medicine, Kyoto University Graduate School of medicine.	Increased clinical anticipation with maternal transmission in benign adult familial myoclonus epilepsy in Japan.	Epileptic Disord. 15(4): P428-32, 2013 Dec
80	Morimoto E	Diagnostic Imaging and Nuclear Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan.	Evaluation of focus laterality in temporal lobe epilepsy: a quantitative study comparing double inversion-recovery MR imaging at 3T with FDG-PET.	Epilepsia. 54(12): 2174-83. 2013 Dec



81	Takahashi R	Department of Neurology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Japan.	Genetic correction will be a standard method for the patient-derived ipsi cell research?	Mov Disord. 28(14): 1935. 2013 Dec
82	Yamakado H	Department of Neurology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Japan.	The function of parkin: revisited.	Mov Disord. 28(14): 1936. 2013 Dec
83	Maesako M	School of Human Health Sciences, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan.	Continuation of exercise is necessary to inhibit high fat diet-induced beta-amyloid deposition and memory deficit in amyloid precursor protein transgenic mice.	PLoS One. 8(9): e72796. 2013 Sep 4
84	Ono M	Department of Patho-Functional Bioanalysis, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Kyoto University, Kyoto, Japan.	Development of Novel I-123-Labeled Pyridyl Benzofuran Derivatives for SPECT Imaging of Beta-Amyloid Plaques in Alzheimer's Disease.	PLoS One. 13;8(9): e74104. 2013 Sep 13
85	Oguri T	Human Brain Research Center, Kyoto University Graduate School of Medicine, Japan.	Overlapping connections within the motor cortico-basal ganglia circuit: fMRI-tractography analysis	Neuroimage. 78: P353-362, 2013. Sep
86	Ohno M	Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan.	Nardilysin prevents amyloid plaque formation by enhancing alpha-secretase activity in an Alzheimer's disease mouse model.	Neurobiol Aging. 35(1): 213-22. 2013 Aug
87	Fumuro T	Department of Neurology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan.	Bereitschaftspotential augmentation by neuro-feedback training in Parkinson's disease.	Clin Neurophysiol. 124(7): P1398-1405, 2013 Jul
88	Egawa N	Center for iPS Cell Research and Application (CiRA), Kyoto University, Kyoto 606-8507, Japan.	Response to comment on "Drug screening for ALS using patient-specific induced pluripotent stem cells".	Sci Transl Med. 5(188): 188lr2. 2013 Jun 5
89	Noda Y	Department of Health Science, Kyoto University Graduate School of Medicine, 53 Shogoinkawahara-cho, Sakyo-ku, Kyoto 606-8507, Japan.	Copper enhances APP dimerization and promotes Abeta production	Neurosci Lett. 547: 10-15. 2013 Jun 28
90	Mitsueda-Ono T,	Department of Neurology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Japan.	Internal structural changes in the hippocampus observed on 3-tesla MRI in patients with mesial temporal lobe epilepsy	Intern Med. 52(8): P877-885, 2013 Apr 15
91	Manabu Muto	Department of Gastroenterology and Hepatology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Sakyo-ku, Kyoto, Japan.	A Phase II Clinical Trial of Endoscopic Submucosal Dissection for Early Gastric Cancer of Undifferentiated Type:Japan Clinical Oncology Group Study JCOG1009/1010	Jan J Clin Oncol.43(1)87-91.2013

92	Manabu Muto	Department of Therapeutic Oncology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan.	Endoscopic diagnostic strategy of superficial esophageal squamous cell carcinoma.	Dig Endosc. 25(Suppl 1):1-6.2013
93	Manabu Muto	Department of Gastroenterology and Hepatology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Sakyo, Kyoto, Japan.	Surveillance after endoscopic mucosal resection or endoscopic submucosal dissection for esophageal squamous cell carcinoma	Digestive Endosc .25(Suppl 1):39-43.2013
94	Kanai M	Outpatient Oncology Unit, Kyoto University Hospital	A phase I study investigating the safety and pharmacokinetics of highly bioavailable curcumin (Theracurmin) in cancer patients.	Cancer Chemother Pharmacol. 2013 ;71(6):1521-30
95	Osamu Kikuchi	Department of Gastroenterology and Hepatology, Department of Multidisciplinary Cancer Treatment, and Department of Therapeutic Oncology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Narrow-band Imaging for the Head and Neck Region and the Upper Gastrointestinal Tract.	Jpn J Clin Oncol. 43(5):458-465:2013
96	Motoko Yanagita	Department of Nephrology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Japan	Viral protein R of human immunodeficiency virus type-1 induces retrotransposition of long interspersed element-1.	Retrovirology 2013, 10:83.
97	Motoko Yanagita	Department of Nephrology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Japan	Prognostic Implications of Anemia With or Without Chronic Kidney Disease in Patients Undergoing Elective Percutaneous Coronary Intervention	International Journal of Cardiology 2013, 168(6):5221-5228.
98	Motoko Yanagita	Department of Nephrology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Japan	Bmp7 maintains undifferentiated kidney progenitor population and determines nephron numbers at birth	Plos One 2013 8(8):e73554.
99	Motoko Yanagita	Department of Nephrology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Japan	Kidney regeneration and stem cells	The Anatomical Record 2014, 297(1):129-136
100	Motoko Yanagita	Department of Nephrology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Japan	Physical finding of nutcracker phenomenon.	Kidney International 2013 83:335.
101	Motoko Yanagita	Department of Nephrology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Japan	Renal anemia : from incurable to curable	American Journal of Physiology 2013, 305:F1239-1248.
102	Motoko Yanagita	Department of Nephrology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Japan	Dcl1 distinguishes between tumor and normal stem cells in the intestine	Nature Genetics 2013, 45(1):98-103.

103	Sugie T	Department of Breast Surgery, Kyoto University, Kyoto, Japan.	Comparison of the indocyanine green fluorescence and blue dye methods in detection of sentinel lymph nodes in early-stage breast cancer.	Ann Surg Oncol. 2013 Jul;20(7):2213-8.
104	Toi M	Faculty of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Adjuvant bevacizumab-containing therapy in triple-negative breast cancer (BEATRICE): primary results of a randomised, phase 3 trial.	Lancet Oncol. 2013 ;14(10):933-42
105	Toi M	Faculty of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Comparison of robustness against missing values of alternative decision tree and multiple logistic regression for predicting clinical data in primary breast cancer.	Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc. 2013;2013:3054-7
106	Tomohide Hori	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	How do transplant surgeons accomplish optimal portal venous flow during living-donor liver transplantation?: Noninvasive measurement of indocyanine green elimination rate.	Surgical Innovation .21(1): 43-51,2014
107	Yoshiya Kawaguchi	Department of Clinical Application, Center for iPS cell Research and Application (CiRA), Kyoto University, Kyoto, Japan.	Sox9 and programming of liver and pancreatic progenitors.	J Clin Invest.123(5): 1881-1886, 2013
108	Toshimi Kaido	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Impact of sarcopenia on survival in patients undergoing living donor liver transplantation.	Am J Transplant .13(6): 1549-1556, 2013
109	Toshimi Kaido	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Direct segmental multi-frequency bioelectrical impedance analysis is useful to evaluate sarcopenia.	Am J Transplant .13(9): 2506-2507, 2013
110	Toshimi Kaido	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Usefulness of Kyoto criteria as expanded selection criteria for liver transplantation for hepatocellular carcinoma.	Surgery.154(5): 1053-1060, 2013
111	Toshihiko Masui	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Long-term survival after resection of pancreatic ductal adenocarcinoma with para-aortic lymph node metastasis: case report	World Journal of Surgical Oncology .11: 195,2013
112	Junji Komori	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Potential barriers to human hepatocyte transplantation in MUP-uPA <sup>tg</sup> (+/+)Rag2 <sup>-/-</sup> gammaC <sup>-/-</sup> mice.	Cell transplantation., 2013.
113	Tomohide Hori	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Liver graft pretreated in vivo or ex vivo by gamma-aminobutyric acid receptor regulation.	J Surg Res.182: 166-175, 2013

114	Tomohide Hori	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Matrix metalloproteinase-9 as a therapeutic target for the progression of fulminant liver failure with hepatic encephalopathy: a pilot study in mice.	Hepatol Res.44(6): 651-662,2014
115	Tomohide Hori	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Malignant pheochromocytoma:hepatectomy for liver metastases.	World J Gastrointest Surg.5(11): 309-313, 2013
116	Tomohide Hori	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Adult with primary hyperoxaluria type 1 regrets not receiving preemptive liver transplantation during childhood: report of a case.	Surg Today.43(11): 1185-1187, 2013.
117	Tomohide Hori	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Pretreatment of Small-for-Size Grafts In Vivo by gamma-Aminobutyric Acid Receptor Regulation against Oxidative Stress-Induced Injury in Rat Split Orthotopic Liver Transplantation.	International Journal of Hepatology, 2013
118	Tomohide Hori	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Key techniques for orthotopic liver transplantation model with a 30 % graft in swine.	Surg Today .43(9): 1079-1080,2013
119	Tomohide Hori	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Pretreatment of liver grafts in vivo by gamma-aminobutyric acid receptor regulation reduces cold ischemia/warm reperfusion injury in rat.	Ann Transplant.18: 299-313,2013
120	Tomohide Hori	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Hematogenous umbilical metastasis from colon cancer treated by palliative single-incision laparoscopic surgery.	World J Gastrointest Surg.5(10): 272-277,2013
121	Shintaro Yagi	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	A novel organ preservation for small partial liver transplantations in rats: venous systemic oxygen persufflation with nitric oxide gas.	Am J Transplant .13(1): 222-228, 2013
122	Tadahiro Uemura	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Endogenous STAT3 is required for protection of hepatocytes from warm ischemia/reperfusion injury	Liver Transplantation.19(10): 1078-87,2013
123	Toshiyuki Hata	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Transplantation of engineered chimeric liver with autologous hepatocytes and xenobiotic scaffold.	Ann Surg .257(3): 542-547, 2013.
124	Toshiyuki Hata	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Transplantable liver production plan: "Yamaton"-liver project, Japan.	Organogenesis.9(4): 235-238, 2013.

125	Takamichi Ishii	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Sorafenib in a hepatocellular carcinoma patient with end-stage renal failure: a pharmacokinetic study.	Hepatology Research.44(6): 685-688, 2013
126	Takamichi Ishii	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	High risk of lung metastasis after resection of hepatocellular carcinoma more than 7 cm in diameter.	Surg Today, 2013
127	Satoru Seo	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Usefulness of endoscope guided transabdominal ultrasonography in T staging of colorectal cancer	Hepato-Gastroenterology.60(127): 1627-1632, 2013
128	Ken Fukumitsu	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Assembly of Human Organs from Stem Cells to Study Liver Disease.	Am J Pathol.184(2): 348-57, 2014
129	Kazuyuki Nagai	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Impact of venous-systemic oxygen persufflation with nitric oxide gas on steatotic grafts after partial orthotopic liver transplantation in rats.	Transplantation.95(1): 78-84, 2013
130	Junji Iwasaki	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Portocaval shunt for hepatocyte package: challenging application of small intestinal graft in animal models.	Organogenesis.9(4): 273-279, 2013
131	Kenya Yamanaka	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Effect of olprinone on liver microstructure in rat partial liver transplantation.	J Surg Res.183(1): 391-396, 2013.
132	Kenya Yamanaka	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	A single-center analysis of the survival benefits of adjuvant gemcitabine chemotherapy for biliary tract cancer.	Int J Clin Oncol.19(3): 485-489, 2013
133	Shunichi Saito	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Cilostazol attenuates hepatic stellate cell activation and protects mice against carbon tetrachloride-induced liver fibrosis.	Hepatology Research.44: 460-473, 2013
134	Satoshi Ogiso	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Posterior Approach for Laparoscopic Pancreaticoduodenectomy to Prevent Replaced Hepatic Artery Injury	Ann Surg Oncol.20(9): 3120, 2013
135	Satoshi Ogiso	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Parenchyma-sparing anatomical liver resection based on Hjortsjo's concept: a venous-drainage-guided approach to identify the ventral segment fissure	Langenbecks Arch Surg.398(5): 751-8, 2013

136	Yukinori Koyama	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Effects of oral intake of hydrogen water on liver fibrogenesis in mice.	Hepatology Research.44(6): 663-677,2013
137	Kojiro Nakamura	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Soluble thrombomodulin attenuates sinusoidal obstruction syndrome in rat through suppression of high mobility group box 1.	Liver International.2013
138	Yosuke Kasai	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Prediction of the Remnant Liver Hypertrophy Ratio after Preoperative Portal Vein Embolization	European Surgical Research.51(3-4): 129-137, 2013
139	Yukihiro Okuda	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Useful and convenient procedure for intermittent vascular occlusion in laparoscopic hepatectomy	Asian journal of endoscopic surgery.6(2): 100-103,2013
140	Akinari Fukuda	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Living donor liver transplantation for Budd-Chiari syndrome with hepatic inferior vena cava obstruction after open pericardial procedures.	Surg Today.43(10): 1180-1184, 2013.
141	Zhao Xiangdong	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Intragraft Vdelta1 gammadelta T cells with a unique T-cell receptor are closely associated with pediatric semiallogeneic liver transplant tolerance.	Transplantation.9(1)5: 192-202, 2013.
142	Meng F	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Expression of SOX9 in intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas.	Pancreas. 43(1): 7-14,2014
143	Tomohide Hori	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Oxidative stress and extracellular matrices after hepatectomy and liver transplantation in rat models of shear stress with portal hypertension and/or cold ischemia followed by warm reperfusion.	World Journal of Hepatology.6(2): 72-84 ,2014
144	Kanta Jobara	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Whey-hydrolyzed peptide-enriched immunomodulating diet prevents progression of liver cirrhosis in rats.	Nutrition, 2014
145	Hammad A	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Perioperative nutritional therapy in liver transplantation.	Surg Today ,2014
146	Kohta Iguchi	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	The Impact of Posthepatectomy Liver Failure on the Recurrence of Hepatocellular Carcinoma	World Journal of Surgery. 38(1): 150-158, 2014

147	Tomohide Hori	Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Matrix metalloproteinase-9 after the cold ischemia/reperfusion injury and/or shear stress with portal hypertension: an overview.	Surgery Today.44 (1): 201-203,2014
148	Tomohide Hori	Divisions of Hepato-Pancreato-Biliary, Transplant and Pediatric Surgery, Department of Surgery, Kyoto University	Liver transplantation for primary hyperoxaluria type 1: a single-center experience during two decades in Japan.	World J Surg 37: 688-693, 2013
149	Atsushi Yoshizawa	Divisions of Hepato-Pancreato-Biliary, Transplant and Pediatric Surgery, Department of Surgery, Kyoto University	Significance of Semiquantitative Assessment of Preformed Donor-Specific Antibody Using Luminex Single Beads Assay in Living Related Liver Transplantation	Clin Dev Immunol. 2013;2013:972705
150	Tatsuya Okamoto	Divisions of Hepato-Pancreato-Biliary, Transplant and Pediatric Surgery, Department of Surgery, Kyoto University	Suppression of acute rejection by administration of prostaglandin E2 receptor subtype 4 agonist in rat organ transplantation models.	J Surg Res 183: 852-859, 2013
151	Hata M	Department of Ophthalmology and Visual Sciences, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Case of simultaneous bilateral anterior ischemic optic neuropathy associated with Takayasu disease.	Can J Ophthalmol. 2013;48:e33-35.
152	Ito H	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Association between fluorescein leakage and optical coherence tomographic characteristics of microaneurysms in diabetic retinopathy.	Retina. 2013;33:732-739.
153	Nakagawa S	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	The time course changes of choroidal neovascularization in angioid streaks.	Retina. 2013;33:825-833.
154	Nakata I	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Two-year outcome of photodynamic therapy combined with intravitreal injection of bevacizumab and triamcinolone acetonide for polypoidal choroidal vasculopathy.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2013;251:1073-1080.
155	Takayama K	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	High-resolution imaging of retinal nerve fiber bundles in glaucoma using adaptive optics scanning laser ophthalmoscopy.	Am J Ophthalmol. 2013;155:870-881.
156	Akagi T	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Peripapillary scleral deformation and retinal nerve fiber damage in high myopia assessed with swept-source optical coherence tomography.	Am J Ophthalmol. 2013;155:927-936.
157	Ogino K	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Concentric division of 10° visual field tests in retinitis pigmentosa.	Jpn J Ophthalmol. 2013;57:268-274.

158	Muraoka Y	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Branch retinal vein occlusion-associated subretinal hemorrhage.	Jpn J Ophthalmol. 2013;57:275-282.
159	Ogino K	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Intravitreal injection of ranibizumab for recovery of macular function in eyes with subfoveal polypoidal choroidal vasculopathy.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2013;54:3771-3779.
160	Oishi A	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Longitudinal analysis of the peripapillary retinal nerve fiber layer thinning in patients with retinitis pigmentosa.	Eye (Lond). 2013;27:597-604.
161	Miyake M	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Insulin-like growth factor 1 is not associated with high myopia in a large Japanese cohort.	Mol Vis. 2013;19:1074-1081.
162	Yokota S	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Objective assessment of foveal cone loss ratio in surgically closed macular holes using adaptive optics scanning laser ophthalmoscopy.	PLoS One. 2013;8:e63786.
163	Iida Y	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Local biometric features and visual prognosis after surgery for treatment of myopic foveoschisis.	Retina. 2013;33:1179-1187.
164	Ooto S,	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Comparison of cone pathologic changes in idiopathic macular telangiectasia types 1 and 2 using adaptive optics scanning laser Ophthalmoscopy.	Am J Ophthalmol. 2013;155:1045-1057.
165	Takahashi A	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	High-penetration optical coherence tomography and enhanced depth imaging in presumed retinal pigment epithelial hamartoma.	Retinal Cases and Brief Reports. 2013;7:179-182.
166	Ozeki-Jingami Y	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Features and surgical outcome of retinal nerve fiber layer alterations associated with epiretinal membrane.	Retinal Cases and Brief Reports. 2013;7:198 - 203
167	Miyake M	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Evaluation of pigment epithelium-derived factor and complement factor I polymorphisms as a cause of choroidal neovascularization in highly myopic eyes.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2013;54:4208-4212.
168	Arichika S	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Noninvasive and direct monitoring of erythrocyte aggregates in human retinal microvasculature using adaptive optics scanning laser ophthalmoscopy.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2013;54:4394-4402.



169	Takayama K,	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Three-dimensional imaging of lamina cribrosa defects in glaucoma using swept-source optical coherence tomography.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2013;54:4798-4807.
170	Lee J	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Measurement of macular ganglion cell layer and circumpapillary retinal nerve fiber layer to detect paracentral scotoma in early glaucoma.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2013;251:2003-2012.
171	Makiyama Y,	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Clinical and immunological characterization of paraneoplastic retinopathy.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2013;54:5424-5431.
172	Murakami T	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Structural changes in individual retinal layers in diabetic macular edema.	J Diabetes Res. 2013;2013:920713.
173	Nakano N	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Macular imaging in highly myopic eyes with and without glaucoma.	Am J Ophthalmol. 2013;156:511-523.
174	Nakata I	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Association between the cholesteryl ester transfer protein gene and polypoidal choroidal vasculopathy.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2013;54:6068-6073.
175	Oishi A	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Wide-Field fundus autofluorescence imaging of retinitis pigmentosa.	Ophthalmology. 2013;120:1827-1834.
176	Ellabban AA	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Focal choroidal excavation in eyes with central serous chorioretinopathy.	Am J Ophthalmol. 2013;156:673-683.
177	Muraoka Y	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Age- and hypertension-dependent changes in retinal vessel diameter and wall thickness:An optical coherence tomography study.	Am J Ophthalmol. 2013;156:706-714.
178	Nakata I	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Prevalence and characteristics of age-related macular degeneration in the Japanese population	Am J Ophthalmol. 2013;156:1002-1009.
179	Kimura Y	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Macular structure parameters as an automated indicator of paracentral scotoma in early glaucoma.	Am J Ophthalmol. 2013;156:907-917

180	Uji A	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Image quality improvement in adaptive optics scanning laser ophthalmoscopy assisted capillary visualization using B-spline-based elastic image registration.	PLoS One. 2013;8:e80106
181	Oishi M	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Association between ZIC2, RASGRF1, and SHISA6 genes and high myopia in Japanese subjects.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2013;54:7492-7497
182	Makiyama Y	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Macular cone abnormalities in retinitis pigmentosa with preserved central vision using adaptive optics scanning laser ophthalmoscopy.	PLoS One. 2013;8:e79447.
183	Murakami T	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Association between perifoveal hyperfluorescence and serous retinal detachment in diabetic macular edema.	Ophthalmology. 2013;120:2596-2603.
184	Ooto S	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Reduction of retinal sensitivity in eyes with reticular pseudodrusen.	Am J Ophthalmol. 2013;156:1184-1191.
185	Hata M	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Measurement of retinal nerve fiber layer thickness in eyes with optic disc swelling by using scanning laser polarimetry and optical coherence tomography.	Clin Ophthalmol. 2014;8:105-111.
186	Uji A	Department of Ophthalmology and Visual Sciences, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan.	Parallelism as a novel marker for structural integrity of retinal layers in optical coherence tomographic images in eyes with epiretinal membrane.	Am J Ophthalmol. 2014;157:227-236
187	Miyake M	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Vascular endothelial growth factor gene and the response to anti-vascular endothelial growth factor treatment for choroidal neovascularization in high myopia.	Ophthalmology. 2014;121:225-233.
188	Muraoka Y	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Retinal vessel tortuosity associated with central retinal vein occlusion: An optical coherence tomography study.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2014;55:134-141
189	Inui E	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Tomographic comparison of cone-rod and rod-cone retinal dystrophies.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2014;52(7):1065-9.
190	Yoshikawa M	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Alterations in the neural and connective tissue components of glaucomatous cupping after glaucoma surgery using swept source optical coherence tomography.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2014;55:477-484.

191	Tanioka M	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Calcification of the placenta in a woman with pseudoxanthoma elasticum with a mutation of the ABCC6 gene.	J Dermatol. 2014; 41:189-191.
192	Ogino K	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Multiple evanescent white dot syndrome after human papillomavirus vaccination.	Case Rep Ophthalmol. 2014; 5:38-43.
193	Akagi-Kurashige Y	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Retinal microstructural changes in eyes with resolved branch retinal vein occlusion:An adaptive optics scanning laser ophthalmoscopy study.	Am J Ophthalmol. 2014; 157(6):1239-1249.
194	Arichika S	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Adaptive optics-assisted identification of preferential erythrocyte aggregate pathways in the human retinal microvasculature.	PLoS One. 2014; 26;9(2):e89679
195	Nukada M	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Imaging of localized retinal nerve fiber layer defects in preperimetric glaucoma using spectral-domain optical coherence tomography.	J Glaucoma. 2014; 23:150-159.
196	Makiyama Y	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	one abnormalities in fundus albipunctatus associated with RDH5 mutations assessed using adaptive optics scanning laser ophthalmoscopy.	Am J Ophthalmol.2014; 157:558-570
197	Ogino K	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Multimodal evaluation of macular function in age-related macular degeneration.	Jpn J Ophthalmol. 2014; 58:155-165
198	Hangai M	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Paracentral scotoma in glaucoma detected by 10-2 but not by 24-2 perimetry.	Jpn J Ophthalmol. 2014; 58:188-196
199	Kumagai K	Department of Ophthalmology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Three-dimensional optical coherence tomography evaluation of vascular changes at arteriovenous crossings.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2014;55:1867-1875.
200	Koshiyama M	Department of Gynecology and Obstetrics; Kyoto University Graduate School of Medicine; Kyoto, Japan.	Two cases of recurrent ovarian clear cell carcinoma treated with sorafenib.	Cancer Biol Ther. 2014 ;15(1):22-5.
201	Ueda Y	Department of Gynecology and Obstetrics, Kyoto University, Kyoto, Japan.	Serial magnetic resonance imaging of placenta percreta with bladder involvement during pregnancy and postpartum: a case report.	J Obstet Gynaecol Res. 2013 ;39(1):359-63.

202	Kobayashi F	Department of Gynecology and Obstetrics, Kyoto University, Kyoto, Japan.	Pyomyoma during pregnancy: a case report and review of the literature.	J Obstet Gynaecol Res. 2013 ;39(1):383-9.
203	Kawamura A	Department of Gynecology and Obstetrics, Kyoto University, Sakyo-ku, Kyoto, Japan.	Cervical clamp with ring forceps to prevent prolapse of an intrauterine balloon in the management of postpartum hemorrhage.	J Obstet Gynaecol Res. 2013 ;39(3):733-7.
204	Chigusa Y	Department of Gynecology and Obstetrics, Graduate School of Medicine, Kyoto University, 54 Shogoin Kawahara-cho, Sakyo-ku, Kyoto, Japan.	ATP-binding cassette transporter A1 expression is decreased in preeclamptic placentas.	Reprod Sci. 2013 ;20(8):891-8.
205	Furuta N	Department of Gynaecology and Obstetrics, Kyoto University, Kyoto, Japan.	Vaginal delivery in the presence of huge vulvar varicosities: a case report with MRI evaluation.	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2013 ;167(2):127-31.
206	Minamiguchi S	Department of Diagnostic Pathology, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan. minami@kuhp.kyoto-u.ac.jp	Complement split product C4d deposition in placenta in systemic lupus erythematosus and pregnancy-induced hypertension.	Pathol Int. 2013 ;63(3):150-7.
207	Fujita K	Department of Gynecology and Obstetrics, Kyoto University Graduate School of Medicine, Sakyo-ku, Kyoto, Japan.	Endothelial function progressively deteriorates during normal pregnancy.	Hypertens Pregnancy. 2013 ;32(2):129-38.
208	Nishikawa A	Department of Gynaecology and Obstetrics, Kyoto University, Kyoto, Japan.	Ileal perforation and massive intestinal haemorrhage from endometriosis in pregnancy: case report and literature review.	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2013 ;170(1):20-4.
209	Nishikomori R	Department of pediatrics, Graduate school of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Obvious optic disc swelling in a patient with cryopyrin-associated periodic syndrome.	Clin Ophthalmol. 2013;7:1581-5.
210	Shibata M	Department of Pediatrics, Kyoto University Hospital, 54 Shogoin-Kawaharacho, Sakyo-ku, Kyoto 606-8507, Japan.	Paroxysmal gaze deviations as the sole manifestation of occipital lobe epilepsy.	Seizure. 2013 Dec;22(10):913-5.
211	Yoshioka T	Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Kyoto University, 54 Shogoin Kawahara-cho, Sakyo, Kyoto, 606-8507, Japan	Autosomal dominant anhidrotic ectodermal dysplasia with immunodeficiency caused by a novel NFKBIA mutation, p.Ser36Tyr, presents with mild ectodermal dysplasia and non-infectious systemic inflammation.	J Clin Immunol. 2013 Oct;33(7):1165-74.
212	Nishikomori R	Department of Pediatrics, Kyoto University, Japan	MEFV Variants in Patients with PFAPA Syndrome in Japan.	Open Rheumatol J. 2013 Apr 19;7:22-5.

213	Shibata M	Department of Pediatrics, Kyoto University Hospital, 54 Shogoin-Kawaharacho, Sakyo-ku, Kyoto 606-8507, Japan.	Salivary biomarkers are not suitable for pain assessment in newborns.	Early Hum Dev. 2013 Jul;89(7):503-6.
214	Saida S	Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan.	Clonal selection in xenografted TAM recapitulates the evolutionary process of myeloid leukemia in Down syndrome.	Blood. 2013 May 23;121(21):4377-87.
215	Nishikomori R	Department of pediatrics, Graduate school of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan	Safety and efficacy of canakinumab in Japanese patients with phenotypes of cryopyrin-associated periodic syndrome as established in the first open-label, phase-3 pivotal study (24-week results).	Clin Exp Rheumatol. 2013 Mar-Apr;31(2):302-9.
216	Yoshida T	Department of Pediatrics, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan.	MRI gadolinium enhancement precedes neuroradiological findings in acute necrotizing encephalopathy.	Brain Dev. 2013 Nov;35(10):921-4.
217	Niwa F	Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan.	Limited response to CRH stimulation tests at 2 weeks of age in preterm infants born at less than 30 weeks of gestational age.	Clin Endocrinol (Oxf). 2013 May;78(5):724-9.
218	Ogawa O	Department of Urology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto Japan	PThrP is endogenous relaxant for spontaneous smooth muscle contraction in urinary bladder of female rat.	Endocrinology, 154: 2058-2068, 2013
219	Ogawa O	Department of Urology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto Japan	Precise comparison of protein localization among OCT, OAT, and MATE in human kidney.	J Pharm Sci., 102: 3302-3308, 2013
220	Ogawa O	Department of Urology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto Japan	A Survey of the FAERS Database Concerning the Adverse Event Profiles of $\alpha$ 1-Adrenoreceptor Blockers for Lower Urinary Tract Symptoms.	Int J Med Sci. 15: 864-869, 2013
221	Ogawa O	Department of Urology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto Japan	Improvement of prognosis in patients with metastatic renal cell carcinoma and Memorial Sloan-Kettering Cancer Center intermediate risk features by modern strategy including molecular-targeted therapy in clinical practice.	Int J Clin Oncol., 19: 505-515, 2014
222	Ogawa O	Department of Urology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto Japan	Novel constant-pressure irrigation technique for the treatment of renal pelvic tumors after ipsilateral ureterectomy.	Int J Urol., 21: 617-618, 2014
223	Takushi Miyoshi	Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University Department of Pharmacology, Kyoto University Faculty of Medicine	Can filament treadmilling alone account for the F-actin turnover in lamellipodia?	Cytoskeleton (Hoboken). 70(4): P179-90, 2013

224	Takayuki Okano	Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University Laboratory of Cochlear Development, National Institute on Deafness and Other Communication Disorders, National Institutes of Health	Expression of insulin-like growth factor binding proteins during mouse cochlear development.	Dev Dyn. 242(10): P1210-21, 2013
225	Sigeru Hirano	Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Regenerative phonosurgical treatments for vocal fold scar and sulcus with basic fibroblast growth factor.	Laryngoscope. 123(11): P2749-55, 2013
226	Masanobu Mizuta	Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Effect of astaxanthin on vocal fold wound healing.	Laryngoscope. 124(1): E1-E7, 2014
227	Masanobu Mizuta	Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Restoration of scarred vocal folds using 5 amino acid-deleted type hepatocyte growth factor.	Laryngoscope. 124(3): E81-E86, 2014
228	Harukazu Hiraumi	Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Detection of the petrosquamosal sinus in chronic otitis media using high-resolution CT.	Otolaryngol Head Neck Surg. 149(3): P488-91, 2013
229	Yousuke Tona	Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	In Vivo Imaging of Mouse Cochlea by Optical Coherence Tomography.	Otology & Neurotology. 35: e84-e89, 2014
230	So K	Department of Orthopaedics, Kyoto University	Revision total hip replacement with a cemented long femoral component: minimum 9-year follow-up results	Arch Orthop Trauma Surg.133(6) :869-874,2013
231	Matsuda S	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Postoperative alignment and ROM affect patient satisfaction after TKA	Clin Orthop Relat Res.471(1) :127-133,2013
232	So K	Department of Orthopaedic Surgery, Kyoto University	Is the bone-bonding ability of a cementless total hip prosthesis enhanced by alkaline and heat treatments?	Clin Orthop Relat Res.471(12) ;3847-3855,2013
233	Kakinoki R	Department of Orthopedic Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	A modified tension band wiring technique for treatment of the bony mallet finger	Hand Surg.18(2):235-242,2013
234	Tsukanaka M	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Evaluation of bioactivity of alkali- and heat-treated titanium using fluorescent mouse osteoblasts	J Bone Miner Metab.[Epub ahead of print],2013

235	Murao H	Department of Orthopaedics, Kyoto University	Periosteal cells are a major source of soft callus in bone fracture	J Bone Miner Metab.31(4) :390-398,2013
236	Kaizawa Y	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Free functional muscle transplantation of an anomalous femoral adductor with a very large muscle belly: a case report	J Brachial Plex Peripher Nerve Inj.8(1) :11,2013
237	Noguchi T	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	A new cervical nerve root avulsion model using a posterior extra-vertebral approach in rats	J Brachial Plex Peripher Nerve Inj.8(1):8-16,2013
238	Kawai T	Department of Orthopedic Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Osteoconduction of porous Ti metal enhanced by acid and heat treatments	J Mater Sci Mater Med.24(7):1707-1715,2013
239	Akiyama H	Department of Orthopaedics, Kyoto University	In-vitro characteristics of cemented titanium femoral stems with a smooth surface finish	J Orthop Sci.18(1) :29-37,2013
240	Akiyama H	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Study of a retrieved cementless acetabular cup with an AW-GC bottom coating	J Orthop Sci.18(6):1037-1041,2013
241	Kimura H	Department of Orthopedic Surgery, Gakkentoshi Hospital	Pedicle Screw Fluid Sign: An Indication on Magnetic Resonance Imaging of a Deep Infection After Posterior Spinal Instrumentation	J Spinal Disord Tech.[Epub ahead of print],2013
242	Murata K	Kyoto University Graduate School of Medicine, Department of Orthopaedic Surgery	Comprehensive microRNA analysis identifies miR-24 and miR-125a-5p as plasma biomarkers for rheumatoid arthritis	PLoS One.8(7):e69118,2013
243	Izeki M	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Reduction of atlantoaxial subluxation causes airway stenosis	Spine.38(9):E513-520,2013
244	Izeki M	Department of Orthopaedic Surgery, Kyoto University	Utility of the analysis of intracranial venous sinuses using preoperative computed tomography venography for safe occipital screw insertion	Spine.38(18):E1149-1155,2013
245	Fujibayashi S	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Strategy for salvage pedicle screw placement: A technical note	The International Journal of Spine Surgery.7(1):e67-71,2013

246	Fujino J	Department of Psychiatry, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Impaired empathic abilities and reduced white matter integrity in schizophrenia.	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry 48 P117-23, 2014
247	Ubukata S	Department of Psychiatry, Graduate School of Medicine, Kyoto University	Regional gray matter reduction correlates with subjective quality of life in schizophrenia.	J Psychiatr Res 47(4) P548-54, 2013
248	Huang B	Department of Oral & Maxillofacial Surgery, Kyoto University, Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Assessing anteroposterior basal bone discrepancy with the Dental Aesthetic Index	Angle Orthod, 83, 527-532, 2013
249	Yamazaki, T.	Department of Oral & Maxillofacial Surgery, Kyoto University, Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Mastication and risk for diabetes in a Japanese population: a cross-sectional study	PLoS ONE, 8, e64113, 2013
250	Huang B,	Department of Oral & Maxillofacial Surgery, Kyoto University, Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Phenotypes of CEBPB Deficiency: Supernumerary Teeth and Elongated Coronoid Proces	Oral Diseases, 19, 144-150, 2013
251	Togo Y	Department of Oral & Maxillofacial Surgery, Kyoto University, Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Aldehyded dextran and epsilon-poly(l-lysine) hydrogel as non-viral gene carrier	Stem Cell Int, 2013, 634379, 2013
252	Nakao K	Department of Oral & Maxillofacial Surgery, Kyoto University, Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	The effects of C-type natriuretic peptide on craniofacial skeletogenesis	J Dent Res. 92, 58-64, 2013
253	Koyama N	Department of Oral & Maxillofacial Surgery, Kyoto University, Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Human Induced Pluripotent Stem Cells Differentiated into Chondrogenic Lineage Via Generation of Mesenchymal Progenitor Cells	Stem Cells Dev. 22, 102-113, 2013
254	Ono T,	Department of Radiation Oncology and Image-applied Therapy, Kyoto University Graduate School of Medicine, 54 Kawahara-cho Shogoin Sakyo-ku, Kyoto, 606-8507, Japan	Geometric and dosimetric accuracy of dynamic tumor-tracking conformal arc irradiation with a gimbaled x-ray head.	Med Phys. 41(3):031705. 2014
255	Ueki N,	Department of Radiation Oncology and Image-applied Therapy, Kyoto University Graduate School of Medicine, 54 Kawahara-cho Shogoin Sakyo-ku, Kyoto, 606-8507, Japan	Intra- and interfractional variations in geometric arrangement between lung tumours and implanted markers.	Radiother Oncol. 110(3):523-8. 2014



256	Sakanaka K,	Department of Radiation Oncology and Image-applied Therapy, Kyoto University Graduate School of Medicine, 54 Kawahara-cho Shogoin Sakyo-ku, Kyoto, 606-8507, Japan	Safety and effectiveness of stereotactic body radiotherapy for a clinically diagnosed primary stage I lung cancer without pathological confirmation.	Int J Clin Oncol. 2013 [Epub ahead of print]
257	Nakamura M,	Department of Radiation Oncology and Image-applied Therapy, Kyoto University Graduate School of Medicine, 54 Kawahara-cho Shogoin Sakyo-ku, Kyoto, 606-8507, Japan	Effect of audio instruction on tracking errors using a four-dimensional image-guided radiotherapy system.	J Appl Clin Med Phys. 6;14(5):255-64. 2013
258	Mampuya WA,	Department of Radiation Oncology and Image-applied Therapy, Kyoto University Graduate School of Medicine, 54 Kawahara-cho Shogoin Sakyo-ku, Kyoto, 606-8507, Japan	Interfraction variation in lung tumor position with abdominal compression during stereotactic body radiotherapy.	Med Phys. 40(9):091718. 2013
259	Akimoto M,	Department of Radiation Oncology and Image-applied Therapy, Kyoto University Graduate School of Medicine, 54 Kawahara-cho Shogoin Sakyo-ku, Kyoto, 606-8507, Japan	Predictive uncertainty in infrared marker-based dynamic tumor tracking with Vero4DRT.	Med Phys. 40(9):091705. 2013
260	Mukumoto N,	Department of Radiation Oncology and Image-applied Therapy, Kyoto University Graduate School of Medicine, 54 Kawahara-cho Shogoin Sakyo-ku, Kyoto, 606-8507, Japan	Accuracy verification of infrared marker-based dynamic tumor-tracking irradiation using the gimbaled x-ray head of the Vero4DRT (MHI-TM2000).	Med Phys. 40(4):041706. 2013
261	Nakamura A,	Department of Radiation Oncology and Image-applied Therapy, Kyoto University Graduate School of Medicine, 54 Kawahara-cho Shogoin Sakyo-ku, Kyoto, 606-8507, Japan	Interfractional dose variations in the stomach and the bowels during breathhold intensity-modulated radiotherapy for pancreatic cancer:Implications for a dose-escalation strategy.	Med Phys. 40(2):021701. 2013
262	Matsugi K,	Radiation Oncology Division, Shiga Medical Center for Adults, 5-4-30 Moriyama, Moriyama, 524-8524, Japan	Evaluation of 4D dose to a moving target with Monte Carlo dose calculation in stereotactic body radiotherapy for lung cancer.	Radiol Phys Technol. 6(1):233-40. 2013
263	Mampuya WA,	Department of Radiation Oncology and Image-applied Therapy, Kyoto University Graduate School of Medicine, 54 Kawahara-cho Shogoin Sakyo-ku, Kyoto, 606-8507, Japan	Differences in dose-volumetric data between the analytical anisotropic algorithm and the x-ray voxel Monte Carlo algorithm in stereotactic body radiation therapy for lung cancer.	Med Dosim. 38(1):95-9. 2013
264	Sakanaka K,	Department of Radiation Oncology and Image-applied Therapy, Kyoto University Graduate School of Medicine, 54 Kawahara-cho Shogoin Sakyo-ku, Kyoto, 606-8507, Japan	Volumetric-modulated arc therapy vs conventional fixed-field intensity-modulated radiotherapy in a whole-ventricular irradiation: a planning comparison study.	Med Dosim. 38(2):204-8. 2013
265	Ikeda I,	Department of Radiation Oncology and Image-applied Therapy, Kyoto University Graduate School of Medicine, 54 Kawahara-cho Shogoin Sakyo-ku, Kyoto, 606-8507, Japan	Assessment of interfractional prostate motion in patients immobilized in the prone position using a thermoplastic shell.	J Radiat Res. 1;55(1):168-74. 2014

266	Ogura K,	Department of Radiation Oncology and Image-applied Therapy, Kyoto University Graduate School of Medicine, 54 Kawahara-cho Shogoin Sakyo-ku, Kyoto, 606-8507, Japan	Efficacy of salvage stereotactic radiotherapy for recurrent glioma: impact of tumor morphology and method of target delineation on local control.	Cancer Med. 2(6):942-9. 2013
267	Ogura K,	Department of Radiation Oncology and Image-applied Therapy, Kyoto University Graduate School of Medicine, 54 Kawahara-cho Shogoin Sakyo-ku, Kyoto, 606-8507, Japan	Initial and cumulative recurrence patterns of glioblastoma after temozolomide-based chemoradiotherapy and salvage treatment: a retrospective cohort study in a single institution.	Radiat Oncol. 23;8:97. 2013
268	Ogura K,	Department of Radiation Oncology and Image-applied Therapy, Kyoto University Graduate School of Medicine, 54 Kawahara-cho Shogoin Sakyo-ku, Kyoto, 606-8507, Japan	Dosimetric advantages of O-ring design radiotherapy system for skull-base tumors.	J Appl Clin Med Phys. 6;15(2):4608. 2014
269	Shitano F	Department of Diagnostic Imaging and Nuclear Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, 54 Kawahara-cho Shogoin, Sakyo-ku, Kyoto, 606-8507, Japan.	Decidualized adenomyosis during pregnancy and post delivery: three cases of magnetic resonance imaging findings.	Abdom Imaging. 2013 ;38(4):851-7.
270	Furuta A	Department of Diagnostic Imaging and Nuclear Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Biliary peritonitis after radiofrequency ablation diagnosed by gadoteric acid-enhanced MR imaging.	Korean J Radiol.14(6):914-7.2013
271	Koyasu S	Department of Diagnostic Imaging and Nuclear Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Bifid tail of the pancreas with localized acute pancreatitis.	Magn Reson Med Sci. 12(4):315-8.2013
272	Mehemed TM	Department of Diagnostic Imaging and Nuclear Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Fat-water interface on susceptibility-weighted imaging and gradient-echo imaging:comparison of phantoms to intracranial lipomas.	AJR Am J Roentgenol.201(4):902-7. 2013
273	Yabuta M	Department of Diagnostic Imaging and Nuclear Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Long-term outcome of percutaneous interventions for hepatic venousoutflow obstruction after pediatric living donor liver transplantation:experience from a single institute.	J Vasc Interv Radiol. 24(11):1673-81.2013
274	Okada T	Department of Diagnostic Imaging and Nuclear Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Magnetic resonanceimaging of vascular encephalopathy related to pregnancy.	Neurol Med Chir (Tokyo).53(8):520-5. 2013
275	Nakatani K	Department of Diagnostic Imaging and Nuclear Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	FDG-PET/CT assessment of misty mesentery: feasibility for distinguishing viable mesenteric malignancy from stableconditions.	Eur J Radiol. 82(8):e380-5.2013

276	Fujimoto K	Department of Diagnostic Imaging and Nuclear Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Diffusion tensor imaging(DTI) of the normal human uterus in vivo at 3 tesla: comparison of DTI parameters in the different uterine layers.	J Magn Reson Imaging. 38(6):1494-500.2013
277	Nakajima S	Department of Diagnostic Imaging and Nuclear Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Organizing intracerebralhematoma mimicking a recurrent brain tumor on FDG-PET.	Clin Nucl Med.8(11):e411-3.2013
278	Nakamoto Y	Department of Diagnostic Imaging and Nuclear Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Clinical value of <sup>11</sup> C-methionine PET/CT in patients with plasma cell malignancy: comparison with <sup>18</sup> F-FDG PET/CT.	Eur J Nucl Med Mol Imaging. 40(5):708-15.2013
279	Yakami M	Department of Diagnostic Imaging and Nuclear Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Using a high-speed movie camera to evaluate slice dropping in clinical image interpretation with stack mode viewers.	J Digit Imaging. 26(3):419-26.2013
280	Miyamoto S	Department of Neurosurgery, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan	Effects of extracranial-intracranial bypass for patients with hemorrhagic moyamoya disease: results of the Japan Adult Moyamoya Trial	Stroke. Epub, 2014
281	Morizane A	Department of Clinical Application, Center for iPS Cell, Kyoto University, Kyoto, Japan.	Neural induction with a dopaminergic phenotype from human pluripotent stem cells through a feeder-free floating aggregation culture	Methods Mol Biol. 1018: P11-19. 2013
282	Morizane A	Center for iPS Cell Research and Application (CiRA), Kyoto University, Kyoto 606-8507, Japan.	Direct comparison of autologous and allogeneic transplantation of iPSC-derived neural cells in the brain of a nonhuman primate	Stem Cell Reports 1(4): P283-292. 2013
283	Koyanagi-Aoi M	Center for iPS Cell Research and Application, Department of Biological Repair, Institute for Frontier Medical Sciences, and Institute for Integrated Cell-Material Sciences, Kyoto University, Kyoto 606-8507, Japan.	Differentiation defective phenotypes revealed by large scale analyses of human pluripotent stem cells	Proc Natl Acad Sci USA. 110(51): P20569-20574. 2013
284	Nakagawa M	Center for iPS Cell Research and Application (CiRA), Kyoto University, Kyoto 606-8507, Japan.	A novel efficient feeder-free culture system for the derivation of human induced pluripotent stem cells	Sci Rep 4: P3594. 2014
285	Doi D	Department of Clinical Application, Center for iPS Cell Research and Application, Kyoto University, 606-8507 Kyoto, Japan.	Isolation of Human Induced Pluripotent Stem Cell-derived Dopaminergic Progenitors by Cell Sorting for Successful Transplantation	Stem Cell Rep 2(3): P337-350. 2014

286	Takahashi JC	Department of Neurosurgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	Pregnancy-associated intracranial hemorrhage: results of a survey of neurosurgical institutes across Japan	J Stroke Cerebrovasc Dis. 23(2): e65-71. 2014
287	Kunieda T	Department of Neurosurgery, Kyoto University Graduate School of Medicine.	Long-term seizure outcome following resective surgery for epilepsy: to be or not to be completely cured?	Neurol Med Chir(Tokyo) 53(11): P805-813. 2014
288	Morimoto E	Diagnostic Imaging and Nuclear Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan	Evaluation of focus laterality in temporal lobe epilepsy: a quantitative study comparing double inversion-recovery MR imaging at 3T with FDG-PET	Epilepsia 54(12): P2174-2183. 2013
289	Yamao Y	Department of Neurosurgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	[Neuroimaging in epilepsy]	Brain Nerve 65(5): P573-581. 2013
290	Yamamoto S	Department of Neurology, Kobe City Medical Center General Hospital.	[Primary central nervous system lymphoma mimicking ventriculitis]	Risho Shinkeigaku 53(10): P831-834. 2013
291	Koyanagi M	Department of Neurosurgery, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan	Loop-like formation in the cortical venous reflux of dural arteriovenous fistula with intracranial hemorrhage	J Neuroradiol. 2013
292	Funaki T	Department of Neurosurgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	Incidence of late cerebrovascular events after direct bypass among children with moyamoya disease: A descriptive longitudinal study at a single center	Acta Neurochirurgica 156(3): P551-559. 2014
293	Ishii A	Department of Neurosurgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University.	Parent artery occlusion for unruptured cerebral aneurysms: The Japanese registry of neuroendovascular therapy (JR-NET) 1 and 2	Neurologia Medico-Chirurgica 54(2): P91-97. 2014
294	Enatsu R	Department of Neurosurgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	The modulation of rolandic oscillation induced by digital nerve stimulation and self-paced movement of the finger: A MEG study	Journal of the Neurological Science 337(1-2): P201-211. 2014
295	Kikuchi T	Department of Neurosurgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	Japanese Registry of Neuroendovascular therapy: Extracranial steno-occlusive diseases except for internal carotid artery stenosis	Neurologia Medico-Chirurgica 54(1): P40-45 2014
296	Takagi Y	Department of Neurosurgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	Differential gene expression in relation to the clinical characteristics of human brain arteriovenous malformations	Neurologia Medico-Chirurgica, 54(3): P163-175. 2014

297	Takagi Y	Department of Neurosurgery, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan	Penetration of the optic nerve and falciform ligament by an internal carotid artery–ophthalmic artery aneurysm: Case Report	Neurologia Medico–Chirurgica 54(3): P211–213. 2014
298	Funaki T	Department of Neurosurgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	Impact of posterior cerebral artery involvement on long–term clinical and social outcome of pediatric moyamoya disease: Clinical article	Journal of Neurosurgery: Pediatrics 12(6): P626–632. 2013
299	Arakawa Y	Department of Neurosurgery, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan	Retrospective analysis of bevacizumab in combination with ifosfamide, carboplatin, and etoposide in patients with second recurrence of glioblastoma	Neurologia Medico–Chirurgica 53(11): P779–785. 2013
300	Hitomi T	Department of Health and Environmental Sciences, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan.	The moyamoya disease susceptibility variant RNF213 R4810K(rs112735431) induces genomic instability by mitotic abnormality	Biochemical and Biophysical Research Communications 439(4): P419–426. 2013
301	Mineharu Y	Division of Neuroendovascular Therapy, Institute of Biomedical Research and Innovation, Kobe, Japan.	Rapid progression of unilateral moyamoya disease in a patient with a family history and an RNF213 risk variant	Cerebrovascular Diseases 36(2): P155–157. 2013
302	Kitagawa M	Department of Neurosurgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	Hes1 and Hes5 regulate vascular remodeling and arterial specification of endothelial cells in brain vascular development	Mechanisms of Development 130(9–10): P458–466. 2013
303	Ishii A	Department of Neurosurgery, Kyoto University, Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan.	Endovascular treatment in pregnancy	Neurologia Medico–Chirurgica 53(8): P541–548. 2013
304	Hitomi T	Department of Health and Environmental Sciences, Kyoto University, Kyoto, Japan.	Downregulation of Securin by the variant RNF213 R4810K(rs112735431, G>A) reduces angiogenic activity of induced pluripotent stem cell–derived vascular endothelial cells from moyamoya patients	Biochemical and Biophysical Research Communications 438(1): P13–19. 2013
305	Ogura K	Department of Radiation Oncology and Image–Applied Therapy, Kyoto University Graduate School of Medicine	Initial and cumulative recurrence patterns of glioblastoma after temozolomide–based chemoradiotherapy and salvage treatment: a retrospective cohort study in a single institution.	Radiation Oncology 8(1): P97, 2013
306	Usami K	Department of Neurology, Kyoto University Graduate School of Medicine	Pre–SMA actively engages in conflict processing in human: A combined study of epicortical ERPs and direct cortical stimulation	Neuropsychologia 51 (5): P1011–1017, 2013
307	Sakamoto R	Department of Diagnostic Imaging and Nuclear Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine	Estimation of proliferative potentiality of central neurocytoma: correlational analysis of minimum ADC and maximum SUV with MIB–1 labeling index	Acta Radiologica. 2014

308	Watanabe T	Department of Radiation Oncology and Image-Applied Therapy, Kyoto University Graduate School of Medicine	Pineal parenchymal tumor of intermediate differentiation: Treatment outcomes of five cases	Molecular and Clinical Oncology, 2(2): P197-202. 2014. Epub 2013 Dec 23
309	Arakawa Y	Department of Neurosurgery, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan	Efficacy of salvage stereotactic radiotherapy for recurrent glioma: impact of tumor morphology and method of target delineation on local control	Cancer Medicine, 2(6): P942-949, 2013
310	Arakawa Y	Department of Neurosurgery, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan	Dysembryoplastic neuroepithelial tumor with rapid recurrence of pilocytic astrocytoma component	Brain Tumor Pathol. 2014;31(2):144-8.
311	Arakawa Y	Department of Neurosurgery, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan	Organizing Intracerebral Hematoma Mimicking a Recurrent Brain Tumor on FDG-PET	Clinical Nuclear Medicine, Nov; 38(11): P411-413, 2013
312	Aoki T	Innovation Center for Immunoregulation Technologies and Drugs (AK project), Kyoto University Graduate School of Medicine	Critical role of TNF-alpha-TNFR1 signaling in intracranial aneurysm formation	Acta Neuropathol Commun. 2(1): P34, 2014
313	Ito R	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Kyoto University, Kyoto, Japan	Efficacy of controlled-release of concentrated platelet lysate using collagen/gelatin scaffold for dermis-like tissue regeneration.	Tissue Eng Part A. 19(11-12):1398-405. 2013
314	Ito R	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Kyoto University, Kyoto, Japan	Laser Doppler imaging evaluation of adipogenesis after adipose tissue-derived stem cell implantation.	Artif Organ. 16(4): 464-468, 2013.
315	Yoshikawa K	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Kyoto University, Kyoto, Japan	Multipotent stem cell are effectively collected from adult human cheek skin.	Biochem Biophys Res Commun. 431(1):104-110, 2013.
316	Liem PH	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Kyoto University, Kyoto, Japan	Treating a collagen scaffold with a low concentration of nicotine promoted angiogenesis and wound healing.	J Surg Res. J Surg Res. 182(2): 353-361, 2013
317	Noda K	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Kyoto University, Kyoto, Japan	Latent TGF beta binding protein 4 converts microfibrils to elastic fibers by interacting with fibulin-5.	Proc Natl Acad Sci U S A. 110(8) 2852-2857, 2013.
318	Ishiko T	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Kyoto University, Kyoto, Japan	Chondroitinase injection improves keloid pathology by reorganizing the extracellular matrix with regenerated elastic fibers.	J Dermatol ;40(5):380-3. . 2013 .

319	Morimoto N	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Kyoto University Kyoto, Japan	Novel Collagen/Gelatin Scaffold With Sustained Release of Basic Fibroblast Growth Factor: clinical trial for chronic skin ulcers.	Tissue Eng Part A. 19(17-18): 1931-1940, 2013.
320	Suzuki S	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Kyoto University, Kyoto, Japan	A case of giant naevus 22-year followed up after treatment with artificial dermis.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 66(8): e229-233, 2013.
321	Saito S	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Kyoto University, Kyoto, Japan	Proximal interphalangeal joint injection through a volar approach: anatomic feasibility and cadaveric assessment of success	J. Hand Surg-Am. ;38(6):1261-2, 2013.
322	Liem PH	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Kyoto University, Kyoto, Japan	The autologous skin reconstruction by combining epidermis and acellular dermal matrix tissue derived from the skin of giant congenital melanocytic nevi.	J Artificial Organ. 16 (3): 332-342, 2013. J Artificial Organ. 16: 332-342, 2013.
323	Nakamura Y	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Kyoto University, Kyoto, Japan	Enhanced wound healing by topical administration of mesenchymal stem cells transfected with stromal cell-derived factor-1.	Biomaterials 34(37):9393-9400., 2013.
324	Minakata K	Department of Cardiovascular Surgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	Perioperative control of blood glucose level in cardiac surgery	Gen Thorac Cardiovasc Surg 2013; 61: 61-66
325	Minakata K	Department of Cardiovascular Surgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	Ventricular Approach for Functional Mitral Regurgitation in Cardiomyopathy	World Journal of Cardiovascular Surgery. 2013, 3, p. 8-14
326	Masumoto H	Department of Cardiovascular Surgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	Strategies in cell therapy for cardiac regeneration	Inflammation and Regeneration. 2013, 33(2), p 114-20. Review
327	Minakata K	Department of Cardiovascular Surgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	Surgical treatment for obstructive hypertrophic cardiomyopathy	General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2013, p. 1-2
328	Nakata T	Department of Cardiovascular Surgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	Pulmonary atresia with ventricular septal defect and pulmonary sequestration	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals. 2013, vol. 21, no. 4, p. 460-463
329	Marui A	Department of Cardiovascular Surgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	Impact of occult renal impairment on early and late outcomes following coronary artery bypass grafting	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery. 2013, vol. 17, no. 4, p. 638-643

330	Kamitani T	Department of Cardiovascular Surgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	Prevention of retrosternal adhesion by novel biocompatible glue derived from food additives	Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2013, vol. 146, no. 5, p. 1232-1238
331	Nakata T	Department of Cardiovascular Surgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	Ventricular Septal Defect Complicated by Infantile Lobar Emphysema	Annals of thoracic and cardiovascular surgery. 2013 Nov 8. [Epub ahead of print]
332	Uehara K	Department of Cardiovascular Surgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	Alternative redo sternotomy in a patient with tracheostoma and patent grafts	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals. 2013; 21: in-press
333	Masumoto H	Department of Cardiovascular Surgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	Pluripotent stem cells for cardiac cell therapy: the application of cell sheet technology	Pluripotent Stem Cells, ISBN 978-953-51-1192-4, InTech, August 28, 2013
334	Nakahara T	Department of Cardiovascular Surgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	Bilateral atrial appendage aneurysms associated with atrial fibrillation	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals. 2014, vol. 22, no. 3, p. 347-349
335	Nakano J	Department of Cardiovascular Surgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	Effects of hepatocyte growth factor in myocarditis rats induced by immunization with porcine cardiac myosin	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery. 2014, vol. 18, no. 3, p. 300-307
336	Ohnaka M	Department of Cardiovascular Surgery, Kyoto University Graduate School of Medicine	Effect of microRNA-145 to prevent vein graft disease in rabbits by regulation of smooth muscle cell phenotype	Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2014, Aug;148(2):676-682
337	Minakata K	Kyoto University Graduate School of Medicine	Long-term outcome of the carpentier-edwards pericardial valve in the aortic position in Japanese patients	Circulation Journal. 2014, vol. 78, no. 4, p. 882-889
338	Murase K	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan. Department of Respiratory Care and Sleep Control Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan.	The additive impact of periodic limb movements during sleep on inflammation in obstructive sleep apnea patients.	Ann Am Thorac Soc 2014; 11:375-382.
339	Harada Y	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan. Department of Respiratory Care and Sleep Control Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan.	Differences in Associations between Visceral Fat Accumulation and Obstructive Sleep Apnea by Sex.	Ann Am Thorac Soc 2014; 11:383-391.



340	Toyama Y	Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan. Department of Respiratory Care and Sleep Control Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan.	Response to Mr Polesel and colleagues.	Chest 2013; 143:1188-1189.
341	Chihara Y	Department of Respiratory Medicine, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan	Predictive factors for reintubation following noninvasive ventilation in patients with respiratory complications after living donor liver transplantation	PLoS One. 8(12), pp. e81417, 2013
342	Toru Takakura	Clinical Radiology Service Division, Kyoto University Hospital	Effects of interportal error on dose distribution in patients undergoing breath-holding intensity-modulated radiotherapy for pancreatic cancer: evaluation of a new treatment planning method.	J Appl Clin Med Phys.14(5): P43-51. 2013.
343	Yamazaki Toru	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan.	Risk factors and indices of osteomyelitis of the jaw in osteoporosis patients: results from a hospital-based cohort study in Japan.	PLoS One. 2013 ;8(11):e79376.
344	Sumi eriko	Department of Clinical Innovative Medicine, Institute for Advancement of Clinical and Translational Science, Kyoto University Hospital, 54 Shogoin Kawahara-cho, Sakyo-ku, Kyoto 606-8507, Japan.	The correlation between the number of eligible patients in routine clinical practice and the low recruitment level in clinical trials: a retrospective study using electronic medical records.	Trials. 2013 Dec 11;14:426.
345	Toshiko Ito-Ihara	Department of Clinical Innovative Medicine, Institute for Advancement of Clinical and Translational Science, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan.	An international survey of physicians regarding clinical trials: a comparison between Kyoto University Hospital and Seoul National University Hospital.	BMC Med Res Methodol.13:130, 2013
346	Furu Moritoshi	Department of the Control for Rheumatic Diseases Graduate School of Medicine, Kyoto University	Discordance and accordance between patient's and physician's assessments in rheumatoid arthritis.	Scand J Rheumatol.2014;43(4):291-5.
347	Masahide Fukudo	Department of Pharmacy, Kyoto University Hospital, Faculty of Medicine, Kyoto University, Sakyo-ku, Kyoto, 606-8507, Japan.	Population pharmacokinetics/pharmacodynamics of erlotinib and pharmacogenomic analysis of plasma and cerebrospinal fluid drug concentrations in Japanese patients with non-small cell lung cancer.	Clin Pharmacokinet. 52(7): P593-609, 2013
348	Kumiko Nishihara	Department of Pharmacy, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan	Urinary chemokine (C-C motif) ligand 2 (monocyte chemoattractant protein-1) as a tubular injury marker for early detection of cisplatin-induced nephrotoxicity	Biochem Pharmacol, 85(4),570-582, 2013
349	Tomohiro Omura	Department of Pharmacy, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan	Sodium tauroursodeoxycholate prevents paraquat-induced cell death by suppressing endoplasmic reticulum stress responses in human lung epithelial A549 cells	Biochem Biophys Res Commun. 432(4): P689-94, 2013

350	Haruka Nakanishi	Department of Clinical Pharmacy and Education, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Kyoto University, Kyoto, Japan	Impact of P-glycoprotein and breast cancer resistance protein on the brain distribution of antiepileptic drugs in knockout mouse models.	Eur J Pharmacol. 710(1-3): P20-28, 2013
351	Sachiko Kunimatsu	Department of Pharmacy, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan	Effect of P-glycoprotein And Breast Cancer Resistance Protein Inhibition on the Pharmacokinetics of Sunitinib in Rat	Drug Metab Dispos. 41(8): P1592-7, 2013
352	Haruka Shinke	Department of Pharmacy, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan	Effectiveness of Sirolimus in Combination with Cyclosporine against Chronic Rejection in a Pediatric Liver Transplant Patient	Biol Pharm Bull. 6(7): P1221-1225, 2013
353	Yoshiaki Yao	Department of Pharmacy, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan	Involvement of riboflavin transporter RFVT2/Slc52a2 in hepatic homeostasis of riboflavin in mice	Eur J Pharmacol. 714(1-3): P281-287, 2013
354	Miwa Uesugi	Department of Pharmacy, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan	Influence of Cytochrome P450(CYP)3A4 *1G Polymorphism on the Pharmacokinetics of Tacrolimus, Probability of Acute Cellular Rejection, and mRNA Expression Level of CYP3A5 Rather than CYP3A4 in Living-Donor Liver Transplant Patients;	Biol Pharm Bull. 36(11): P1814-1821, 2013
355	Hiroki Yoshimatsu	Department of Pharmacy, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan	Functional involvement of RFVT3/SLC52A3 in intestinal riboflavin absorption	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol.306 (2): PG102-G110, 2014
356	Masahide Fukudo	Department of Pharmacy, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan	Exposure-Toxicity Relationship of Sorafenib in Japanese Patients with Renal Cell Carcinoma and Hepatocellular Carcinoma	Clin Pharmacokinet. 53(2): P185-196, 2014
357	Yuya Matsuda	Department of Pharmacy, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan	Once-daily oral administration of cyclosporine in a lung transplant patient with a history of renal toxicity of calcineurin inhibitors; Interact Cardiovasc Thorac Surg	Interact Cardiovasc Thorac Surg.19(1), P171-3, 2014
358	Keiko Hosohata	Department of Pharmacy, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan	Association between CYP3A5 Genotypes in Graft Liver and Increase in Tacrolimus Biotransformation from Steroid Treatment in Liver-donor Liver Transplant Patients	Drug Metab. Pharmacokinet 29(1): P83-89, 2014
359	Eriko Sato	Department of Clinical Pharmacology and Therapeutics, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan	Effectiveness of everolimus in combination with cyclosporine as treatment for chronic rejection in a pediatric patient undergoing liver transplantation	Jpn J Ther Drug Monit. 31(1): P1-5, 2014

小計 10  
総計 359

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	後藤 徹	京都大学大学院医学系研究科循環器内科学	スパイナルドレーナージ併用の胸部ステントグラフト内挿術後に急性硬膜下血腫を生じた1例	心臓 45(4): P465-470. 2013
2	伊藤 功朗	京都大学医学部附属病院呼吸器内科	市中肺炎患者における入院時ストレス高血糖は予後に関連する	感染症学雑誌, 87(2), pp. 312.
3	伊藤 穰	京都大学医学部附属病院呼吸器内科	成人肺炎球菌性市中肺炎の多施設共同前向き調査2010年分報告	感染症学雑誌, 87(2), pp. 311-312.
4	伊藤 穰	京都大学医学部附属病院呼吸器内科	無治療肺Mycobacterium avium complex症患者における菌陰性化と環境暴露との関係	結核, 88(2), pp. 232.
5	八木 由生	京都大学医学部附属病院呼吸器内科	EGFR陽性肺癌に対するEGFR-TKIの治療効果予測は臨床因子から可能か?	肺癌, 53(5), pp. 451.
6	奥野 雄大	京都大学医学部附属病院呼吸器内科	非小細胞癌に対するBevacizumab使用症例のretrospective解析.	肺癌, 53(5), pp. 518.
7	松本 久子	京都大学医学部附属病院呼吸器内科	呼吸器疾患の診断と治療(III)】慢性咳嗽	医学と薬学, 69(3), pp. 391-398.
8	田辺 直也	京都大学医学部附属病院呼吸器内科	喘息/COPDの基礎研究最前線 喫煙による肺気腫進展の空間的不均一性について COPD患者の胸部CTを用いた縦断的検討	International Review of Asthma & COPD, 15(3), pp. 115-121.
9	三森経世	京都大学大学院医学研究科内科学講座臨床免疫学	ステロイド	基本薬の選び方と使い方のコツ 文光堂 267-277, 2013
10	三森経世	京都大学大学院医学研究科内科学講座臨床免疫学	筋炎における自己抗体	神経 中外医学社 245-252, 2014
11	佐藤格夫	京都大学医学部附属病院 救急部	Abdominal compartment syndromeを起し得る病態における経腸栄養管理のStrategy	日本腹部救急医学会雑誌33巻5号829-835, 2013
12	武藤 学	京都大学大学院医学研究科腫瘍薬物治療学講座	食道癌化学放射線療法後のサルベージ治療としての光線力学療法	日本レーザー医学会誌. 第34巻第2号: 102-106, 2013
13	武藤 学	京都大学大学院医学研究科腫瘍薬物治療学講座	消化器内視鏡のcutting edge : 拡大観察とimage enhanced endoscopy	癌の臨床. 第59巻・第4号, 2013
14	武藤 学	京都大学大学院医学研究科腫瘍薬物治療学講座	食道表在癌診断・治療の最前線	日本消化器病学会雑誌. 110(10):1753-1773, 2013
15	松原 雄	京都大学医学部附属病院 腎臓内科	腎疾患に対する薬剤の使用方法 虚血性腎症	腎と透析 74巻増刊 254-256 2013

小計 15

16	塚本 達雄	京都大学医学部附属病院 腎臓内科	透析患者に対する薬の使い方 対症療法 女性化乳房	腎と透析 74巻増刊 427-430 2013
17	塚本 達雄	京都大学医学部附属病院 腎臓内科	持続血液浄化療法施行中の医療器具取り違えによる肝移植後患者死亡-事例報告と再発防止策-	日本急性血液浄化学会 雑誌 4(2) 148-153 2013
18	佐藤 有紀	京都大学大学院医学研究科 腎臓内科学	CKDにおける貧血と臓器保護	腎と透析9月号, 319- 322, 東京医学 2013
19	中村 仁	京都大学大学院医学研究科 腎臓内科学	腎線維化のメカニズム	Annual Review 腎臓 2013, 75-79, 中外医学 社 2013
20	佐藤 有紀	京都大学大学院医学研究科 腎臓内科学	慢性腎臓病と慢性炎症	慢性炎症と生活習慣病 第II部, 91-100, 南山堂 2013
21	佐藤 有紀	京都大学大学院医学研究科 腎臓内科学	腎線維化	Current Therapy 2013, 31(6), p8-12 ライフメディ コム
22	上本伸二	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	肝転移した神経内分泌腫瘍の治療戦略-肝移植-/GEPNETの最前線	肝胆膵. 66(5): 821-825, 2013
23	上本伸二	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	肝移植後の再肝移植(生体及び脳死ドナー)/肝胆膵外科における再切除と再手術。	手術. 67(7): 1077-1082, 2013
24	上本伸二	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	脳死肝移植における肝静脈再建の実際/学んでおくべき下大静脈関連手術。	手術. 67(13): 1863- 1867, 2013
25	高折恭一	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	IPMN国際診療ガイドライン2012の解説と残された課題: 国際的観点からみた課題	膵臓. 28(2): 173-177, 2013
26	高折恭一	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	家族性膵癌 定義と診療の実際	胆と膵. 34(7): 519-522, 2013
27	高折恭一	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	膵神経内分泌腫瘍に対する外科治療	最新内分泌代謝学: pp560-562, 診断と治療 社(東京),2013
28	高折恭一	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	消化管神経内分泌腫瘍に対する外科治療	最新内分泌代謝学: pp664-666, 診断と治療 社(東京),2013
29	高折恭一	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	Artery-first approachによるロボット支援膵体尾部切除術。	消化器ダヴィンチ手術の すべて: pp203-213医学 図書出版(東京),2013
30	高折恭一	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	膵癌に対するneoadjuvant chemoradiationの意義	臨床外科. 69(1):27-31 2014
31	高折恭一	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	膵癌術前治療のrationale-国内外の現況と問題点-	胆と膵. 35(1): 2014

32	海道利実	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	周術期におけるNSTはどうあるべきか？	医学のあゆみ. 247(11): 1155-1160, 2013
33	海道利実	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	肝移植症例におけるImmunosuppressionと重症感染症	ICUとCCU. 37(8): 621-629, 2013
34	海道利実	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	肝移植における免疫抑制療法の現状と今後の展開	Organ Biology. 20(2): 212-217, 2013
35	海道利実	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	肝硬変とサルコペニア up-to-date	Prog Med. 33(9): 1966-1971, 2013
36	海道利実	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	肝細胞癌に対する外科的治療(3) 肝移植術	コンセンサス癌治療. 12(2): 91-94, 2013
37	海道利実	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	肝移植におけるERASの導入～管理栄養士との連携	ヘルスケアレストラン. 21(8): 19-21, 2013
38	海道利実	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	移植手術における周術期感染管理	消化器外科. 36(8): 1213-1223, 2013
39	海道 利美	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	脳死肝移植の現実	肝癌治療の要点と盲点. 360-362, 2013
40	海道 利美	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	進行肝細胞癌はどこまで肝移植の適応となるか？	医学のあゆみ. 244(3): 246-248, 2013
41	海道 利美	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	末期肝疾患におけるサルコペニアの意義と周術期栄養療法の有用性	医学のあゆみ 248(9):717-722, 2014
42	海道 利美	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	肝細胞癌に対する肝移植治療の意義	癌と化学療法 41(3):275-279, 2014
43	海道 利美	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	肝がん: 診断と治療法の進歩: 肝移植	日本内科学雑誌 103(1):110-115, 2014
44	波多野悦朗	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	治療成績からみた脈管浸潤の重み付け 肝切除と脈管浸潤	肝胆膵. 66(6): 953-960, 2013
45	波多野悦朗	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	肝静脈・下大静脈・心房内腫瘍栓を伴う腫瘍に対する肝切除 肝切除と脈管浸潤	手術. 67(6): 733-739, 2013
46	波多野悦朗	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	肝臓外科における漢方の応用	消化器外科. 36(9): 1325-1331, 2013
47	川口道也	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	膵臓移植と膵島移植	最新内分泌代謝学: pp557-559, 診断と治療社(東京)2013

48	増井俊彦	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	肝転移した神経内分泌腫瘍の治療戦略 ー外科切除ー	肝胆膵. 66(5): 811-819,2013
49	増井俊彦	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	術前画像診断のポイントと術中の解剖認識	臨床外科増刊号. 68(11),2013
50	小川晃平	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	肝細胞癌に対する肝移植	臨床消化器内科. 28(9): 1263-1269,2013
51	瀬尾智	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	大腸癌術後ドレーン排液アミラーゼ値測定の意義	外科. 75(8):890-891,2013
52	田中宏和	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	肝移植におけるADAMTS13活性測定-周術期におけるADAMTS13活性モニタリングの意義	臨床検査. 57(5): 567-574, 2013
53	青山芳樹	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	肝胆膵に分布する前腸系前駆細胞	肝胆膵. 66(4): 575-585,2013
54	田邊和孝	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	テガフル・ウラシル内服により完全寛解が得られた肝細胞癌肺転移の1例	癌と化学療法. 40(8): 1077-1080, 2013
55	田邊和孝	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	大腸癌異時性孤立性脾転移の1例および本邦報告例の検討	日本外科系連合学会誌. 38(5): 1072-1076, 2013
56	田邊和孝	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	膵粘表皮癌と胃癌・大腸癌の同時性3重複癌の1例	日本臨床外科学会雑誌.74(9): 2639-2644, 2013
57	日本消化器外科学会雑誌	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	出血を伴い急性胆嚢炎を発症した腎細胞癌胆嚢転移の1例	日本消化器外科学会雑誌. 46(8):586-593,2013
58	濱口 雄平	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した胆嚢低形成症の1例	外科. 76(2):209-212, 2014
59	土生 正信	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	多能性幹細胞を用いた糖尿病治療開発の展望	Annual Review.161-166, 2014
60	田邊和孝	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	成人の特発性胃破裂から腹部コンパートメント症候群の発症が疑われた1例	日本消化器外科学会雑誌. 47(2): P92-99, 2014
61	田邊和孝	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	多様な病理組織像を呈し長期生存したAFPおよびHCG産生胃癌の1例	日本臨床外科学会雑誌. 75(2): P420-426, 2014
62	田邊和孝	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	Surgical Interventionの対象となったGastrointestinal stromal tumor(GIST)26例の検討	日本外科系連合学会誌. 39(1): P19-24, 2014
63	田邊和孝	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	腸瘻からのS-1+CDDP療法で切除可能となった進行胃癌の1例	日本外科系連合学会誌. 39(1): P52-58, 2014

64	田邊和孝	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	検診にて発見された脾原発炎症性偽腫瘍の1例	消化器外科. 37(3) : P383-388, 2014
65	田邊和孝	京都大学大学院医学研究科 外科学講座	統合失調症に併発した横行結腸軸捻の1例	日本臨床外科学会雑誌. 75(3): P731-736, 2014
66	上本伸二	京都大学 肝胆膵・移植外科	わが国の小腸移植の現況(巻頭言)・ここまで来た小児小腸移植	小児外科 45: 701, 2013.
67	上本伸二	京都大学 肝胆膵・移植外科	肝芽腫に対する中央2区域切除術・プロが見せる手術シリーズ(3): 難易度の高い肝・胆・膵・脾・横隔膜手術。	小児外科 45: 1197-1202, 2013
68	吉澤 淳	京都大学 肝胆膵・移植外科	短腸症候群による肝不全合併症例への小腸移植	小児外科 45:7 749-752,2013
69	田村亮	京都大学 肝胆膵・移植外科	胎児治療: 胸壁内遺残ダブルバスケットカテーテル	小児外科 45: 84-87, 2013
70	岡島英明	京都大学 肝胆膵・移植外科	肝移植患者における薬物性肝障害	肝胆膵 68: 307-310, 2014
71	西小森 隆太	京大 大学院医学研究科 発達小児科	不明熱の鑑別: 自己炎症性疾患をどのように鑑別するか	月刊リウマチ科 50巻5号 Page629-634 2013年
72	伊藤 壽一	京都大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	【再生医療】内耳の再生医療。	日本医師会雑誌 142(4): P763-766, 2013
73	中川 隆之	京都大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	【革新的難聴治療の夜明け】内耳再生へのストラテジー 内耳障害の病態に応じた治療法の開発戦略。	日本薬理学雑誌 141(4): P184-187, 2013
74	楯谷 一郎	京都大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	咽喉頭癌に対するTransoral robotic surgery (TORS) - TORSアドバンスドコースの参加経験 -。	耳鼻咽喉科展望 56(5): P91-94, 2013
75	中川 隆之	京都大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	【急患・急変対応マニュアル-そのとき必要な処置と処方】術中・術後の急変への対応法 術中編 鼻中隔矯正術時の粘膜穿孔。	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 85(5): P294-297, 2013
76	中川 隆之	京都大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	内視鏡下頭蓋底手術	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 85(1): P40-44, 2014
77	布留守敏	京都大学医学部附属病院 リウマチセンター	寛解の定義とその考え方: DAS28寛解であっても関節破壊は進行する	リウマチ科.49(1) :115-120,2013
78	新井隆三	京都大学 医学部整形外科	関節窩周囲構造の解剖-鏡視下手術ラーニングカーブ向上のために	肩関節.37(3):915-918,2013
79	戸口田淳也	京都大学再生医科学研究所 組織再生応用分野	【再生医療の現況と最前線】再生医療の現状と展望 細胞を用いた再生医療 間葉系幹細胞を用いた骨壊死治療法の開発	整形・災害外科.56(5):533-539,2013

80	藤林俊介	京都大学 大学院医学研究科整形外科学	生体活性チタン多孔体を用いた脊椎固定術の中期成績	中部整災誌.56(3):705-706,2013
81	光澤定己	京都大学 医学部整形外科学教室	自家処理骨を用いた寛骨臼部悪性骨腫瘍切除後の再建	中部整災誌.56(6):1411-1412,2013
82	原田豪人	京都大学 大学院医学研究科整形外科学	経脛骨法による膝前十字靭帯再建術後3次元CT画像による大腿骨骨孔位置の検討と臨床成績との関連	日本整形外科学スポーツ医学会雑誌.33(3):298-301,2013
83	溝脇 尚志	京都大学医学部附属病院放射線治療科	術後残存/再発頭蓋咽頭腫に対する通常分割定位放射線治療	定位的放射線治療 17: P37-44. 2013
84	高橋 淳C	京都大学医学部附属病院脳神経外科	出血発症もやまや病の急性期マネジメントと手術適応	Practical Neurosurgery 1 脳血管障害の急性期マネジメント P158-160. 2014
85	高橋 淳C	京都大学医学部附属病院脳神経外科	【妊娠分娩と脳卒中】妊産婦脳卒中の救急搬送における問題点 事例報告 いわゆる「町立大淀病院事件」について	The Mt. Fuji Workshop on CVD(0289-8438) 31:P85-89. 2013
86	高橋 淳C	京都大学医学部附属病院脳神経外科	妊産婦脳卒中:平成22年・23年日本脳神経外科学会による悉皆調査報告	The Mt. Fuji Workshop on CVD(0289-8438) 31:P108-114. 2013
87	菊池 隆幸	京都大学医学部附属病院脳神経外科	治療困難な脳動脈瘤—開頭手術に残された課題—	脳神経外科ジャーナル 22(10):P742-748. 2013
88	福光 龍	京都大学医学部附属病院脳神経外科	頸動脈内膜剥離術において術中塞栓症合併症を防ぐ工夫—内頸動脈の剥離を血流遮断下に行う方法について—	脳卒中の外科 41(4): P290-292. 2013
89	吉田 和道	京都大学医学部附属病院脳神経外科	スタチンと脳動脈瘤	脳と循環 18(2): P137-141. 2013
90	荒川 芳輝	京都大学医学部附属病院脳神経外科	脳腫瘍	臨床と研究 90(3): P281-284. 2013
91	石井 暁	京都大学医学部附属病院脳神経外科	開頭摘出術を支援するAVM塞栓術	脳神経血管内治療 7(6): P155-155. 2013
92	千原 英夫	京都大学医学部附属病院脳神経外科	治療困難な脳動脈瘤に対するバイパス術を併用した血管内治療	脳神経血管内治療 7(6): P144-144. 2013
93	石井 暁	京都大学医学部附属病院脳神経外科	整流効果を意識した大型動脈瘤に対するステント併用コイル塞栓術	脳神経血管内治療 7(6): P154-154. 2013
94	菊池 隆幸	京都大学医学部附属病院脳神経外科	【脳動脈瘤治療に残る課題】治療困難な脳動脈瘤 開頭手術に残された課題	脳神経外科ジャーナル 22(10):P742-748. 2013
95	高橋 淳	京都大学医学部附属病院脳神経外科	妊産婦脳卒中の救急搬送におかれる問題点 平成22年・23年日本脳神経外科学会による悉皆調査報告	The Mt. Fuji Workshop on CVD 31: P108-114. 2013



96	山尾 幸広	京都大学医学部附属病院脳神経外科	てんかん患者の脳画像診断	BRAIN and NERVE 65(5): P573-581. 2013
97	吉田 和道	京都大学医学部附属病院脳神経外科	感染症の予防(感染コントロール)	ブレインナーシング 29(12): P24-27
98	吉田 和道	京都大学医学部附属病院脳神経外科	脳動脈瘤に対する新たなアプローチ —破裂の機序、画像診断、破裂の予防—	Brain & Nerve 19(1) : P2-3. 2014
99	吉田 和道	京都大学医学部附属病院脳神経外科	1. 脳血管障害の急性期マネジメント 脳動脈瘤形成・破裂機序	脳神経外科診療プラクティス P237-238
100	吉田 和道	京都大学医学部附属病院脳神経外科	2. 脳神経外科の基本手技 手術顕微鏡の使い方	脳神経外科診療プラクティス P178-181
101	河合勝也	京都大学形成外科学	シルクエラスチンの褥瘡治療効果	褥瘡学会誌 15:41-47, 2013
102	森本尚樹	京都大学形成外科学	人工真皮貼付後に形成される真皮様組織部の血流評価	熱傷 39: 278-285, 2013
103	南方 謙二	京都大学 心臓血管外科	心臓血管領域 弁手術後冠状動脈バイパス術	胸部外科 2013, vol. 66, no. 8, p. 618-624
104	坂田 隆造	京都大学 心臓血管外科	継志、そして飛躍—心臓外科の現状と将来展望—	第113回日本外科学会 定期学術集会 記念誌 2013, p. 91-94
105	南方 謙二	京都大学 心臓血管外科	集中治療におけるアミオダロン注の位置付け: 心臓手術周術期における不整脈の管理	Progress in Medicine 2013 33(Suppl.1): p. 775-779
106	山崎 和裕	京都大学 心臓血管外科	心臓手術と内分泌代謝疾患	最新 内分泌代謝学 第5 章心臓と腎臓の内分泌 代謝. 診断と治療社. 2013, P. 287-289
107	南方 謙二	京都大学 心臓血管外科	糖尿病合併症と心臓血管外科治療	最新 内分泌代謝学 第8 章糖代謝. 診断と治療 社. 2013, p. 563-289
108	山崎 和裕	京都大学 大学院医学研究科心臓血管外科学	【新人ナースお助け号!術式別イラストで見える・わかる・動ける よく出会う心臓手術の術後ケア】術後に発生しやすい合併症	ハートナーシング. 2013, vol. 26, no. 6, p. 590- 598
109	熊谷 基之	京都大学 大学院医学研究科心臓血管外科	心臓血管外科で起こるトラブルと求められる足場材料.	体内埋め込み医療材料 の開発とその理想的な 性能・デザインの要件. 技術情報協会. 2013, p. 80-83
110	丸井 晃	京都大学 大学院医学研究科心臓血管外科	低心機能例に対する血行再建(PCI vs CABG)【低左心機能例に対する血行再建PCI vs CABG わが国でのレジストリーデータを含むこれまでのエビデンス】	日本冠疾患学会雑誌. 2014, vol. 20, no. 1, p. 67-74
111	丸井 晃	京都大学 大学院医学研究科心臓血管外科	心臓血管外科 左主幹部・3枝病変の冠血行再建術 PCI vs CABG	Annual Review循環器. 2014, vol. 2014, p. 270- 281

112	坂田 隆造	京都大学 大学院医学研究科心臓血管外科学	【臨床医学の展望2014】心臓血管外科学 複雑冠動脈病変ではCABGが標準治療に	日本医事新報. 2014, no. 4685, p. 32-33
113	阪口 仁寿	京都大学 心臓血管外科	心臓血管外科学 TOPIC 1 SYNTAX試験最終報告: 複雑冠動脈病変にはCABGが標準治療に	日本医事新報. 2014, no. 4685, p. 34
114	丸井 晃	京都大学 心臓血管外科	【臨床医学の展望2014】心臓血管外科学 TOPIC 2 急性B型大動脈解離に対するステントグラフト適応拡大の是非	日本医事新報. 2014, no. 4685, p. 34-35
115	山崎 和裕	京都大学 心臓血管外科	【臨床医学の展望2014】心臓血管外科学 TOPIC 3 TAVR:大動脈弁治療新時代の幕開け	日本医事新報. 2014, no. 4685, p. 35-36
116	南方 謙二	京都大学 心臓血管外科	【臨床医学の展望2014】心臓血管外科学 TOPIC 4 重症心不全に対する植込み型補助人工心臓の普及	日本医事新報. 2014, no. 4685, p. 36-37
117	池田 義	京都大学 心臓血管外科	【臨床医学の展望2014】心臓血管外科学 TOPIC 5 先天性心疾患に対する新生児期治療成績がさらに改善	日本医事新報. 2014, no. 4685, p. 37
118	恒吉 裕史	京都大学 心臓血管外科	大動脈疾患 大動脈弁輪拡張症, Marfan症候群	循環器疾患 最新の治療 2014-2015. 2014, p. 333-336
119	丸井 晃	京都大学 心臓血管外科	低侵襲弁膜症治療-TAVRを中心に 経カテーテル弁膜症治療をめぐる最近の全般的な話題	循環器レビュー&トピックス 2014, p. 155-164
120	陳 和夫	京都大学大学院医学研究科呼吸管理睡眠制御学講座	非侵襲的陽圧換気(NPPV)の適応と実際	最新医学 2014; 881:1272-1282.
121	陳 和夫	京都大学大学院医学研究科呼吸管理睡眠制御学講座	睡眠科学と睡眠医療を俯瞰して	睡眠医療 2013; 7:481-485.
122	陳 和夫	京都大学大学院医学研究科呼吸管理睡眠制御学講座	肥満・メタボリックシンドロームと睡眠障害・閉塞型睡眠時無呼吸の関係	日臨 2013; 71:580-586.
123	中川 政幸	京都大学医学部附属病院放射線部	浸潤性乳管癌と線維腺腫における Triexponential 拡散解析	日放技学会誌. 70(3): P199-205. 2014
124	角 栄里子	京都大学医学部附属病院 臨床研究総合センター 早期臨床試験部	臨床研究拠点等整備事業と新薬創出	新薬展望2014(Vol.50 S-1)p31-35 2014年
125	森田真樹子	京都大学医学部附属病院薬剤部	ラモトリギン服用患者の母乳育児の2症例ー母乳を介した乳児への移行性ー	医療薬学 39(8): P504-509, 2013
126	高田 哲也	京都大学医学部附属病院薬剤部、京都薬科大学病態生理学分野	非小細胞肺癌患者に対する簡易懸濁法を用いたエルロチニブ投与に関する検討	医療薬学 39(9): P565-570, 2013
127	池見泰明	京都大学医学部附属病院薬剤部	六年制卒業生について・大学病院の立場からー初期研修プログラムの変更	日本病院薬剤師会雑誌 49 (12): P1277-1279, 2013

128	高橋克之	京都大学医学部附属病院薬剤部、 大阪市立大学医学部附属病院薬剤部	胆道がんに対するゲムシタビン+シスプラチン療法の有害反応解析と治療継続に関する影響因子の検討	日本病院薬剤師会雑誌 49 (12): P1305-1309, 2014
129	山際岳朗	京都大学医学部附属病院薬剤部	悪性神経膠腫患者に対するtemozolomide・放射線併用療法における有害反応解析	日本病院薬剤師会雑誌 50 (3): P299-304, 2014

小計 2

総計 129

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容： 「会議録の作成」、「手順書、委員名簿、及び会議録概要等の公表と報告」、「臨床研究に関する教育研修」、「医の倫理委員会委員への教育研修」、「臨床研究の自己点検及び評価」、「臨床研究の年次報告及び終了報告」、「臨床研究に関する遵守事項」、「臨床研究に関する試料等の保存及び他の機関等の試料等の利用」、「変更・追加申請に関する審査手続きと迅速審査に関する手順」、「多施設共同研究についての事務手続きおよび審査の方針」	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(25年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの原則、利益相反に係る審議体制、手続き等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(平成 25 年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： 「京都大学における審査体制と方針」、「研究倫理と倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「疫学研究の“ethics”と“integrity”」、「自己理解度チェック」	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(平成 25 年度実績)において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

京大病院では、単に自立して診療ができるだけでなく、将来的にその領域でリーダーシップがとれるような実力のある専門医の養成をめざしている。

こうした専門医になるためには、固定化した医療環境で、漫然と日常診療をこなすだけでは不十分であり、系統的なプログラムにもとづき、優れた指導医のもとで、さまざまな医療環境を経験することが必要となる。

京大病院は、レベルの高い魅力的な第一線の医療機関が関連病院としてリンクしていることで有名であり、活発に人事交流することが実力のある臨床医を育成する原動力になっている。プログラムは、こうしたアクティビティの高い病院での修練が包括されたものとなっている。その中で大学においては若い医師たちが真摯で刺激的なディスカッションを重ねながら、挑戦的で先進的な課題に取り組む環境が形成されており、京大病院の実績と力に結びついている。

2 研修の実績

研修医の人数	88.58人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
北野 俊之	血液・腫瘍内科	助教	21年	
八十田 明宏	糖尿病・内分泌・栄養内科	講師	22年	
尾野 亘	循環器内科	講師	23年	
松浦 稔	消化器内科	助教	18年	
平井 豊博	呼吸器内科	准教授	13年	
大村 浩一郎	免疫・膠原病内科	准教授	25年	
鈴木 崇生	初期診療・救急科	講師	18年	
松本 理器	神経内科	特定准教授	19年	
松原 雄	腎臓内科	講師	17年	
松本 繁巳	がん薬物治療科	准教授	24年	
肥田 侯矢	消化管外科	助教	17年	
鈴木 栄治	乳腺外科	助教	10年	
上本 伸二	肝胆膵・移植外科	教授	33年	
上本 伸二	小児外科	教授	33年	
吉村 通央	放射線治療科	助教	16年	
山本 憲	放射線診断科	助教	20年	
宇治 彰人	眼科	特定助教	12年	
近藤 英治	産科婦人科	講師	16年	
平家 俊男	小児科	教授	35年	
藤澤 章弘	皮膚科	講師	13年	
神波 大己	泌尿器科	准教授	23年	
伊藤 壽一	耳鼻咽喉科	教授	39年	
大槻 文悟	整形外科	助教	17年	
諏訪 太朗	精神科神経科	助教	12年	
別所 和久	歯科口腔外科	教授	30年	

溝田 敏幸	麻酔科	助教	12年	
宮本 享	脳神経外科	教授	32年	
吉川 勝宇	形成外科	助教	15年	
坂田 隆造	心臓血管外科	教授	39年	
伊達 洋至	呼吸器外科	教授	29年	
羽賀 博典	病理診断科	教授	22年	
松村 康史	検査部・感染制御部	助教	11年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

溝田 敏幸	麻酔科	助教	12年	
宮本 享	脳神経外科	教授	32年	
吉川 勝宇	形成外科	助教	15年	
坂田 隆造	心臓血管外科	教授	39年	
伊達 洋至	呼吸器外科	教授	29年	
羽賀 博典	病理診断科	教授	22年	
松村 康史	検査部・感染制御部	助教	11年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数</p> <p>看護職員に対して、「糖尿病療養指導の基礎知識」・「透析看護」・「重症集中ケア」等の全体研修を1年間で42回実施し、合計1,233名の参加があった。</p> <p>薬剤師に対して、「フィジカルアセスメント研修会」として薬剤による副作用の早期発見・防止に関する研修会を1年間で8回実施し、合計30名の参加があった。</p> <p>管理栄養士に対して、病態栄養に関する研修を1年間で10回実施し、合計130名の参加があった。</p>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数</p> <p>看護師の管理者に対して、「管理者研修」・「実習指導者研修」などの研修を1年間で9回実施し、合計329名の参加があった。</p> <p>看護師、薬剤師等に対して、「がんチーム医療研修」としてがん化学療法における薬物療法に関する最新の知識、技術に関する研修を1年間で6回実施し、合計60名の参加があった。</p> <p>放射線技師に対して、「診療業務ステップアップ」・「医療被ばく」に関する研修を1年間で9回実施し、合計1306名の参加があった。</p>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<p>・研修の主な内容</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>・研修の参加人数</p>

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告(平成25年度実績)においては、平成二十六年四月以降の実績(計画)を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかにすること)。



## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 三嶋 理晃	
管理担当者氏名	薬剤部長 松原 和夫 医務課長 中村 正次 医療サービス課長 恒吉 祐治 感染制御部長 一山 智	総務課長 伊野 哲也 医療安全管理室長 松村 由美 医療情報企画部長 黒田 知宏 医療器材部長 坂井 義治

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 各科診療日誌、手術記録、看護記録、 検査所見記録、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書	診療科 及び 医務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>カルテは電子カルテと紙カルテの2種類を管理及び保管している。</li> <li>2005年に電子カルテを導入しており、それ以前の紙カルテについては20年の保存期間を設けて病歴管理室にて保管している。また、紙媒体で生成される各種検査資料及び同意書等については、原則、電子印章付きのスキヤナで取り込み、電子データを原本として電子カルテに保存している。</li> </ul>
エックス線写真	医務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>画像フィルムは、2013年4月に全てのモダリティのフィルムレス化を実施しており、それ以降、原則、現物保管はしていない。なお、フィルムレス化以前のフィルムについては、5年の保存期間を設けて病歴管理室にて保管している。</li> </ul>
処方せん	薬剤部	<ul style="list-style-type: none"> <li>カルテを病院外に持ち出すことは個人情報保護のため認めていない。</li> </ul>
病院日誌	総務課	
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
	高度の医療の提供の実績	医務課
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	医務課
	高度の医療の研修の実績	総務課
	閲覧実績	総務課
	紹介患者に対する医療提供 の実績	医務課
	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳簿	医務課・薬剤部
	第規 一則 号第 に一 掲条 掲条 の十 体一 制第 の一 確項 保各 の号	医療に係る安全管理 のための指針の整備状況
	医療に係る安全管理 のための委員会の開催 状況	医療安全管理室
	医療に係る安全管理 のための職員研修の実 施状況	医療安全管理室
	医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	医療安全管理室

	状況及び第九條の二十第一項	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	総務課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一條の十一第一項各号及び第九條の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療器材部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療器材部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療器材部	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療器材部			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	事務部長 山木宏明		
閲覧担当者氏名	総務課長 伊野哲也		
閲覧の求めに応じる場所	総務課内		
閲覧の手続の概要			
1. 閲覧申込	総務課		
2. 承認者	事務部長		
3. 閲覧方法	指定した日時総務課内		
4. 返却方法	当日総務課へ返却		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の1第1項各号及び第9条の2第3第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無																																												
<p>・指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 病院の基本理念</li><li>2. 院内の責任体制及び管理体制の明確化</li><li>3. 安全管理のための各種委員会の設置及びリスクマネージャーの配置並びに医療安全管理室の設置</li><li>4. 報告等に基づく医療に係る安全確保を目的とした改善方策</li><li>5. 医療事故発生時における対応について</li></ol>																																													
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回																																												
<p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療事故を防止する方策の検討及び実施</li><li>2. 医療事故防止マニュアル等の策定・改善・普及等</li><li>3. 発生した医療事故又は発生する危険のあった医療事故等に関する情報収集及び分析並びに防止のための改善策の検討・実施</li><li>4. 医療事故防止のための研修・講習・教育等の実施</li><li>5. 重要事例の対応決定</li><li>6. その他医療事故の防止に関する全般事項</li></ol>																																													
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 65 回																																												
<p>・ 研修の主な内容：</p>																																													
<table border="1"><thead><tr><th>開催日時</th><th>研修内容</th><th>講師</th><th>参加数</th></tr></thead><tbody><tr><td>平成25年4月10日</td><td>『謝罪するために法律は必要か?』</td><td>医療安全管理室 室長 松村由美</td><td>33名</td></tr><tr><td>平成25年4月17日</td><td>『患者にもやるべきことがあります!』</td><td>医療安全管理室 室長 松村由美</td><td>47名</td></tr><tr><td>平成25年4月23日</td><td>『みんなで取り組む感染対策と医療安全』</td><td>副病院長 一山 智</td><td>620名</td></tr><tr><td>平成25年4月25日</td><td>『医薬品安全使用のための研修会』</td><td>薬剤部 医薬品情報室 尾崎順子 抗がん剤調整室 池見泰明</td><td>219名</td></tr><tr><td>平成25年4月26日</td><td>『情報開示の成功例—実現したさまざまな利益—』</td><td>医療安全管理室 室長 松村由美</td><td>35名</td></tr><tr><td>平成25年5月28日</td><td>『みんなで取り組む感染対策と医療安全』 (DVD上映会)</td><td>副病院長 一山 智</td><td>45名</td></tr><tr><td>平成25年5月28日</td><td>『侵襲的処置前の安全確認:みんなで一緒に「さあ、い・こ・か!」』</td><td>医療安全管理室 室長 松村由美</td><td>74名</td></tr><tr><td>平成25年5月28日</td><td>『みんなで取り組む感染対策と医療安全』 (DVD上映会)</td><td>副病院長 一山 智</td><td>37名</td></tr><tr><td>平成25年5月29日</td><td>『みんなで取り組む感染対策と医療安全』 (DVD上映会)</td><td>副病院長 一山 智</td><td>44名</td></tr><tr><td>平成25年5月29日</td><td>『ヒューマンエラーはどう防ぐ?』</td><td>医療安全管理室 看護師長 辻田麻衣子</td><td>79名</td></tr></tbody></table>		開催日時	研修内容	講師	参加数	平成25年4月10日	『謝罪するために法律は必要か?』	医療安全管理室 室長 松村由美	33名	平成25年4月17日	『患者にもやるべきことがあります!』	医療安全管理室 室長 松村由美	47名	平成25年4月23日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』	副病院長 一山 智	620名	平成25年4月25日	『医薬品安全使用のための研修会』	薬剤部 医薬品情報室 尾崎順子 抗がん剤調整室 池見泰明	219名	平成25年4月26日	『情報開示の成功例—実現したさまざまな利益—』	医療安全管理室 室長 松村由美	35名	平成25年5月28日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』 (DVD上映会)	副病院長 一山 智	45名	平成25年5月28日	『侵襲的処置前の安全確認:みんなで一緒に「さあ、い・こ・か!」』	医療安全管理室 室長 松村由美	74名	平成25年5月28日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』 (DVD上映会)	副病院長 一山 智	37名	平成25年5月29日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』 (DVD上映会)	副病院長 一山 智	44名	平成25年5月29日	『ヒューマンエラーはどう防ぐ?』	医療安全管理室 看護師長 辻田麻衣子	79名
開催日時	研修内容	講師	参加数																																										
平成25年4月10日	『謝罪するために法律は必要か?』	医療安全管理室 室長 松村由美	33名																																										
平成25年4月17日	『患者にもやるべきことがあります!』	医療安全管理室 室長 松村由美	47名																																										
平成25年4月23日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』	副病院長 一山 智	620名																																										
平成25年4月25日	『医薬品安全使用のための研修会』	薬剤部 医薬品情報室 尾崎順子 抗がん剤調整室 池見泰明	219名																																										
平成25年4月26日	『情報開示の成功例—実現したさまざまな利益—』	医療安全管理室 室長 松村由美	35名																																										
平成25年5月28日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』 (DVD上映会)	副病院長 一山 智	45名																																										
平成25年5月28日	『侵襲的処置前の安全確認:みんなで一緒に「さあ、い・こ・か!」』	医療安全管理室 室長 松村由美	74名																																										
平成25年5月28日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』 (DVD上映会)	副病院長 一山 智	37名																																										
平成25年5月29日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』 (DVD上映会)	副病院長 一山 智	44名																																										
平成25年5月29日	『ヒューマンエラーはどう防ぐ?』	医療安全管理室 看護師長 辻田麻衣子	79名																																										

平成25年5月29日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	36名
平成25年5月30日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	42名
平成25年5月30日	『侵襲的処置前の安全確認:みんなで一緒に「さあ、い・こ・か!」』	医療安全管理室 室長 松村由美	63名
平成25年5月30日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	35名
平成25年5月30日	『臨床倫理概論』	文学研究科文化思想学専攻 准教授 児玉聡	254名
平成25年5月31日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	41名
平成25年5月31日	『薬剤誤投与事故から学ぶ情報共有の重要性』	医療安全管理室 室長 松村由美	67名
平成25年5月31日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	27名
平成25年6月3日	『安全な輸血をめざして(輸血マニュアルの要点)』	輸血細胞治療部 平位秀世	218名
平成25年6月4日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	41名
平成25年6月4日	『全職種対象「明日からできる!ミスをなくす工夫」』	医療安全管理室 室長 松村由美	82名
平成25年6月4日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	26名
平成25年6月5日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	22名
平成25年6月5日	『安全はコミュニケーションから』	医療安全管理室 看護師長 辻田麻衣子	50名
平成25年6月5日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	14名
平成25年6月5日	『本当のインフォームド・コンセントとは』	医学研究科 社会健康医学系専攻 准教授 佐藤 恵子	174名
平成25年6月6日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	28名
平成25年6月6日	『京大病院におけるクライシスマネジメント:重大事故が発生したら』	医療安全管理室 室長 松村由美	62名
平成25年6月6日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	35名
平成25年6月6日	『薬剤誤投与事故から学ぶ情報共有の重要性』	医療安全管理室 室長 松村由美	154名
平成25年6月7日	『安全はコミュニケーションから』	医療安全管理室 看護師長 辻田麻衣子	47名
平成25年6月7日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	18名
平成25年6月7日	『自殺予防の基礎知識』	京都市こころの健康増進センター 所長 精神科医 波床 将材	121名

平成25年10月29日	『知っておくと役立つ法律の知識：患者と医療者との関係をめぐって』	医療安全管理室 室長 松村由美	355名
平成25年11月25日	『ダブルチェックの落とし穴』	医療安全管理室 看護師長 辻田麻衣子	329名
平成25年11月28日	『機能共鳴型医療事故：臨機応変の光と影』	医療安全管理室 室長 松村由美	127名
平成25年12月5日	『問題行動患者への対応について～本院事例から学ぶ 2013～』	医療サービス課 担当掛	172名
平成25年12月16日	『本当のインフォームド・コンセントとは』 (DVD上映会)	医学研究科 社会健康医学系専攻 准教授 佐藤 恵子	3名
平成25年12月16日	『ダブルチェックの落とし穴』 (DVD上映会)	医療安全管理室 看護師長 辻田麻衣子	10名
平成25年12月16日	『機能共鳴型医療事故：臨機応変の光と影』 (DVD上映会)	医療安全管理室 室長 松村由美	4名
平成25年12月16日	『京大病院におけるクライシスマネジメント：重大事故が発生したら』	医療安全管理室 室長 松村由美	4名
平成25年12月16日	『ダブルチェックの落とし穴』 (DVD上映会)	医療安全管理室 看護師長 辻田麻衣子	11名
平成25年12月17日	『安全はコミュニケーションから』 (DVD上映会)	医療安全管理室 看護師長 辻田麻衣子	10名
平成25年12月17日	『問題行動患者への対応について～本院事例から学ぶ 2013～』 (DVD上映会)	医療サービス課 担当掛	6名
平成25年12月17日	『ダブルチェックの落とし穴』 (DVD上映会)	医療安全管理室 看護師長 辻田麻衣子	5名
平成25年12月17日	『臨床倫理概論』 (DVD上映会)	文学研究科文化思想学専攻 准教授 児玉聡	3名
平成25年12月18日	『ダブルチェックの落とし穴』 (DVD上映会)	医療安全管理室 看護師長 辻田麻衣子	3名
平成25年12月18日	『京大病院におけるクライシスマネジメント：重大事故が発生したら』 (DVD上映会)	医療安全管理室 室長 松村由美	4名
平成25年12月18日	『機能共鳴型医療事故：臨機応変の光と影』 (DVD上映会)	医療安全管理室 室長 松村由美	4名
平成25年12月18日	『問題行動患者への対応について～本院事例から学ぶ 2013～』 (DVD上映会)	医療サービス課 担当掛	7名
平成25年12月19日	『薬剤誤投与事故から学ぶ情報共有の重要性』 (DVD上映会)	医療安全管理室 室長 松村由美	4名
平成25年12月19日	『全職種対象「明日からできる！ミスをなくす工夫」』 (DVD上映会)	医療安全管理室 室長 松村由美	8名
平成25年12月19日	『ダブルチェックの落とし穴』 (DVD上映会)	医療安全管理室 看護師長 辻田麻衣子	8名
平成25年12月19日	『機能共鳴型医療事故：臨機応変の光と影』 (DVD上映会)	医療安全管理室 室長 松村由美	5名
平成25年12月20日	『ダブルチェックの落とし穴』 (DVD上映会)	医療安全管理室 看護師長 辻田麻衣子	19名
平成25年12月20日	『問題行動患者への対応について～本院事例から学ぶ 2013～』 (DVD上映会)	医療サービス課 担当掛	15名

平成25年12月20日	『自殺予防の基礎知識』（DVD上映会）	京都市こころの健康増進センター 所長 精神科医 波床 将材	4名
平成25年12月20日	『安全な輸血をめざして（輸血マニュアルの要点）』（DVD上映会）	輸血細胞治療部 平位秀世	5名
平成25年12月25日	『知っておくと役立つ法律の知識：患者と医療者との関係をめぐって』	医療安全管理室 室長 松村由美	37名
平成26年1月7日	『ソーリー・ワークス：有害事象発生後の病院の対応』	医療安全管理室 室長 松村由美	38名
平成26年1月27日	『電子カルテの落とし穴、インターネットの落とし穴』	医療情報企画部 教授 黒田知宏	96名
平成26年2月5日	『転倒予防の考え方』	国際長寿医療研究センター 病院長 鳥羽研二	150名
平成26年2月20日	『B型肝炎ウイルス再活性化予防対策指針～京大病院の戦略～』	医療安全管理部・消化器内科 感染制御部・薬剤部	121名
平成26年3月10日	『重大医療過誤を防御できる組織形成へ～輸血取違い事故から学ぶ』	医療安全管理室 室長 松村由美 輸血細胞治療部 部長 前川 平	333名
平成26年3月11日	『造影剤から腎臓をまもろう！！』	放射線診断部 助教 金柿光憲 腎臓内科 准教授 塚本達雄	130名

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・医療機関内における事故報告等の整備（有・無）
- ・その他の改善のための方策の主な内容：
  1. 各種安全管理マニュアル・指針等の整備と運用状況のモニター、改訂作業
  2. 安全に関する部門連携・委員会活動
    - ・医療安全管理委員会の定期開催
    - ・リスクマネージャー会議の定期開催
    - ・多職種間（部門横断的）インシデント検討会の定期開催
    - ・各種WGの臨時開催
    - ・院内転倒転落事故防止委員会の定期開催
  3. 職員への安全教育
    - ・講演会・講習会・DVD上映会・院内事例報告会
    - ・医療安全ニュースの配信

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 有（3名）・無

⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 有（5名）・無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 有・無

- ・所属職員：専任（3）名 兼任（9）名
- ・活動の主な内容：
  1. 医療事故発生時の初動対応と事例調査
  2. 各種安全管理マニュアル・指針等の整備と運用状況のモニター、改訂作業
  3. 各部門からのインシデント・アクシデントレポート収集と、サーベイランス・分析・対策立案
  4. 医療安全に関する部門連携・委員会活動
  5. 職員、学生等への医療安全教育
  6. 医療安全における大学間・病院間・地域間連携

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 有・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無																																																				
<p>・指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・感染対策に関する基本方針</li><li>・感染対策組織の概要</li><li>・関連委員会及び会議の開催</li><li>・感染制御部（ICT）の業務内容 教育、サーベイランス等</li><li>・感染アウトブレイク（集団発生）時の対応</li><li>・患者等に対する指針の閲覧に関する方針</li></ul>																																																					
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 40 回																																																				
<p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・感染症予防対策委員会 1回/月</li><li>・感染制御部（ICT）会議 2回/月</li><li>・感染対策業務会議 4回/年</li></ul>																																																					
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 56 回																																																				
<p>・研修の主な内容：</p> <table border="1"><thead><tr><th>開催日時</th><th>研修内容</th><th>講師</th><th>参加数</th></tr></thead><tbody><tr><td>平成25年4月23日</td><td>『みんなで取り組む感染対策と医療安全』</td><td>副病院長 一山 智</td><td>620名</td></tr><tr><td>平成25年5月27日</td><td>『京大病院感染対策方針と2013年度の重点課題』</td><td>感染制御部 副部長 高倉俊二</td><td>271名</td></tr><tr><td>平成25年5月28日</td><td>『みんなで取り組む感染対策と医療安全』（DVD上映会）</td><td>副病院長 一山 智</td><td>45名</td></tr><tr><td>平成25年5月28日</td><td>『抗菌薬の適正使用について』</td><td>感染制御部 松村 康史</td><td>63名</td></tr><tr><td>平成25年5月28日</td><td>『みんなで取り組む感染対策と医療安全』（DVD上映会）</td><td>副病院長 一山 智</td><td>37名</td></tr><tr><td>平成25年5月28日</td><td>『抗菌薬の適正使用について』</td><td>感染制御部 松村 康史</td><td>149名</td></tr><tr><td>平成25年5月29日</td><td>『みんなで取り組む感染対策と医療安全』（DVD上映会）</td><td>副病院長 一山 智</td><td>44名</td></tr><tr><td>平成25年5月29日</td><td>『標準予防策・手指衛生について』</td><td>感染制御部 橋本明子</td><td>44名</td></tr><tr><td>平成25年5月29日</td><td>『みんなで取り組む感染対策と医療安全』（DVD上映会）</td><td>副病院長 一山 智</td><td>36名</td></tr><tr><td>平成25年5月29日</td><td>『針刺し・血液曝露対策について』</td><td>感染制御部 橋本明子</td><td>180名</td></tr><tr><td>平成25年5月30日</td><td>『みんなで取り組む感染対策と医療安全』（DVD上映会）</td><td>副病院長 一山 智</td><td>42名</td></tr><tr><td>平成25年5月30日</td><td>『京大病院感染対策方針と2013年度の重点課題』</td><td>感染制御部 副部長 高倉俊二</td><td>60名</td></tr></tbody></table>		開催日時	研修内容	講師	参加数	平成25年4月23日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』	副病院長 一山 智	620名	平成25年5月27日	『京大病院感染対策方針と2013年度の重点課題』	感染制御部 副部長 高倉俊二	271名	平成25年5月28日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』（DVD上映会）	副病院長 一山 智	45名	平成25年5月28日	『抗菌薬の適正使用について』	感染制御部 松村 康史	63名	平成25年5月28日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』（DVD上映会）	副病院長 一山 智	37名	平成25年5月28日	『抗菌薬の適正使用について』	感染制御部 松村 康史	149名	平成25年5月29日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』（DVD上映会）	副病院長 一山 智	44名	平成25年5月29日	『標準予防策・手指衛生について』	感染制御部 橋本明子	44名	平成25年5月29日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』（DVD上映会）	副病院長 一山 智	36名	平成25年5月29日	『針刺し・血液曝露対策について』	感染制御部 橋本明子	180名	平成25年5月30日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』（DVD上映会）	副病院長 一山 智	42名	平成25年5月30日	『京大病院感染対策方針と2013年度の重点課題』	感染制御部 副部長 高倉俊二	60名
開催日時	研修内容	講師	参加数																																																		
平成25年4月23日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』	副病院長 一山 智	620名																																																		
平成25年5月27日	『京大病院感染対策方針と2013年度の重点課題』	感染制御部 副部長 高倉俊二	271名																																																		
平成25年5月28日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』（DVD上映会）	副病院長 一山 智	45名																																																		
平成25年5月28日	『抗菌薬の適正使用について』	感染制御部 松村 康史	63名																																																		
平成25年5月28日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』（DVD上映会）	副病院長 一山 智	37名																																																		
平成25年5月28日	『抗菌薬の適正使用について』	感染制御部 松村 康史	149名																																																		
平成25年5月29日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』（DVD上映会）	副病院長 一山 智	44名																																																		
平成25年5月29日	『標準予防策・手指衛生について』	感染制御部 橋本明子	44名																																																		
平成25年5月29日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』（DVD上映会）	副病院長 一山 智	36名																																																		
平成25年5月29日	『針刺し・血液曝露対策について』	感染制御部 橋本明子	180名																																																		
平成25年5月30日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』（DVD上映会）	副病院長 一山 智	42名																																																		
平成25年5月30日	『京大病院感染対策方針と2013年度の重点課題』	感染制御部 副部長 高倉俊二	60名																																																		



平成25年5月30日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	35名
平成25年5月31日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	41名
平成25年5月31日	『針刺し・血液曝露対策について』	感染制御部 橋本明子	54名
平成25年5月31日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	27名
平成25年5月31日	『標準予防策・手指衛生について』	感染制御部 橋本明子	123名
平成25年6月4日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	41名
平成25年6月4日	『京大病院感染対策方針と2013年度の重点課題』	感染制御部 副部長 高倉俊二	68名
平成25年6月4日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	26名
平成25年6月4日	『耐性菌とその対応について』	感染制御部 山本正樹	150名
平成25年6月5日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	22名
平成25年6月5日	『耐性菌とその対応について』	感染制御部 山本正樹	49名
平成25年6月5日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	14名
平成25年6月6日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	28名
平成25年6月6日	『針刺し・血液曝露対策について』	感染制御部 橋本明子	62名
平成25年6月6日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	35名
平成25年6月7日	『標準予防策・手指衛生について』	感染制御部 橋本明子	45名
平成25年6月7日	『みんなで取り組む感染対策と医療安全』(DVD上映会)	副病院長 一山 智	18名
平成25年11月25日	『インフルエンザと感染性胃腸炎の院内感染対策』	感染制御部 長尾 美紀	329名
平成25年12月6日	『プロカルシトニン(PCT)検査を用いた抗菌薬治療の適正化』	感染制御部 副部長 高倉俊二	198名
平成25年12月16日	『結核に対する院内感染予防策』	感染制御部 伊藤 穰	113名
平成25年12月16日	『耐性菌とその対応について』(DVD上映会)	感染制御部 山本正樹	9名
平成25年12月16日	『インフルエンザと感染性胃腸炎の院内感染対策』(DVD上映会)	感染制御部 長尾 美紀	10名
平成25年12月16日	『抗菌薬の適正使用について』(DVD上映会)	感染制御部 松村 康史	6名
平成25年12月16日	『耐性菌とその対応について』(DVD上映会)	感染制御部 山本正樹	3名
平成25年12月16日	『インフルエンザと感染性胃腸炎の院内感染対策』(DVD上映会)	感染制御部 長尾 美紀	11名
平成25年12月17日	『標準予防策・手指衛生について』(DVD上映会)	感染制御部 橋本明子	16名

平成25年12月17日	『針刺し・血液曝露対策について』 (DVD上映会)	感染制御部 橋本明子	7名
平成25年12月17日	『インフルエンザと感染性胃腸炎の院内感染対策』 (DVD上映会)	感染制御部 長尾 美紀	5名
平成25年12月17日	『針刺し・血液曝露対策について』 (DVD上映会)	感染制御部 橋本明子	5名
平成25年12月18日	『インフルエンザと感染性胃腸炎の院内感染対策』 (DVD上映会)	感染制御部 長尾 美紀	3名
平成25年12月18日	『標準予防策・手指衛生について』 (DVD上映会)	感染制御部 橋本明子	8名
平成25年12月18日	『京大病院感染対策方針と2013年度の重点課題』 (DVD上映会)	感染制御部 副部長 高倉俊二	6名
平成25年12月18日	『プロカルシトニン (PCT) 検査を用いた抗菌薬治療の適正化』 (DVD上映会)	感染制御部 副部長 高倉俊二	4名
平成25年12月19日	『標準予防策・手指衛生について』 (DVD上映会)	感染制御部 橋本明子	6名
平成25年12月19日	『針刺し・血液曝露対策について』 (DVD上映会)	感染制御部 橋本明子	5名
平成25年12月19日	『標準予防策・手指衛生について』 (DVD上映会)	感染制御部 橋本明子	12名
平成25年12月19日	『インフルエンザと感染性胃腸炎の院内感染対策』 (DVD上映会)	感染制御部 長尾 美紀	8名
平成25年12月19日	『プロカルシトニン (PCT) 検査を用いた抗菌薬治療の適正化』 (DVD上映会)	感染制御部 副部長 高倉俊二	7名
平成25年12月20日	『抗菌薬の適正使用について』 (DVD上映会)	感染制御部 松村 康史	13名
平成25年12月20日	『インフルエンザと感染性胃腸炎の院内感染対策』 (DVD上映会)	感染制御部 長尾 美紀	19名
平成25年12月20日	『プロカルシトニン (PCT) 検査を用いた抗菌薬治療の適正化』 (DVD上映会)	感染制御部 副部長 高倉俊二	8名
平成25年12月20日	『耐性菌とその対応について』 (DVD上映会)	感染制御部 山本正樹	10名
平成25年2月13日	『HIV診療についての最近の話題』	血液・腫瘍内科 助教 小林正行	63名
平成26年2月20日	『B型肝炎ウイルス再活性化予防対策指針～京大病院の戦略～』	医療安全管理部・消化器内科 感染制御部・薬剤部	121名

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・病院における発生状況の報告等の整備 (  有・無 )
- ・その他の改善のための方策の主な内容：
  1. 感染対策サーベイランスの実施
    - ・薬剤耐性菌サーベイランス
    - ・カテーテル関連血流感染サーベイランス
    - ・手術部位感染サーベイランス
    - ・感染性胃腸炎サーベイランス
    - ・上気道症状サーベイランス

## 2. 職業感染防止と曝露後の対応

- ・ 針刺しの原因分析と防止対策
- ・ 抗体価の確認とワクチン接種
- ・ 曝露後の対応（血液体液曝露、結核、麻疹、水痘等）

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有 無																										
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 13 回																										
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>医薬品での事故防止に係る本院職員の意識改革と安全管理、及び薬剤師としての資質向上のため次の通り研修会等を開催した。</p> <p>全職種を対象</p> <p>◆ (医薬品安全使用のための研修会)</p> <p>日時：平成 25 年 4 月 25 日 (水) 17:15～ (約 30 分程度) 参加人数：221 名</p> <ol style="list-style-type: none"><li>『薬剤オーダーリングシステムとよくある質問』 講演者：薬剤部 医薬品情報室 尾崎淳子</li><li>『薬剤部でミキシングを行う注射薬の注意点』 講演者：薬剤部 抗がん剤調製室 池見泰明</li></ol> <p>薬剤師を対象</p> <p>◆ (医薬品安全使用のための説明会)</p> <p>新規採用医薬品の説明会を毎月開催し、新規採用医薬品の説明と位置づけ及び添付文書改訂情報、安全性情報、医薬品の取扱い等についての説明と情報の共有化を図っている。</p> <table border="0"><thead><tr><th>開催年月日</th><th>参加人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>平成 25 年 4 月 2 日 (火)</td><td>32 名</td></tr><tr><td>平成 25 年 5 月 8 日 (水)</td><td>37 名</td></tr><tr><td>平成 25 年 6 月 6 日 (木)</td><td>41 名</td></tr><tr><td>平成 25 年 7 月 3 日 (水)</td><td>38 名</td></tr><tr><td>平成 25 年 8 月 1 日 (木)</td><td>31 名</td></tr><tr><td>平成 25 年 9 月 5 日 (木)</td><td>30 名</td></tr><tr><td>平成 25 年 10 月 9 日 (水)</td><td>35 名</td></tr><tr><td>平成 25 年 11 月 7 日 (木)</td><td>36 名</td></tr><tr><td>平成 25 年 12 月 4 日 (水)</td><td>40 名</td></tr><tr><td>平成 26 年 1 月 10 日 (金)</td><td>28 名</td></tr><tr><td>平成 26 年 2 月 3 日 (月)</td><td>34 名</td></tr><tr><td>平成 26 年 3 月 3 日 (月)</td><td>32 名</td></tr></tbody></table>		開催年月日	参加人数	平成 25 年 4 月 2 日 (火)	32 名	平成 25 年 5 月 8 日 (水)	37 名	平成 25 年 6 月 6 日 (木)	41 名	平成 25 年 7 月 3 日 (水)	38 名	平成 25 年 8 月 1 日 (木)	31 名	平成 25 年 9 月 5 日 (木)	30 名	平成 25 年 10 月 9 日 (水)	35 名	平成 25 年 11 月 7 日 (木)	36 名	平成 25 年 12 月 4 日 (水)	40 名	平成 26 年 1 月 10 日 (金)	28 名	平成 26 年 2 月 3 日 (月)	34 名	平成 26 年 3 月 3 日 (月)	32 名
開催年月日	参加人数																										
平成 25 年 4 月 2 日 (火)	32 名																										
平成 25 年 5 月 8 日 (水)	37 名																										
平成 25 年 6 月 6 日 (木)	41 名																										
平成 25 年 7 月 3 日 (水)	38 名																										
平成 25 年 8 月 1 日 (木)	31 名																										
平成 25 年 9 月 5 日 (木)	30 名																										
平成 25 年 10 月 9 日 (水)	35 名																										
平成 25 年 11 月 7 日 (木)	36 名																										
平成 25 年 12 月 4 日 (水)	40 名																										
平成 26 年 1 月 10 日 (金)	28 名																										
平成 26 年 2 月 3 日 (月)	34 名																										
平成 26 年 3 月 3 日 (月)	32 名																										
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況																											
<p>・ 手順書の作成 (有 無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 医薬品の採用に関すること</li><li>2. 医薬品の購入に関すること</li><li>3. 薬剤部における医薬品の管理に関すること</li><li>4. 病棟・各部門への医薬品の供給に関すること</li><li>5. 外来患者への医薬品使用に関すること</li></ol>																											

6. 病棟における医薬品の管理に関すること
7. 入院患者への医薬品使用に関すること
8. 医薬品の適正使用に関すること
9. 医薬品の安全使用に係る情報に関すること
10. 他施設（医療機関・薬局等）との連携に関すること

以上の業務内容について、平成 25 年 12 月 27 日（金）～平成 26 年 1 月 15 日（水）に手順書に基づく業務の実施状況を調査した。

各病棟における調査者は病棟担当薬剤師と安全管理担当副部長、R I 棟は安全管理担当副部長、薬剤部内の調査者は各部署リーダーとした。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( ( 有 ) ・ 無 )

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- 1) 医師からの採用依頼があった新規医薬品に関して、採用開始 6 ヶ月及び 1 年後に、採用を申し出た医師に対して「新規採用医薬品副作用予備調査票」を送付・回収することにより、院内で発生した副作用情報を収集している。
- 2) 医療安全管理担当として副薬剤部長 1 名が兼任し、毎週開催される安全管理ミーティングにて院内の情報を収集、業務改善を協議すると共に、医薬品関連のインシデントレポートをもとに薬剤部内で警鐘事例を共有している。薬剤業務改善の方策を立てることで医薬品安全使用の質的改善を推進している。
- 3) 処方・注射オーダーリングシステムに対し、インシデントレポートで提議された報告を基に薬剤誤投与防止機能を運用を含めて修正し、医師の業務負担を軽減し、医療事故を未然に防止すると共に、必要なデータベースを構築し、維持・管理している。
- 4) 全職員を対象に、アラートメールを通じた医薬品等安全性情報、緊急安全性情報等の配布、緊急通告や医薬品の採用・削除などの医薬品情報を発信している。
- 5) 医師との連携により、院外処方せん交付患者に対して初回投与時の抗がん剤の服薬指導を行い、副作用等の説明及びその対処を指導して、医薬品安全使用を推進している。
- 6) 入院患者の持参薬の内容確認を薬剤師が行い、患者と面談して服薬状況等を情報収集するとともに、個々の患者に合わせたより適正な使用となるよう、医師に服薬計画を提案している。
- 7) 地域保険薬局との連携の一環として、患者の検査値の一部を院外処方せんに記載している。保険薬局で処方監査時に検査値を参照することで、適正で安全な薬物療法推進につながる。
- 8) 保険薬局にて患者から聴き取った情報のうち、即時性は低いものの「処方医師への提供が望ましい」と判断された内容を服薬情報提供書(トレーシングレポート)で受け付けている。薬剤部にて集約したのち、医師へ情報提供を行い、情報の共有化を図っている。

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年64回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 平成25年4月に新人看護師及び研修医を対象とした輸液・シリンジポンプの使用方法について研修を実施した。</li><li>・ 平成25年度中に計40回、医師・看護師・臨床工学技士を対象として人工呼吸器・血液浄化装置・除細動器・人工心肺装置及び補助循環装置等の安全な使用方法についての研修を実施した。</li><li>・ 平成25年4月（1回）・5月（1回）に、従業者を対象とした移動型透視装置新規導入における安全な使用方法についての研修を実施した。</li><li>・ 平成25年4月（4回）に、従業者を対象とした血管造影装置新規導入における安全な使用方法についての研修を実施した。</li><li>・ 平成25年11月（2回）に、従業者を対象としたハイブリッド手術室装置新規導入における安全な使用方法についての研修を実施した。</li><li>・ 平成25年11月（1回）に、従業者を対象としたパノラマ撮影装置及びデンタル撮影装置新規導入における安全な使用方法についての研修を実施した。</li><li>・ 平成25年12月（2回）、平成26年1月（4回）・2月（1回）・3月（3回）に、従業者を対象としたX線撮影装置新規導入における安全な使用方法についての研修を実施した。</li><li>・ 平成26年3月（1回）に、従業者を対象とした移動型X線撮影装置新規導入における安全な使用方法についての研修を実施した。</li><li>・ 平成25年6月（1回）・8月（1回）、平成26年2月（1回）に、従業者を対象とした診療用高エネルギー放射線発生装置及び診療用放射線照射装置における安全な使用方法についての研修を実施した。</li></ul></li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画の策定 (有・無)</li><li>・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 各医療機器の点検周期に沿って臨床工学技士による点検とメーカーによる点検を実施している。<ul style="list-style-type: none"><li>→臨床工学技士の点検においては、実施可能なバッテリー交換・各種センサー・フィルター等の定期交換を実施している。</li><li>→高度な技術を要する修理、オーバーホールはメーカーに依頼している。</li></ul></li><li>・ 放射線機器について年度点検実施計画を作成し、各部門担当者を決めて定期的な点検を実施している。</li></ul></li></ul>	

④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (  有 ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - ・ 医療機器に関する安全性情報は医療安全管理室と協力して医療従事者に周知する体制をとっている。
  - ・ 医療機器の安全使用を目的として、中央管理機種~~の~~統一を推し進めている。
  - ・ 臨床工学技士が随時医療機器の安全な使用状況確認のための巡回を行っている。
  - ・ 医療機器関連のインシデント・アクシデント報告の周知と改善策の検討を行っている。
  - ・ メーカーおよび学会からの安全情報の周知とPMDAの医療機器情報の確認を行っている。
  - ・ 医療機器の添付文章の現場確認と電子化を行っている。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院のホームページ ( <a href="http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/">http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/</a> ) 及び広報誌「京大病院広報」( <a href="http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/outline/pr.html">http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/outline/pr.html</a> ) により、最新ニュース、最先端医療や各診療科の紹介、院内活動の報告等を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 「集学的がん診療ユニット」として、そのがんを専門とする内科医・外科医・放射線治療医、あるいは病理診断医・放射線診断医・各種医療スタッフが、同一の外来で診療科横断的に診療を行い、客観的で迅速な診療方針の決定を可能としている。また、定期的にケースカンファレンスを実施し、互いの知識を共有することで治療の質を高め、専門医・専門スタッフの教育の場としても大きな効果を上げている。	